JUKI

使用説明書

正しいミシンの使い方

ジューキミシン 電子スーパーオートジグザグ HZL-5000型

電子フローラ

このたびは、ジューキミシン電子フローラ(HZL-5000型)をお買い求めいただき、ありがとうございました。

今日からあなたのホームソーイングプランのパートナーとなりましたHZL-5000型は、美しい直線縫いとホームソーイングに適した実用縫いはもちろんのこと、袖つけ、カフスつけやズボン等の筒縫いが簡単にできるフリーアームミシンです。さらには、使い易さと縫う楽しさを追求したジューキ独自の数々の特長を備えた電子ジグザグミシンです。たとえば世界で初めての自動糸切り装置を備え、針自動糸通し装置、自動ボタン穴かがり縫い、電子スピード制御装置等、使いやすく、より簡単で、より楽しいホームソーイングができることを確信してお届け致しました。

この優れた数々の機能を楽しくご使用頂くためには、ミシンの正しい取り扱いが基本となります。どうぞ、この使用説明書をよくお読み頂き、楽しいホームソーイングのパートナーとして末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

万一ミシンについておわかりにならないことや、ご不審な点がありましたら、弊社支店並びにサービスセンターへ、ご遠慮なくお申し出ください。ただちに係員を参上させ、アフターサービスに万全をつくし、ご奉仕申し上げます。

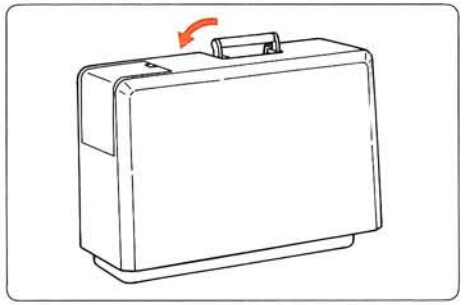
お買い上げ頂きました電子ミシンは、半導体電子部品を採用した精密な電子回路を内蔵しておりますので、次の事項を守ってご使用ください。

●ご使用になる部屋の温度が著しく低い場合、回転が低下する等正常に作動しないことがありますので、5℃～40℃の範囲でお使いください。

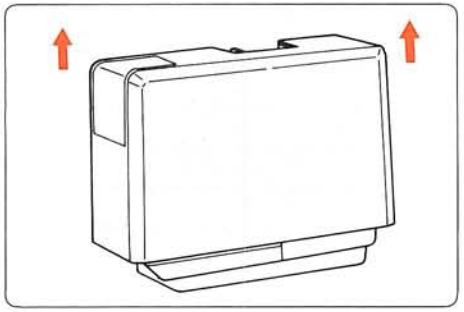
●この電子ミシンに内蔵のモーターは、電子制御により、低速から高速回転まで、自在にコントロールが可能なモーターを採用しております。特に低速縫いを長時間行なった場合、モーターの異状発熱を防ぐため、自動的に安全装置が働きモーターの電気回路が切れるしくみになっています。ご使用中万一モーターが止った場合、電源スイッチを切りしばらく(約20分間)お待ち頂けば安全装置が復帰し正常にご使用できます。ご不審な点がありましたら弊社支店、またはサービスセンターにご一報ください。

○使用前の準備 ページ
ケースのとりはずし方・各部の名称とはたらき……2・3
○使い方の基本 ページ
ステッチパネルと各模様の縫い目の長さ……4
押えと各模様の関係……5
押えのとりはずし・とりつけ方……6
平ベッドとフリーアーム……7
下糸の巻き方……8
ボビンをボビンケースに入れる方法……9
上糸のかけ方……10・11
針への糸通し（針自動糸通しの使い方）……12
ミシンの動かし方……13
自動糸切り（縫い終った糸の処理）……14
布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方……15
針について……16
いろいろな縫い方のガイド……17
○基本的な縫い方 ページ
直線縫い……18・19・20・21
はし縫い……22・23
ジグザグ縫い……24・25
○実用縫いと応用縫いのいろいろ ページ
裁ち目かがり（縁かがり）……26・27
自動ボタン穴かがり……28・29・30
筒縫い（フリーアーム）……31
ファスナーつけ……32・33・34・35
コンシールファスナーつけ……36・37
ブラインドステッチ（まつり縫い）……38・39
伸縮強化縫い（ストレッチステッチ）……40・41
三点ジグザグ縫い（エラスチックステッチ）……42・43
ボタンつけ……44・45
アップリケ……46・47
ひもつけ（コーディング）……48・49
三つ巻き縫い……50・51
キルティング……52
レースつけ……53
パッチワーク……54
スモッキング……55
ピンタック……56
シェルタック……57
シャーリング……58
ドロンワーク……59
しつけ縫い……60・61
ししゅう……62
上送り……63
縫い代の重なっている部分のボタン穴かがり……64
下糸巻き調整・ランプ交換・定規の使い方……65
○コントローラーについて（コントローラーお買い上げのお客様へ） ページ（別売）
コントローラーを使ったときのミシンの動かし方……66
コントローラー使用時のしつけ縫い……67
○ミシンの調子が悪いとき ページ
ミシンの手入れ……68
故障の原因と修理……69・70
修理サービスのご案内……71

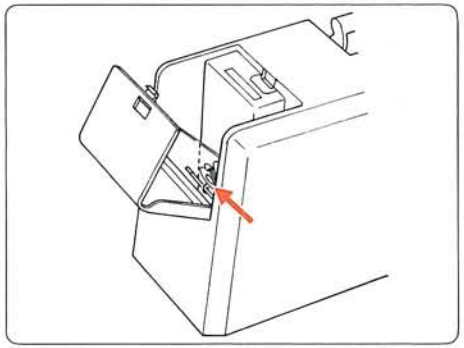
●ケースのとりはずし方



①ハンドルをたおします。

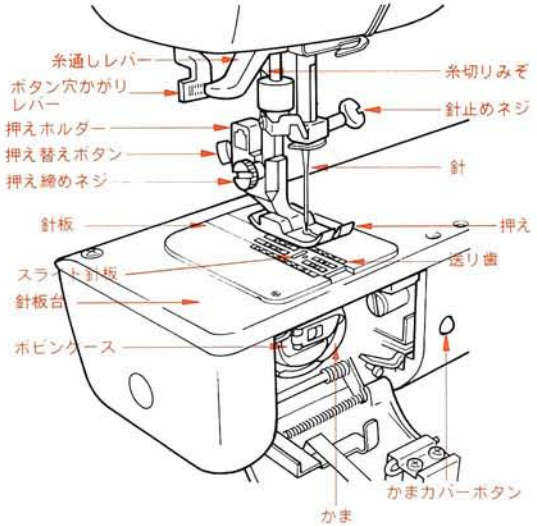


②ケースを持ち上げます。

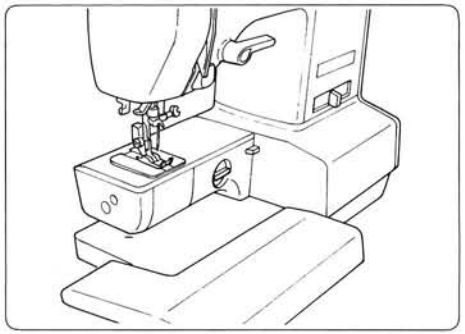


ケース内には付属品が格納されています。

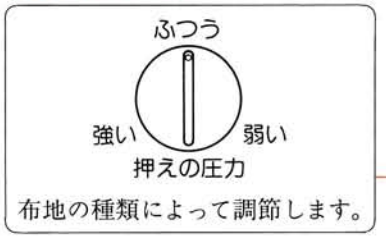
●各部の名称とはたらき



フリーアーム（7ページ参照）

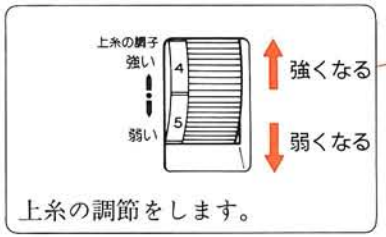


押え調節つまみ（15ページ参照）



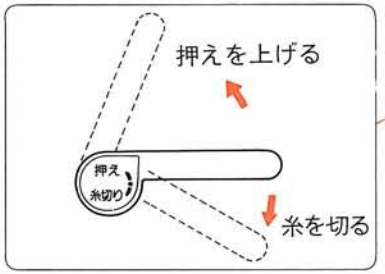
布地の種類によって調節します。

糸調子ダイヤル（15ページ参照）

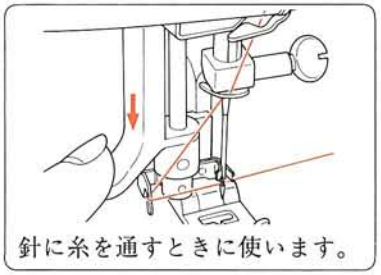


上糸の調節をします。

押え上げ・糸切りレバー（14ページ参照）



針自動糸通し（12ページ参照）



針に糸を通すときに使います。

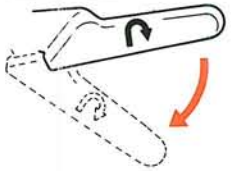
スタート・ストップボタン（13ページ参照）

ミシンをスタート・ストップさせるボタンです。

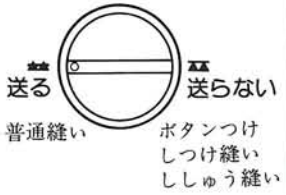
糸巻糸案内

面部カバー

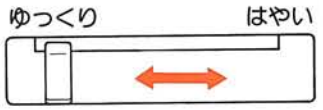
押え格納ふた
ステッチパネル
アーム カバー
糸巻軸
糸立て棒
糸巻調節軸
押え格納ふたボタン
ボタン穴かがり微調整ダイヤル
はずみ車(プーリー)
模様選択ダイヤル
送り表示(縫い目の長さ表示)
JUKI Fiora 5000
コードリール
送り調節ダイヤル(4ページ参照)
電源ランプスイッチ
平ベッド
フリーアーム
返し縫いレバー(13ページ参照)
ドロップフィードつまみ
縫い速度調節レバー



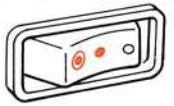
レバーを押している間だけ、返し縫いができます。



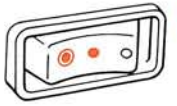
送り歯を上下させます。



縫い速度は低速から高速まで無段階に調節できます。



○を押すと
電源が切れます。



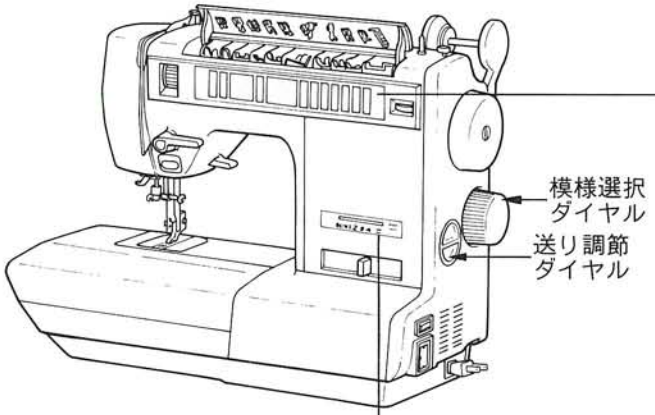
●にすると
電源が入り、ミシンを使用できますがランプはつきません。

◉を押すと
ランプがつきミシンも使用できます。

縫い目の長さは送り指標で表示されます。

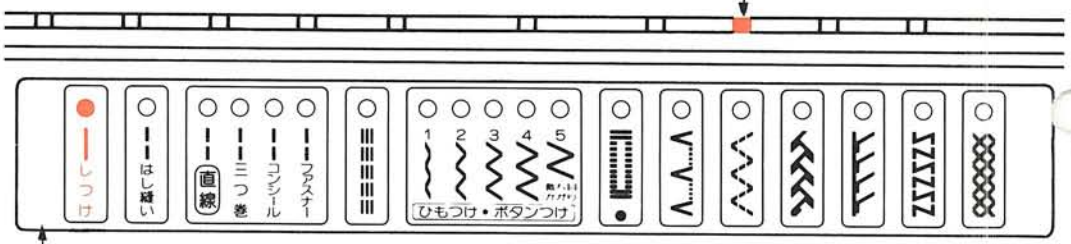
縫い目の長さを調節します。

ステッチパネルと各模様の縫い目の長さ



●ステッチパネル（模様選択のし方）

模様を選択すると同時に表示ランプ(LED)がついて押えの入っている位置もわかります。

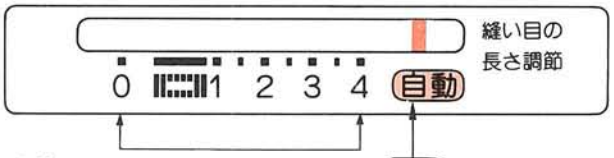


模様選択ダイヤルを回して模様を選択します。ダイヤルを手前に回すと模様は右に反対に回すと左に動きます。

※模様が正しくセットされないときは、電子音が鳴り続けます。

●送り調節のし方

送り調節ダイヤルを回し、右の表を基準に縫い目の長さを選びます。

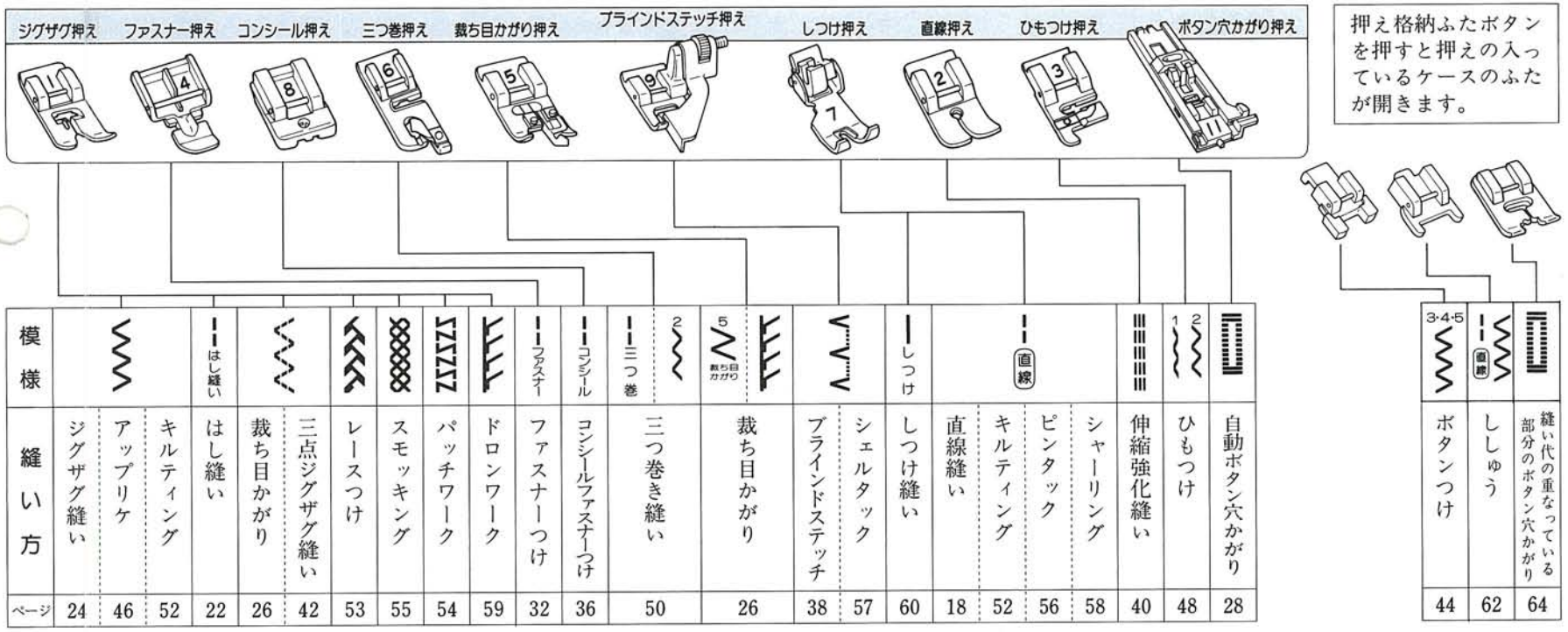


<手動>0から4に向かって縫い目が大きくなります。

自動は標準的な縫い目がセットされます。

●各模様の縫い目の長さ

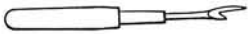
模様		しつけ	はし縫い	直線	三つ巻	コンシール	ファスナー		1	2	3	4	5 数ち目かがり	ひもつけ・ボタンつけ						
縫い目の長さ	自動		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3		2.2	1.3	2.3	2.3	2.3	2.3
	手動		0～4	0～4	1～4	1～4	1～4		0～4	0～4	0～4	0～4	0～4	0.2～1	0.5～4	0.5～4				



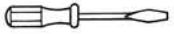
●付属品

○ボビン(4個)

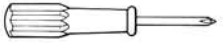
○リッパー(糸ほどき)



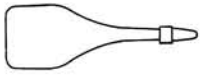
○ドライバー(小)



○ドライバー(中)

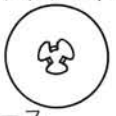


○油さし



○掃除用ブラシ

○キャップ(大)

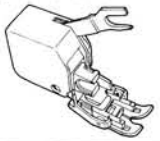


○棒定規

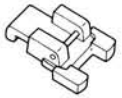
○定規

○ししゅう押え

○上送りアタッチメント

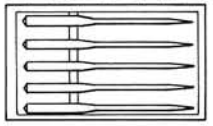


○ボタンつけ押え

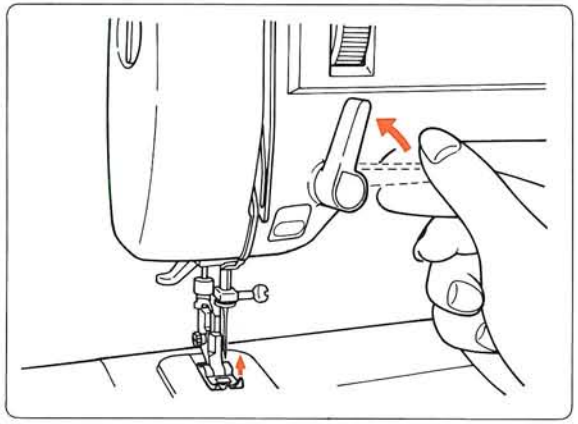


○透明ボタン穴かがり押え

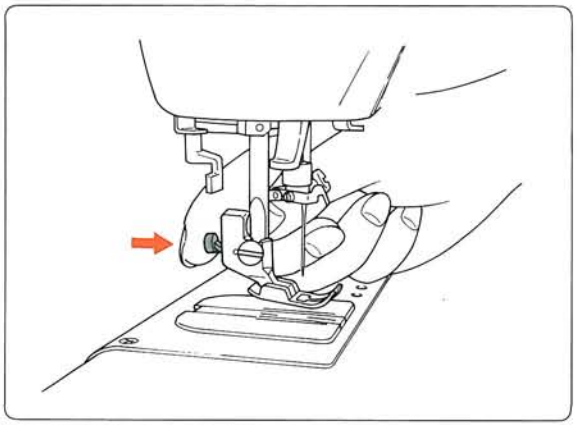
○針とケース
11番-2本　14番-1本
ニット針14番-2本(計5本)



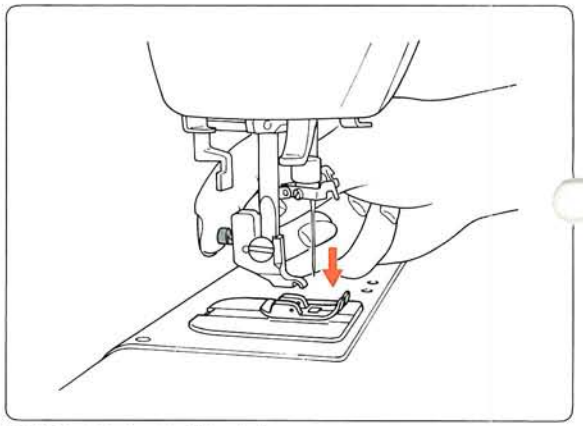
●とりはずし方



①押え上げレバーで押えをあげます。



②押え替えボタンを押します。

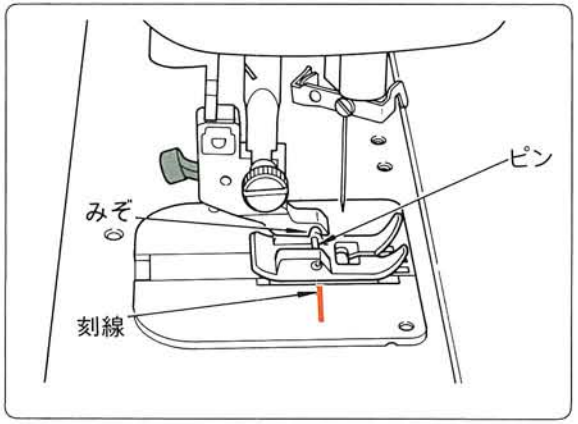


③押えは下にはずれます。

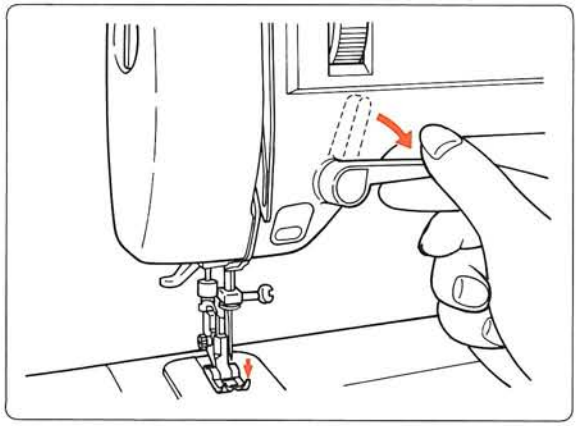
●とりつけ方

直線押え2 裁ち目かがり押え5 ファスナー押え4 コンシール押え8 しつけ押え7 を使用する場合は、はずみ車を手で回して、針の落ちる位置をたしかめます。

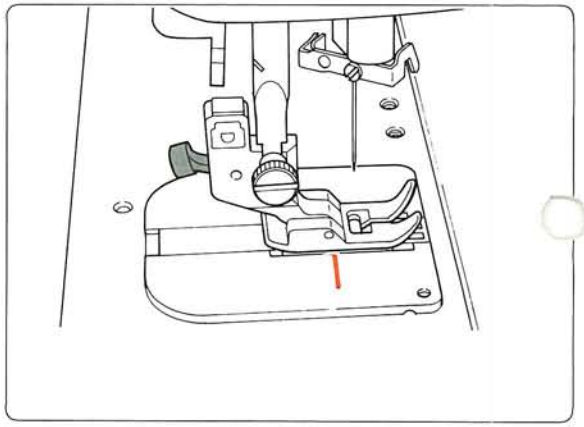
※とりつけるとき、押えが針に当たらないように注意します。



①みぞのま下に押えを置き、押えのピンを針板の刻線の位置に合わせます。

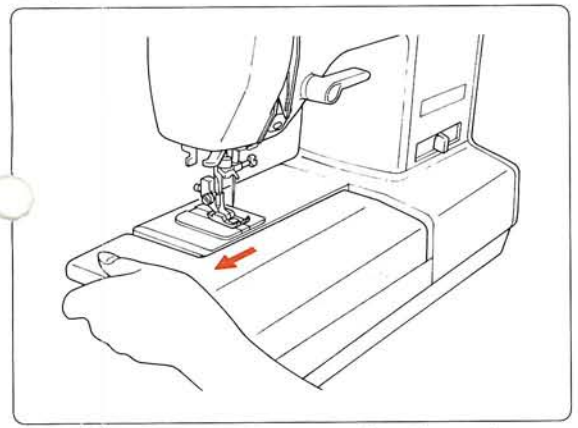


②押え上げレバーをさげます。

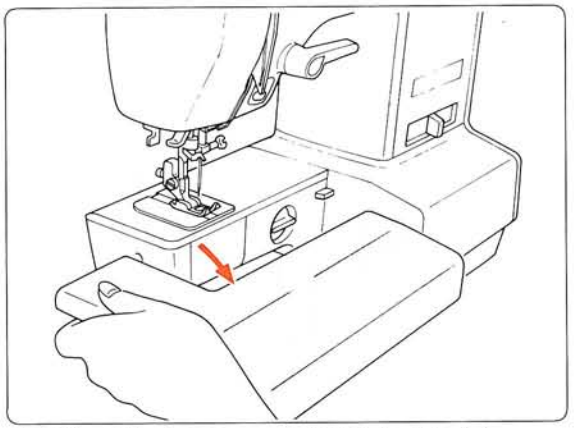


③押えはセットされます。

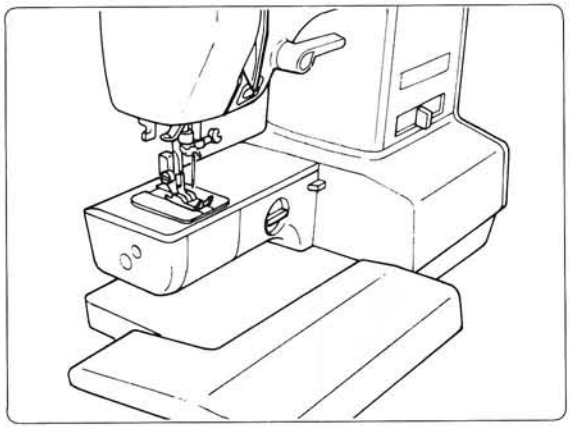
●平ベッドからフリーアームへ



①ベッドの左側面に手をかけて左へ引きます。

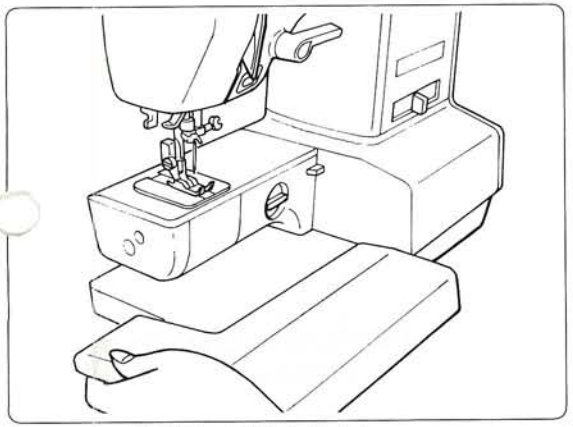


②手前に引きますとベッドは下にさがります。

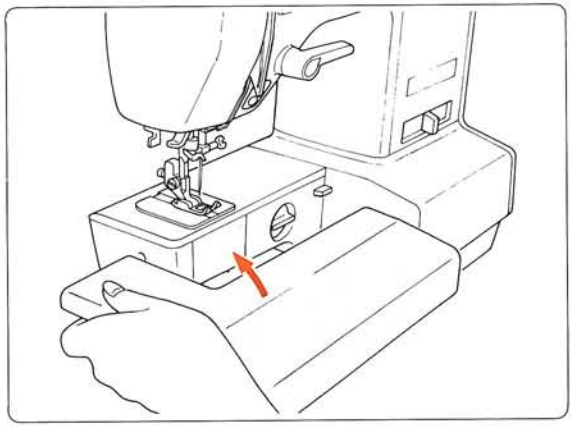


③下まできちんとさげます。

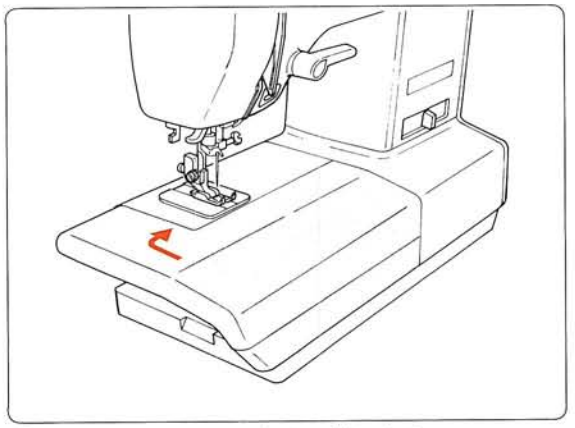
●フリーアームから平ベッドへ



①ベッドの左側面に手をかけます。

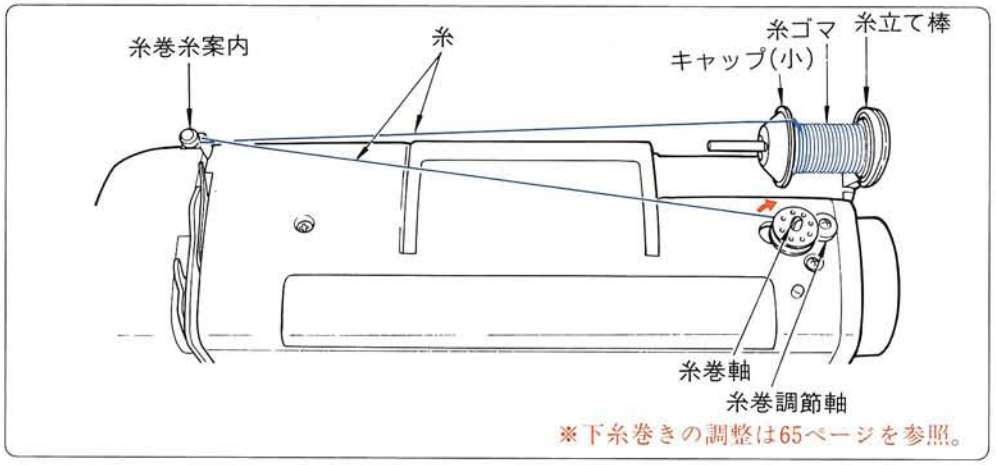


②少し上にあげて矢印の方向に押します。



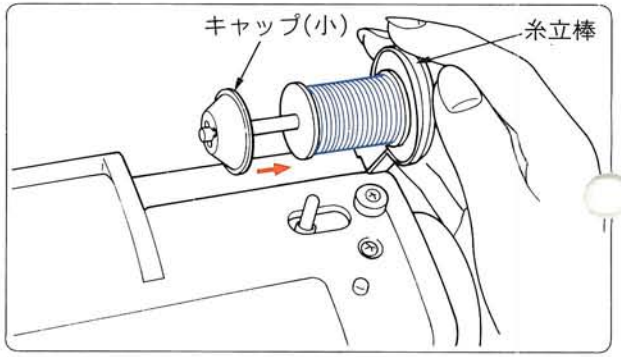
③ベッドがカチッというまで押します。

●下糸巻きの糸のかけ方



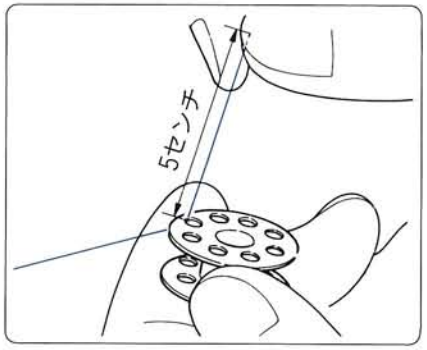
※下糸巻きの調整は65ページを参照。

●下糸の巻き方

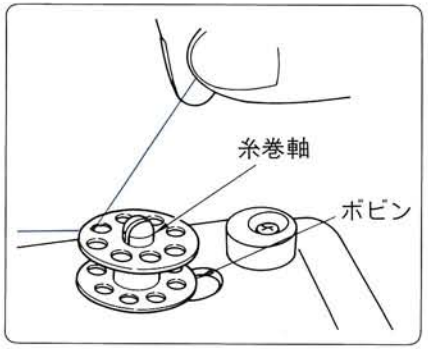


①糸立棒を手でささえながら糸ゴマを糸立棒に入れて、キャップで糸ゴマが動かないように押えます。

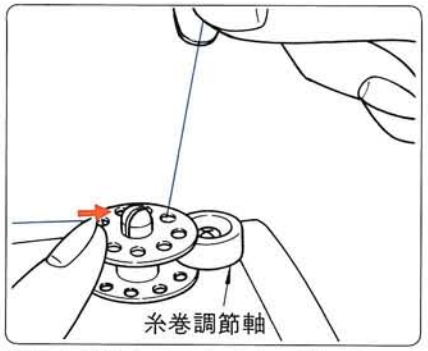
※糸ゴマの切り込み部から糸立棒に入れます。



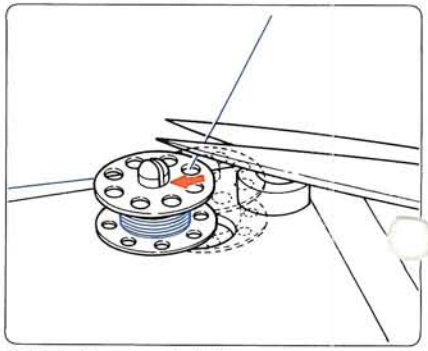
②ボビンの小穴の内側から5センチ位ひきだします。



③ボビンを糸巻軸に確実に差し込みます。

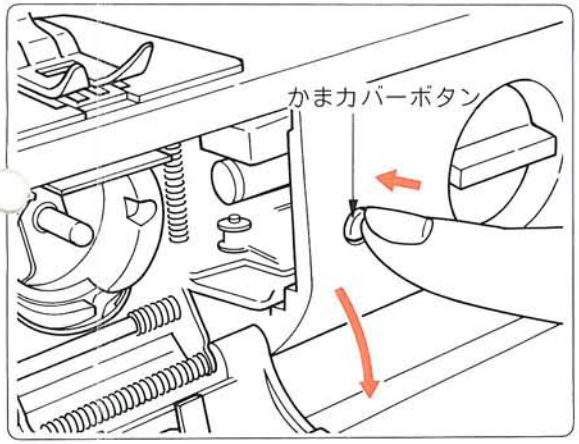


④糸のはしをもったまま、指でボビンを矢印の方向へ押し、スタート・ストップボタンを押します。巻く速さは中速程度にします。

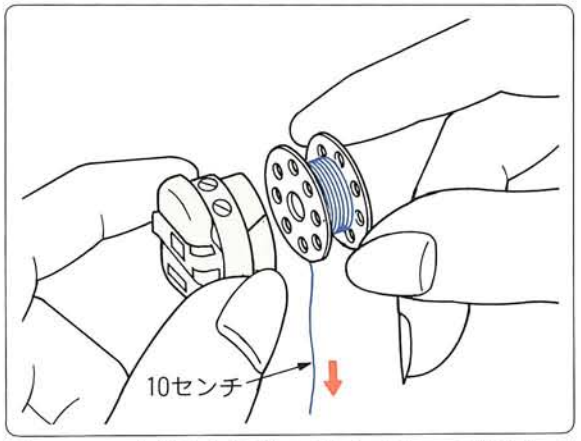


⑤巻き終わると糸巻軸の回転は止まります。指で糸巻軸を押し、もとにもどしてボビンをとります。途中で止めたいときはスタート・ストップボタンを押します。

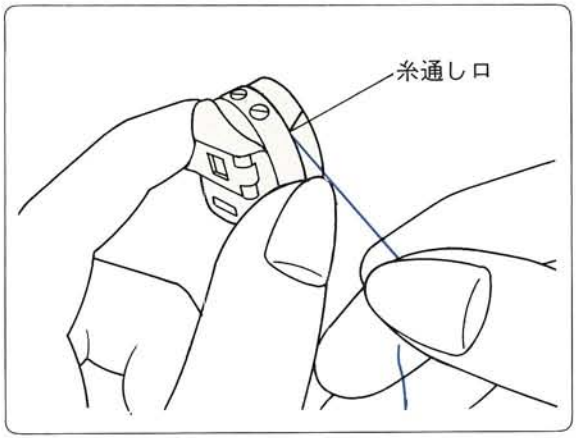
※糸巻軸はしっかりもとにもどします。



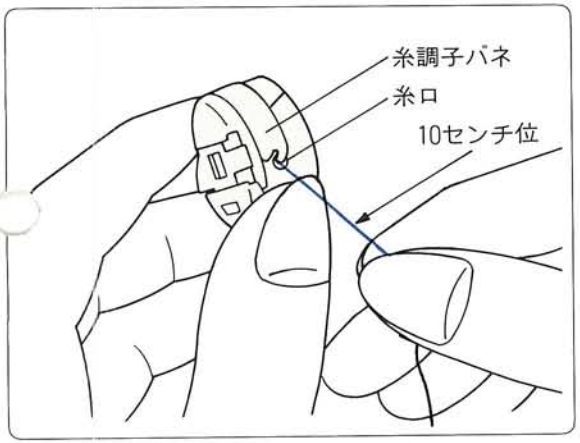
①フリーアーム前面についているかまカバーボタンを押しますとかまカバーが開きます。



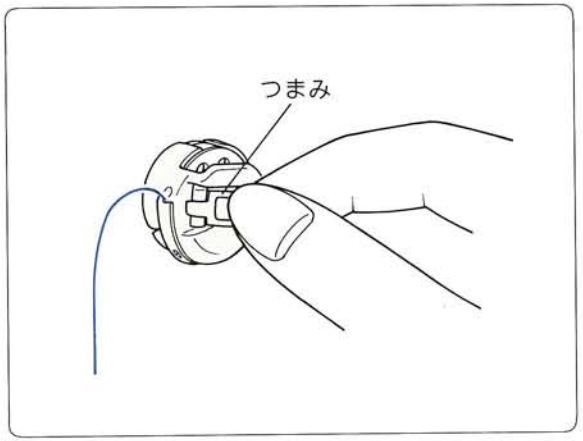
②ボビンの糸はしを矢印の方向に10センチ位出してボビンケースにいれます。



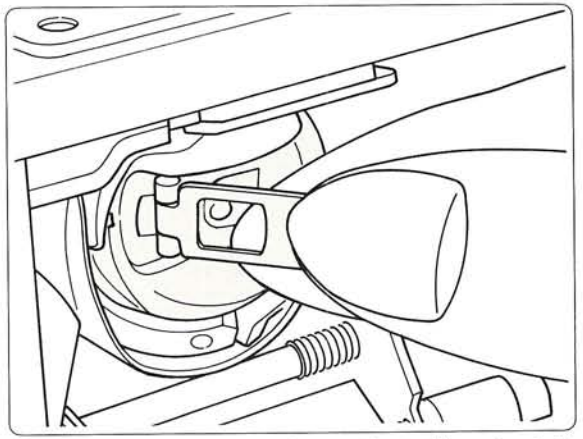
③糸をボビンケースの糸通し口に通します。



④糸を糸調子バネの下にくぐらせ、糸口から10センチ位引き出します。

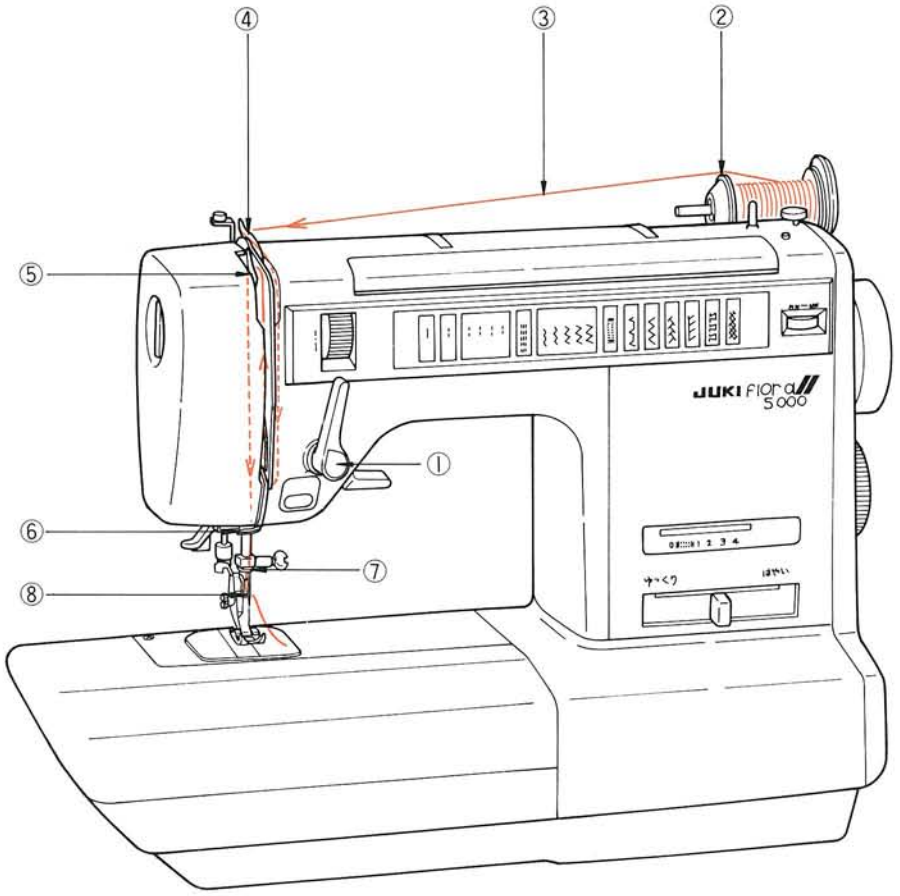


⑤ボビンケースのつまみを右手で持ちます。

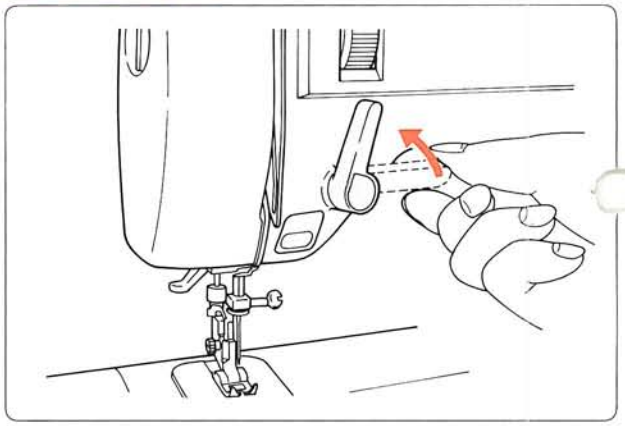


⑥ボビンケースのつまみをいっぱいに開いて、かまにしっかりと差し込みます。

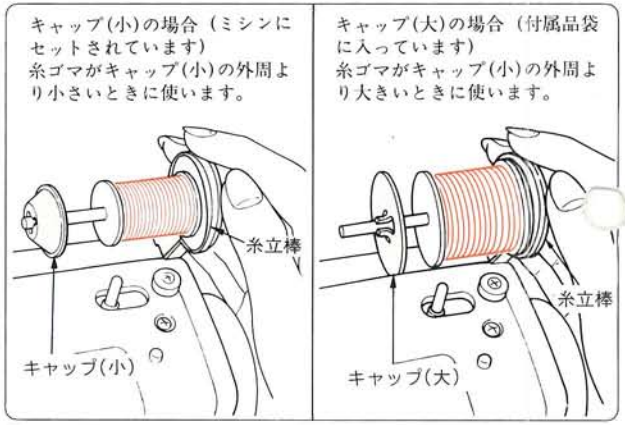
※糸のかけ方をまちがえますと縫えませんから、順序通りにかけ、よくおぼえます。



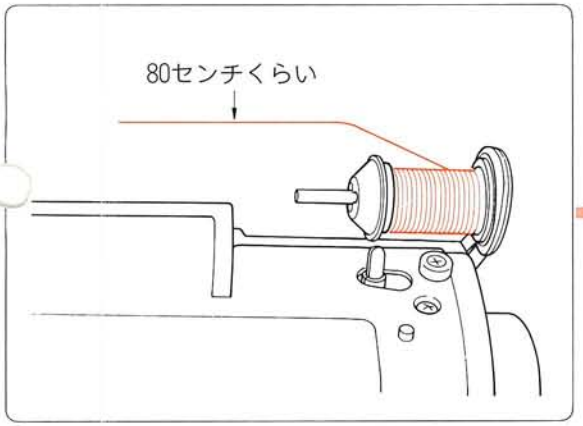
●上糸のかけ方



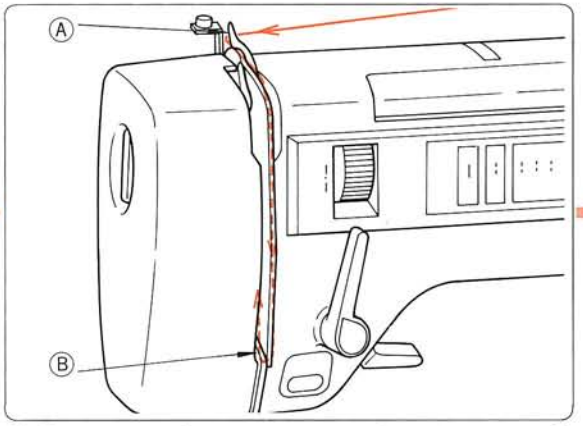
①押え上げレバーを上にあげます。



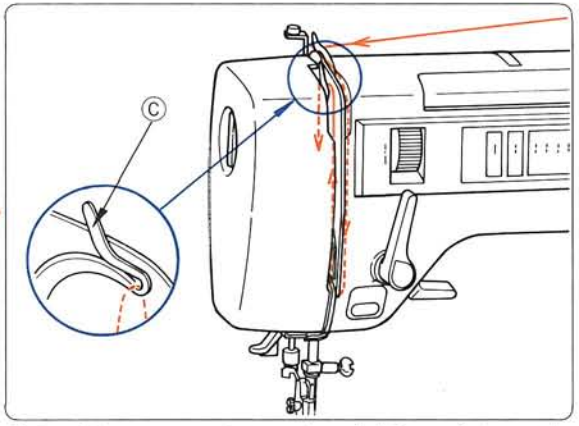
②糸立棒を手でささえながら糸ゴマを糸立棒に入れて、キャップで糸ゴマが動かないように押えます。



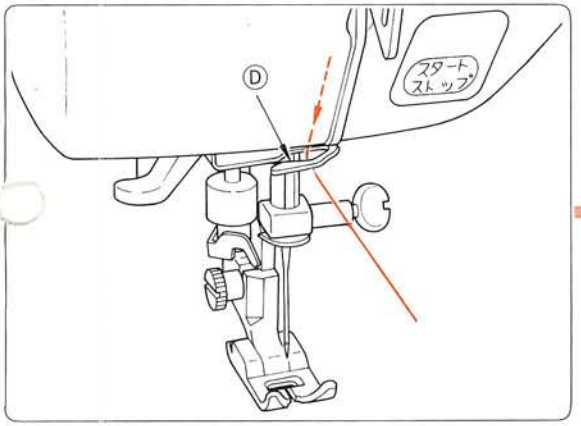
③糸ゴマより糸を80センチくらい引き出しますと針に糸を通すのに適当です。



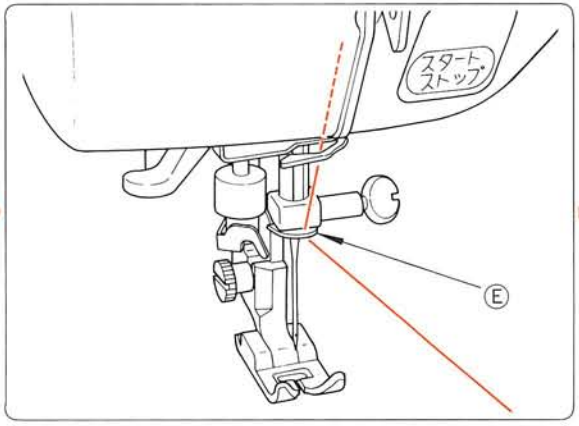
④Ⓐのところに糸をかけそのまま糸を下におろしⒷのところに右側より上に折り返します。(これで糸調子皿に糸が入り糸とりバネにも糸がかかります。)



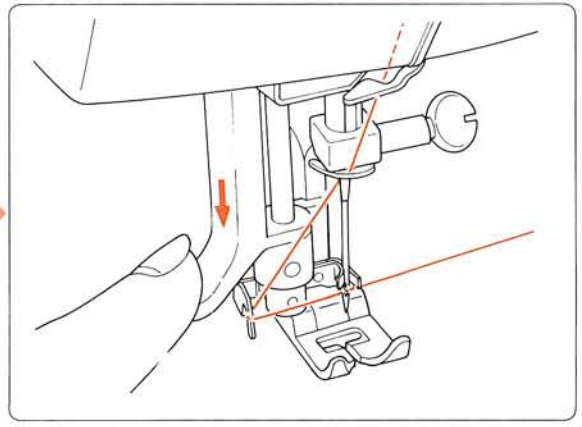
⑤次にⒸのところ（天びん）に右側より糸をかけ左側に折り返します。(天びんに糸がかかります。)



⑥天びんに糸をかけ終ったらそのまま下におろしⒹのところに左側より糸をかけます。



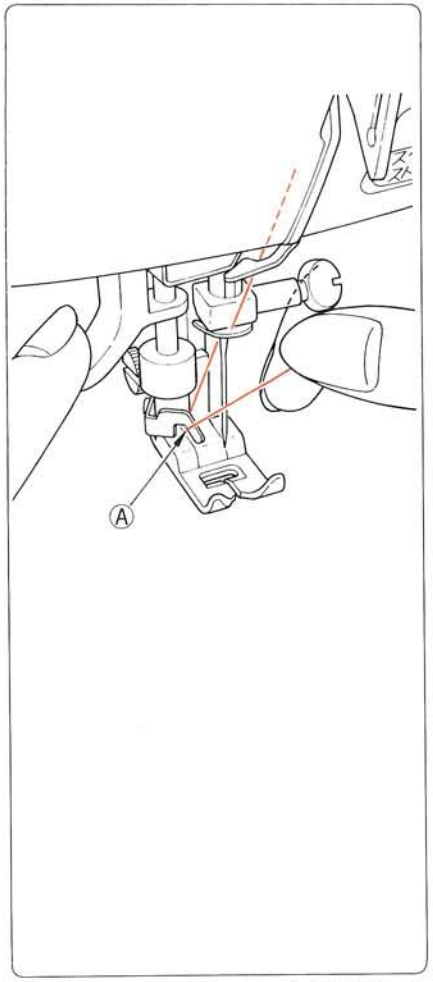
⑦次にⒺのところに左奥から手前に向って糸をかけます。



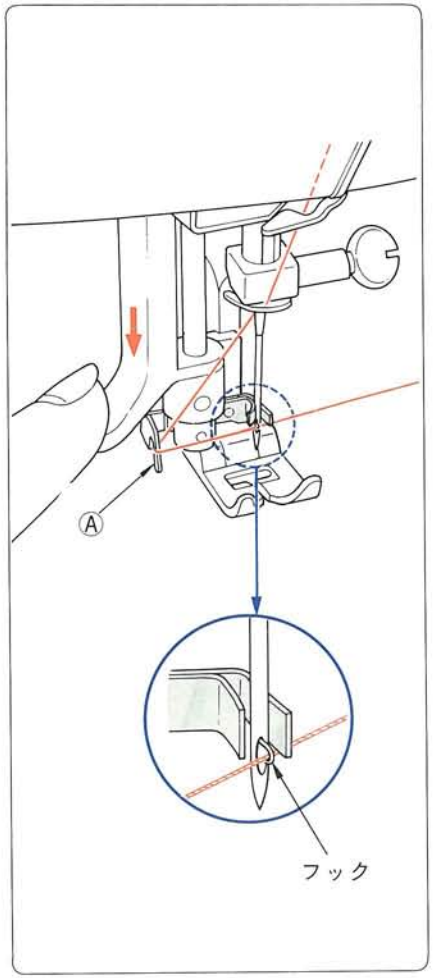
⑧最後に針自動糸通しを使って針に糸を通します。(使い方は12ページに詳しくかいてあります。)

針への糸通し
（針自動糸通しの使い方）

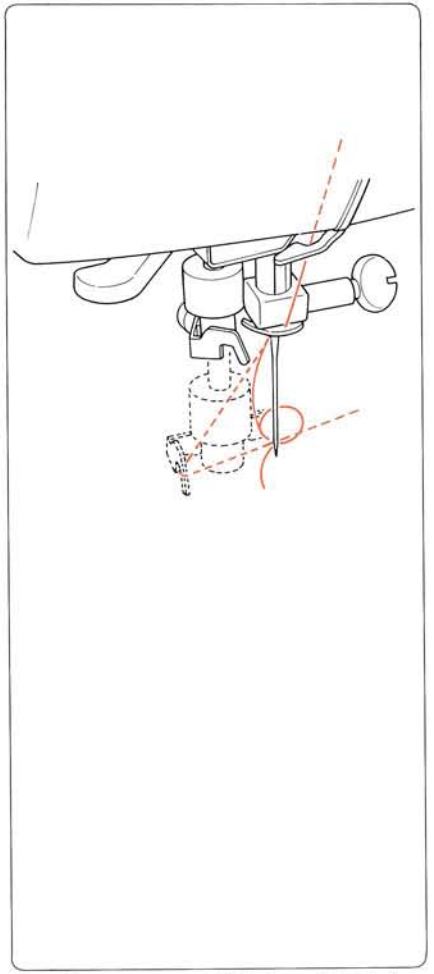
※針が上にあがっていないと糸通しはできません。（11番、14番、16番の針に使います。）



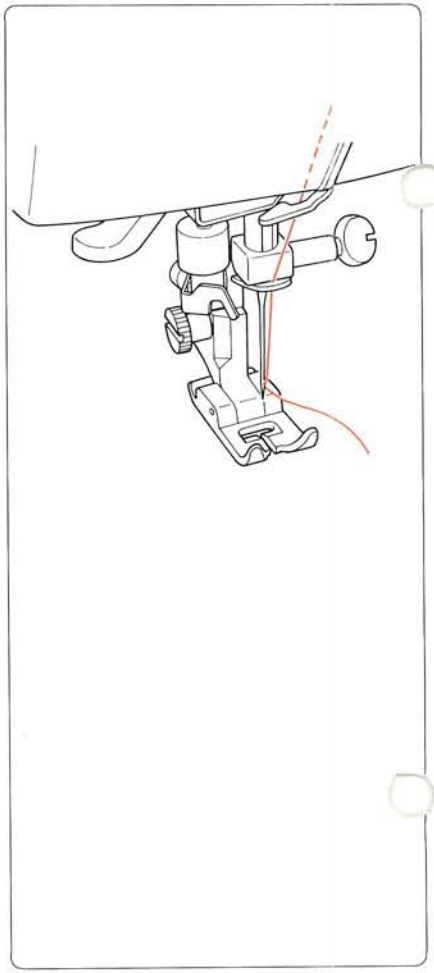
①糸通しレバーをおろしながらⒶのところに内側から糸をかけます。



②糸通しレバーをいっぱいまでおろすと自動的にⒶが回転しますので糸をフックの下に持っていきます。



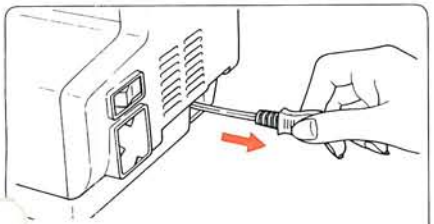
③糸通しレバーを離すと、糸は針穴に通っています。



④通した糸をひき出します。

下図を見ながら番号の順序に操作します。

①電源コンセント(コードリール)



コードを引き出し電源コンセントへ差し込みます。

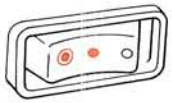
黄の帯まで引き出し、赤の帯以上は引き出しません。

コードリールを少しひっぱり手をはなしますと自動的にコードが巻かれます。

(ミシンを使用しないときはこの状態にします。)

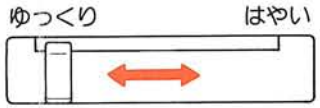
②電源ランプスイッチ

電源ランプスイッチ◉を押すとランプがつきミシンも使用できます。

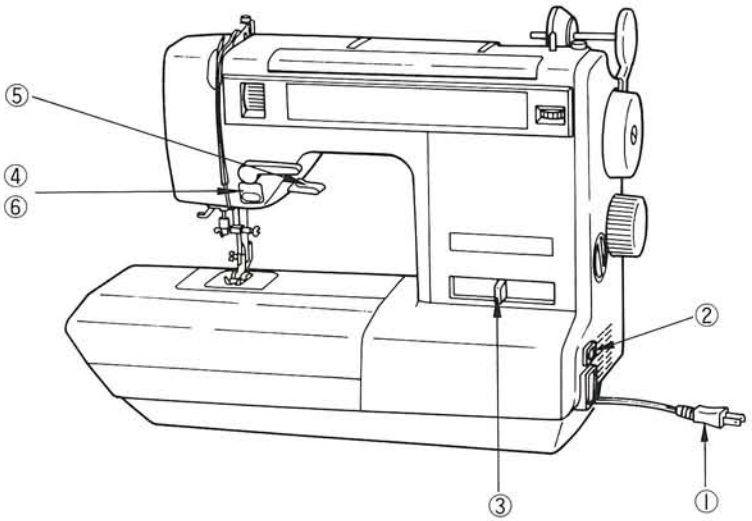


3段階スイッチですのでスイッチを中間の位置にすると、ランプのみが消えます。

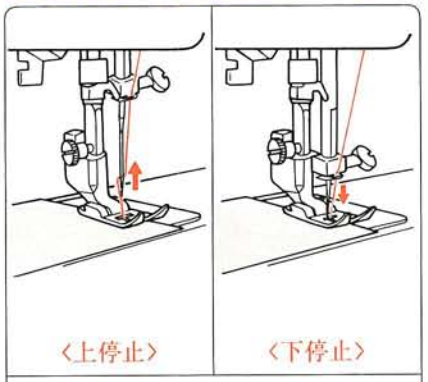
速度選び



縫い速度調節レバーにより低速から高速まで無段階に調節できます。

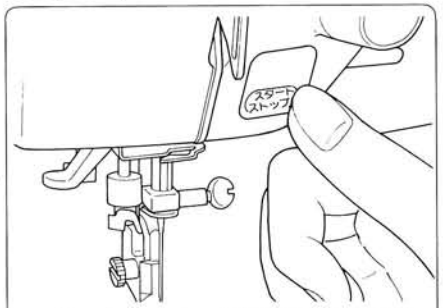


●上停止・下停止について



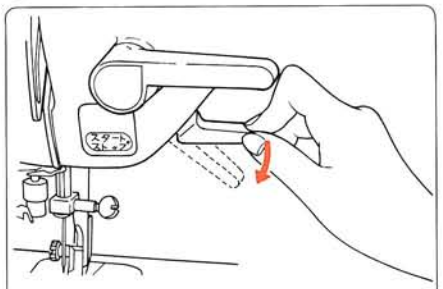
ボタン穴かがり、しつけ縫い、自動糸切り、下糸巻きをする場合には針は上で止まります。(上停止)
そのほかの場合は針が下で止まります。(下停止)

④スタート



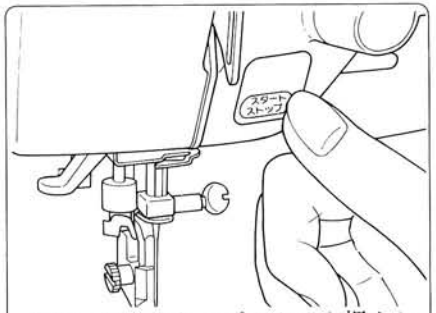
スタート・ストップボタンを押すと、③で選んだ速度で動き始めます。

⑤返し縫い



返し縫いレバーを押します。レバーから手をはなすと普通縫いになります。

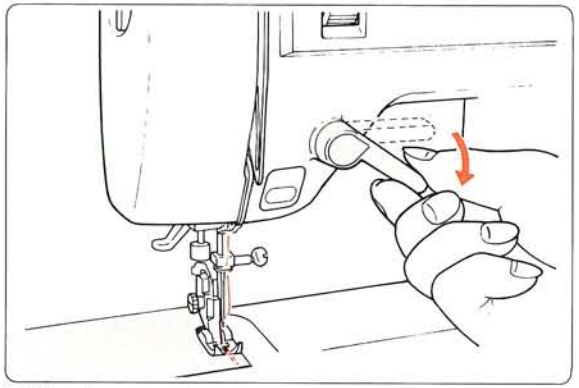
⑥ストップ



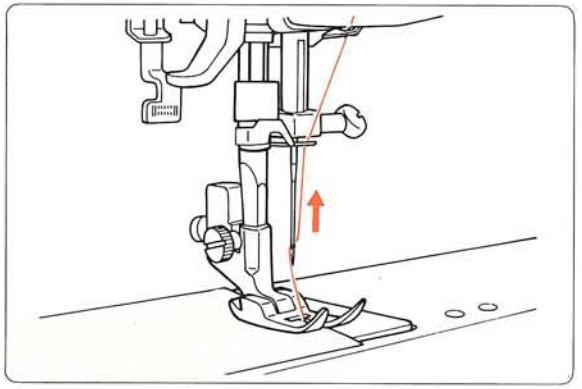
スタート・ストップボタンを押すと止まります。

※ミシンを使用しないときや、ミシンから離れるときは電源プラグをコンセントから抜いておきます。
※針が押さえなりモーターの音だけして、ミシンが動かないときは電源を切ります。

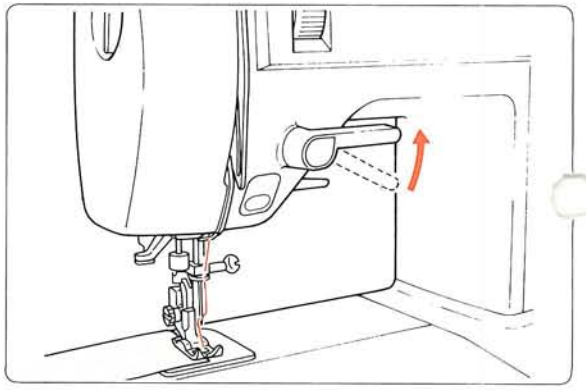
●自動糸切りのし方



①縫い終ったら糸切りレバーを下にさげます。

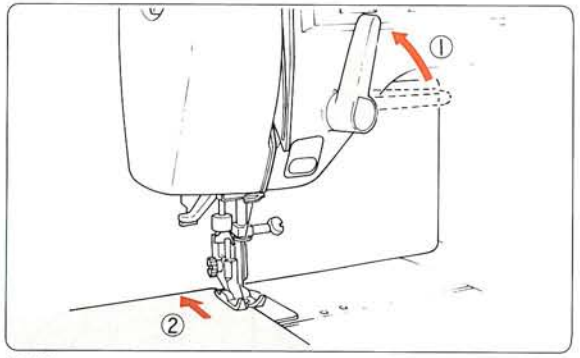


②下停止から糸切りをすると針は下から上へあがって上糸と下糸が切れます。上停止から糸切りをすると針が上下して上糸と下糸が切れ、針は上で止ります。



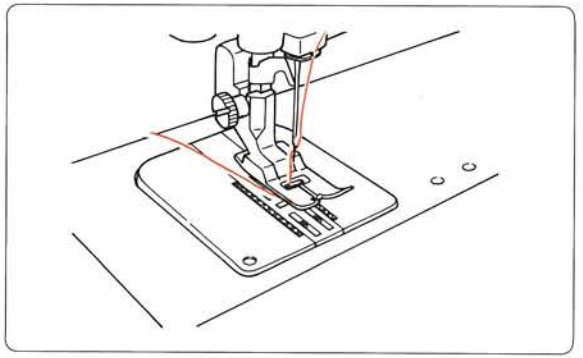
③針が止まったらレバーから手をはなします。レバーは自動的にもどります。

●縫い終った布地のとりだし方



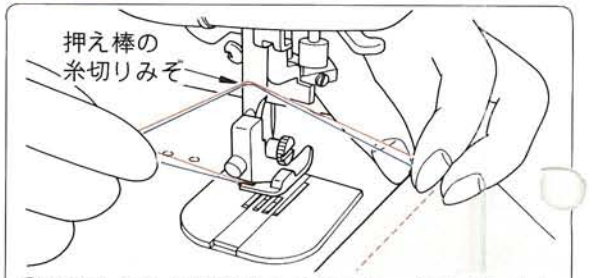
①押えをあげます。
②布地を静かに向う側に引き出します。
※切れ残った上糸が針板の上に出ます。

●再度縫うとき

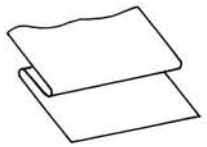
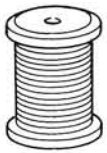
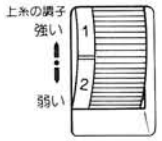
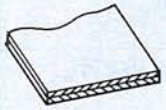
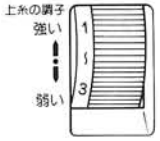
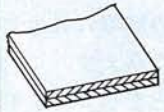
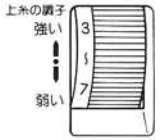
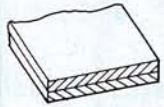
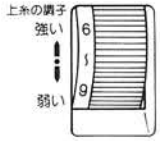


切れ残った上糸が押えの下になるようにして縫い始めます。
※このとき下糸は見えません。

●ご注意



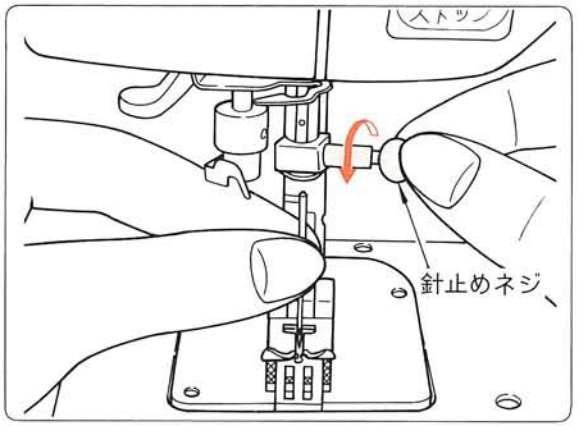
①特殊な糸は自動糸切りで切れない場合があります。その時は上図のようにして押え棒の糸切りみぞを使って糸を切ります。
②糸を結ぶ場合は自動糸切りを使用しないで糸切りみぞを使って糸を切ります。

	布地・ミシン糸・ミシン針の関係			糸調子の目安	押えの強さ
	布　地	ミシン糸	ミシン針	糸調子ダイヤル	押え調節つまみ
					
薄地縫い 	ローン	カタン糸――80番	（9番） 11番		
	ジョーゼット	絹ミシン糸――50番 化繊・細ミシン糸―90番			
	★トリコット	化繊ミシン糸―60番	11番 （ニット針）		
	ウール・化繊布	絹ミシン糸――50番 化繊ミシン糸―60番	11番	普通よりやや弱く（1～3）	
普通地縫い 	普通木綿・化繊布	カタン糸―60～80番 化繊ミシン糸―60番	11番		
	★薄手ジャージー	絹ミシン糸――50番 化繊ミシン糸―60番	11番 （ニット針）		
	一般ウール・化繊服地	絹ミシン糸 化繊ミシン糸 ＞50番	11～14番	普　通（3～7）	
厚地縫い 	デニム	カタン糸―30～50番	14～16番		
	★ジャージー	絹ミシン糸 化繊ミシン糸 ＞50番	11～14番 （ニット針）		
	コート地	絹ミシン糸――50番	11～14番	普通よりやや強く（6～9）	

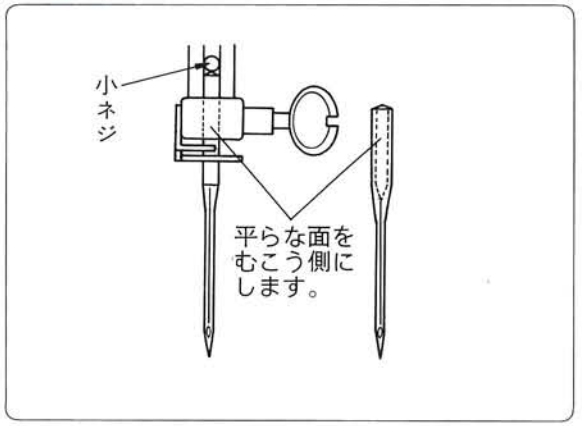
★印はニット針を使用します。ニット針は針の幹が細く、針穴の部分が大きくえぐられた針で、目とびを防止し、伸縮性の布地の縫いに適します。
※糸調子ダイヤルの目盛は目安です。

●針のとりつけ方

※必ず電源を切ってからとりつけます。

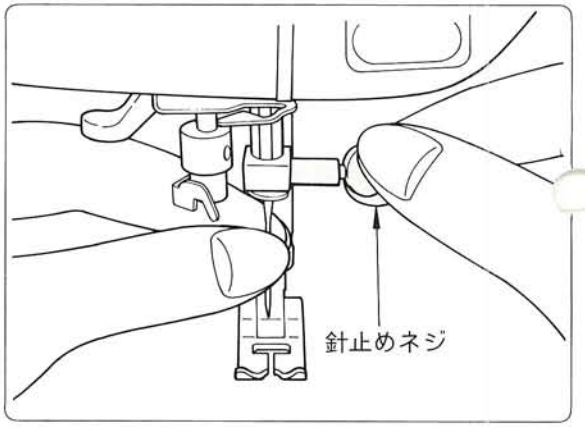


①はずみ車を手前に回して、針棒を最上部にあげ、針止めネジをゆるめます。



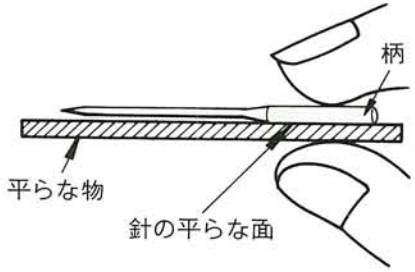
②針の平らな面をむこう側に向けて、針棒のみぞの小ネジに突き当るまでいっぱいに差し込みます。

※針の突き当てが不十分ですと、目とびや糸切れが生じます。



③指で針止めネジをかたくしめます。

●針の調べ方



針が曲っていたり、針先がつぶれていますと、目とびや針折れの原因になりますから、とりつける前に必ずしらべます。針の平らな面を、平らな物に当ててすかして見ます。良い針は、すき間が針先まで平均に見えます。

●針の選び方

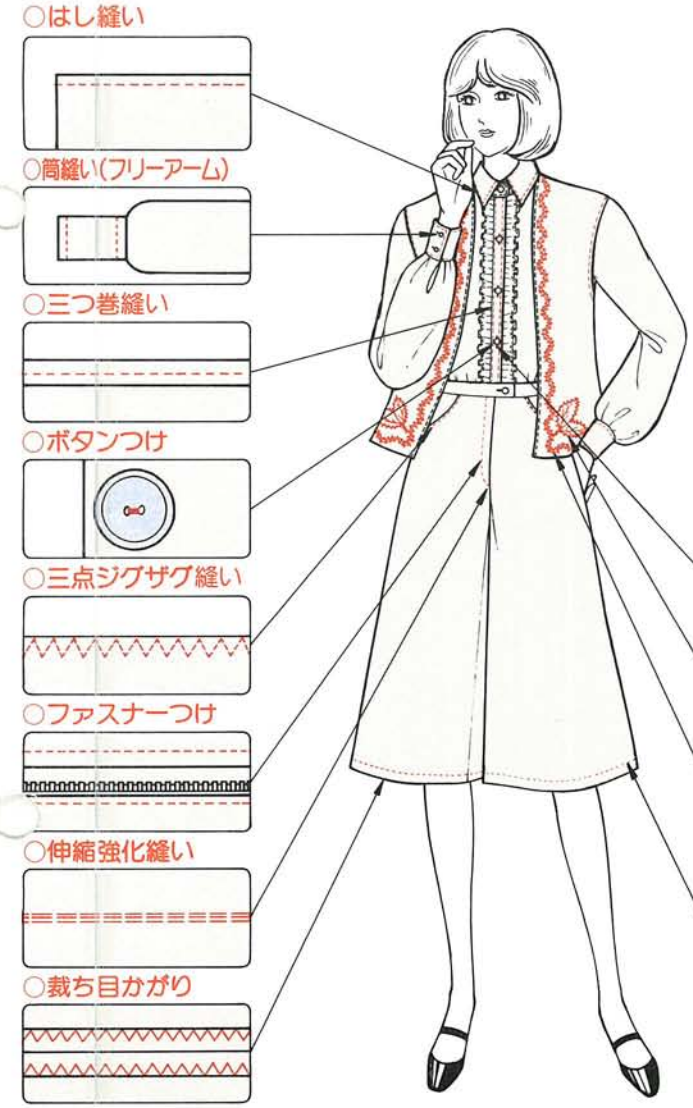
●針の太さを示す番号は柄(え)の部分に表示してあり、数字が大きくなれば太くなります。

●ニット針は柄の部分が紫色をしています。伸縮性のあるジャージー・トリコット等はニット針を使用しますと目とびを防ぐのに効果があります。

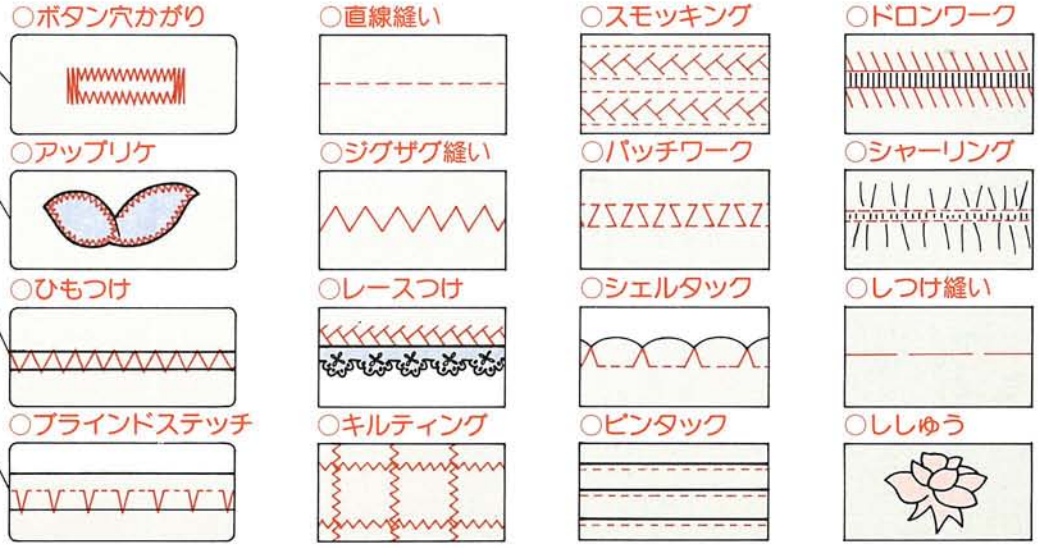
●針が曲ってしまったものや、針先がつぶれたものは使用しません。

●工業用、職業用のミシン針は平らな面がなく使用できません。ＨＡ×１または家庭用と袋に明示したものを求めます。

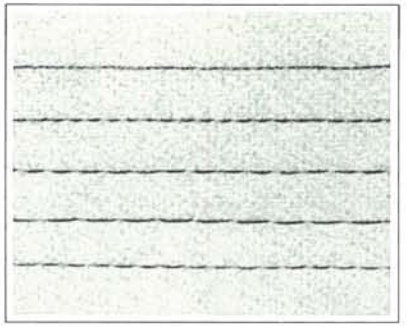
直線縫いはもちろんのこと、しつけ縫い、ボタンつけ、ボタン穴かがり、筒縫い、アップリケ、ブラインドステッチなどいろいろな縫い方が簡単にできます。



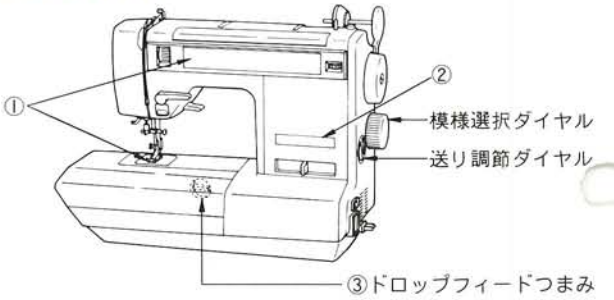
模様	縫い方	ページ
しつけ	しつけ縫い	60
はし縫い	はし縫い	22
直線	直線縫い	18
直線	キルティング	52
直線	ピンタック	56
直線	シャーリング	58
直線	ししゅう	62
三つ巻	三つ巻き縫い	50
コンシール	コンシールファスナーつけ	36
ファスナー	ファスナーつけ	32
	伸縮強化縫い	40
	ジグザグ縫い	24
	アップリケ	46
	キルティング	52
	三つ巻き縫い	50
	裁ち目かがり	26
	ひもつけ	48
	ボタンつけ	44
	ししゅう	62
	自動ボタン穴かがり	28(64)
	ブラインドステッチ	38
	シェルタック	57
	裁ち目かがり	26
	三点ジグザグ縫い	42
	レースつけ	53
	裁ち目かがり	26
	ドロンワーク	59
	パッチワーク	54
	スモッキング	55



直線縫いは縫いの基本です。ミシン縫製のすべてのものに用います。布地に適した針、糸、縫い目の長さなど、使用説明書をよく読んで正しく使います。

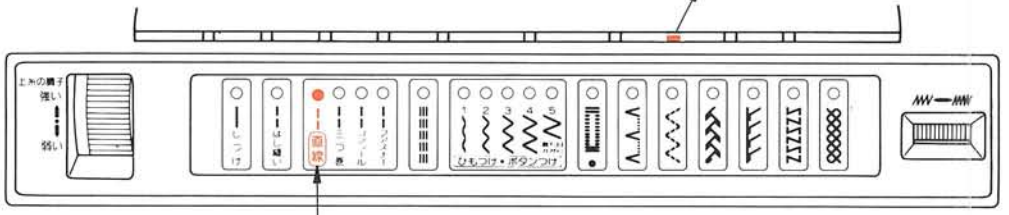


●セットのし方



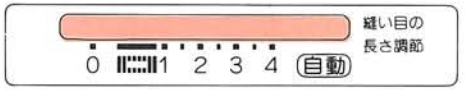
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた直線押え2を使います。



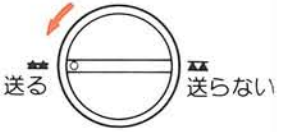
模様選択ダイヤルを回し、直線に合わせます。

②送りの調節

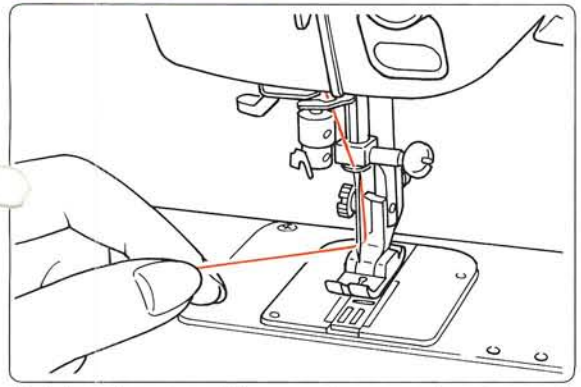


送り調節ダイヤルを回し、0～4または自動の目盛を選びます。

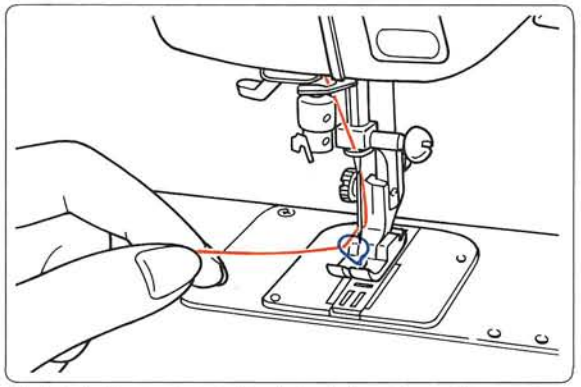
③ドロップフィード



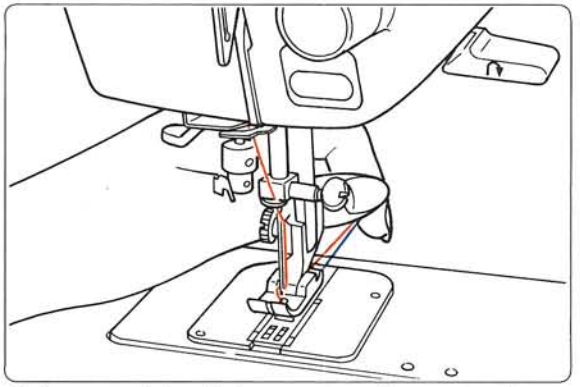
●下糸の引きあげ方



①上糸の糸かけと下糸のセットができましたら、針に通した上糸のはしをかるく持ちます。



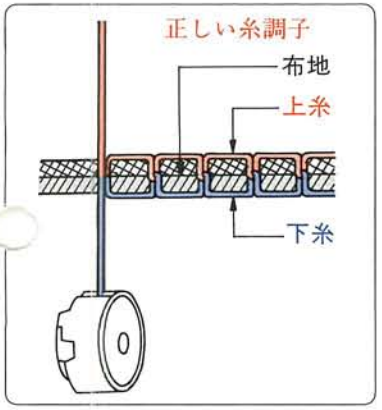
②上糸を持ったままはずみ車を手前に回し、針を1回上下させ、針があがったところ(天びんがま上にきたところ)で止めて上糸を軽く引きますと下糸が出てきます。



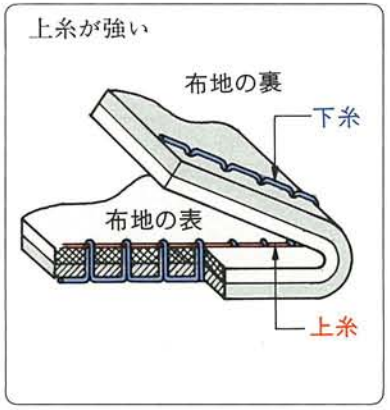
③出てきた下糸と上糸をそろえて押えの下に通して、むこう側へ15センチほど引き出します。

●糸調子の出し方

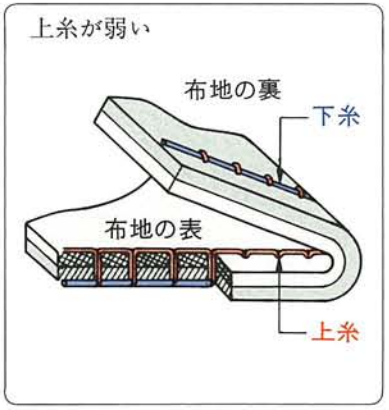
糸調子は糸調子ダイヤルで上糸調子を強めたり、弱めたりして調整します。



上糸と下糸の合わせ目が二枚の布地の中心にきています。

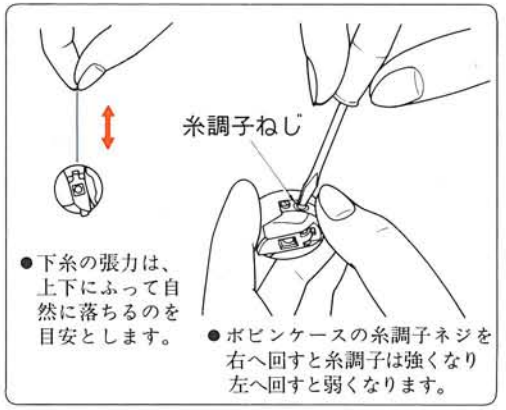


上糸の調子が強い場合は、上糸調子を弱くします。



上糸の調子が弱い場合は上糸調子を強くします。

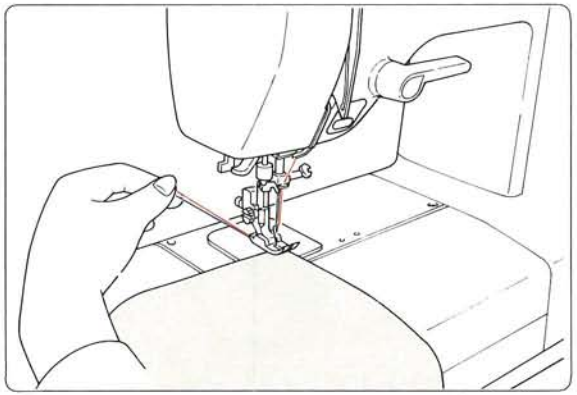
●ボビンケースの調整



※同梱されているボビンケースの下糸の調子は工場で正しく調整されていますので調整する必要はありません。

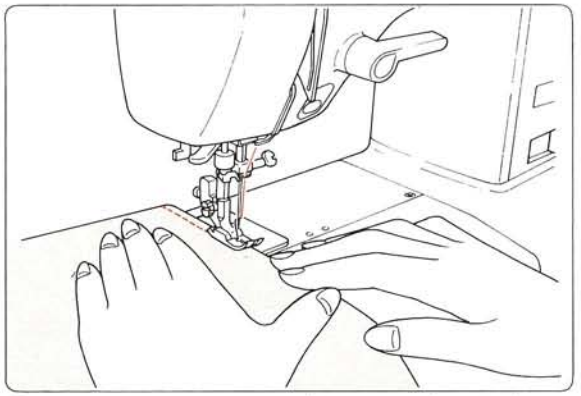
●縫い方

(1)縫い始め

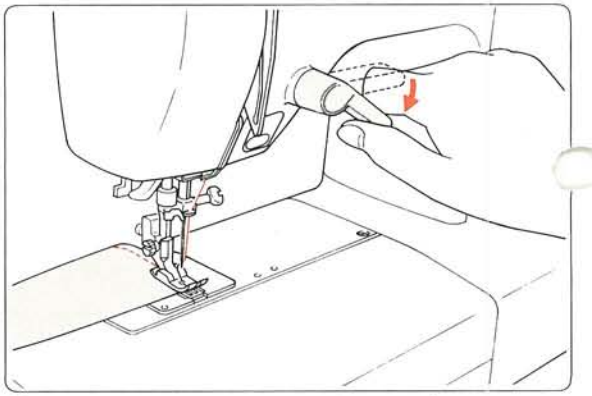


①布地を押えの下におき、はずみ車を手前に回して縫い始める位置に針をおとします。

②2本の糸を左手でおさえ、押えをさげて縫い始めます。

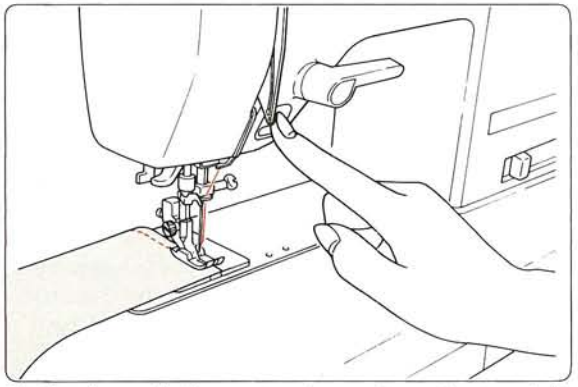


③縫っている間は、布地は押えと送り歯の運動により、自動的に送られますから布地を引っぱらないようにします。

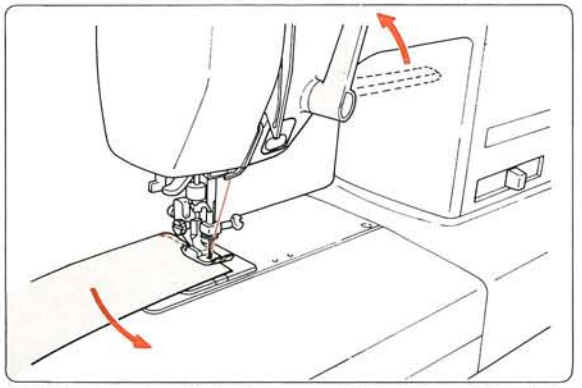


④縫い終りましたらミシンを止めて、糸切りレバーを下いっぱいにさげて糸を切ります。

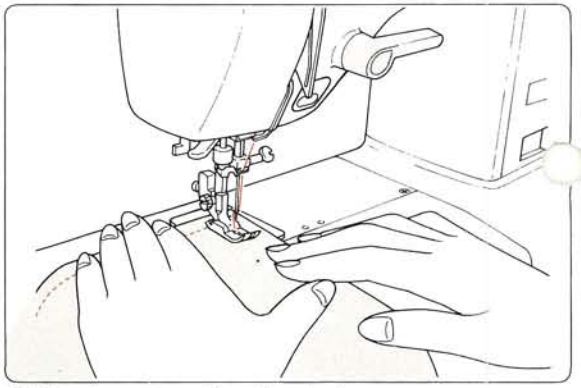
(2)縫い方向の変え方……布地の角を縫うときや、縫い方向を変えるとき



①針を止める位置でスタート・ストップボタンを押します。針が布地におとされた位置で止まります。



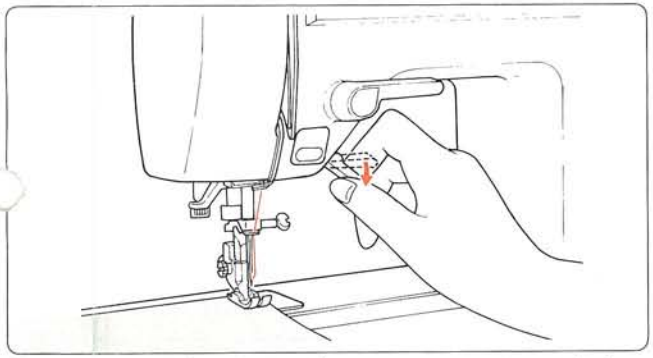
②押えを上げ、針を軸にして布地を回し、縫い方向に正しくセットします。



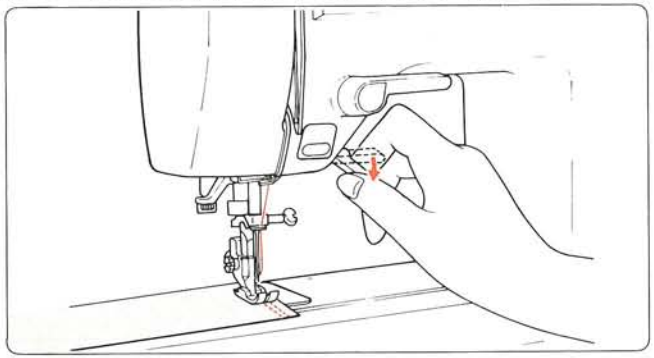
③押えをおろして縫い始めます。

(3)縫い始めと縫い終りの始末……縫い始めと縫い終りは、返し縫いと糸を結ぶ方法の２通りがあります。

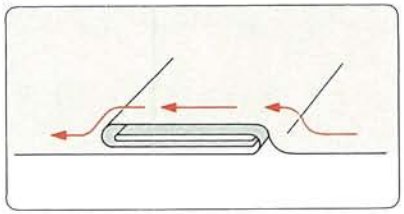
●返し縫いの方法（縫い始めや縫い終りに返し縫いをすると糸がほつれません。縫い終りは自動糸切りを使いますと便利です。）



①縫い始めの場合は布地の端より１センチのところより、返し縫いレバーをさげて布地の端まで返し縫いをし、返し縫いレバーをはなしてそのまま縫い始めます。

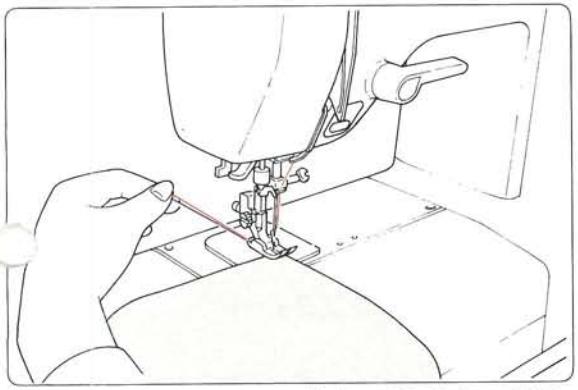


②縫い終りの場合は、所定の位置まで縫い進んだら、返し縫いレバーをさげて約１センチ縫い返してミシンを止め自動糸切りで糸を切ります。



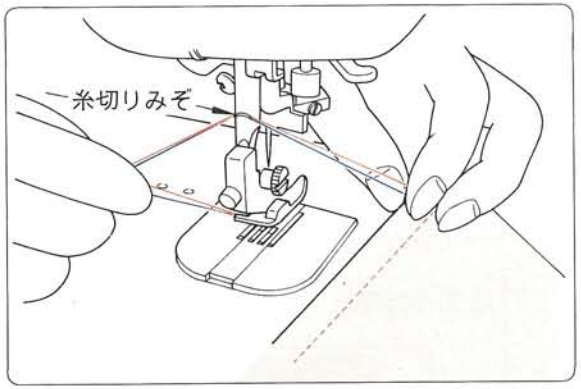
縫い代の重なり等で極端に厚みに差ができているところを縫う場合、スムースに布が送られなかったり、目とびをしてしまうことがあります。この場合は縫い代を倒した方向に縫います。布地が送られなくなったときは押えの圧力を「弱い」にして抵抗を少なくし、手で少しずつ布の送りを助けながら縫います。

●糸を結ぶ方法（糸切りみぞを使用）



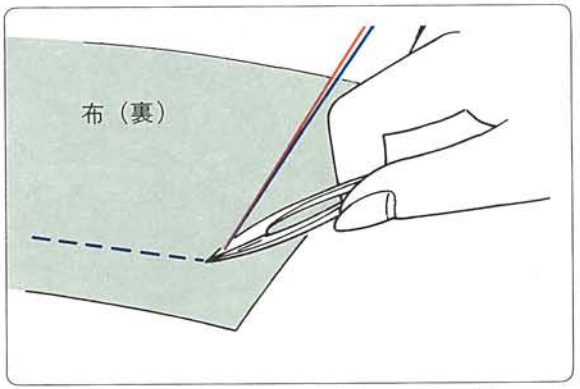
①上糸と下糸をそろえて、押えの下より向こう側に10～15センチほど出します。

②はずみ車を手前に回して針をおとし、押えをさげて縫い始めます。



③縫い終ったらはずみ車を手前に回して針をあげ、押えもあげて布地を静かに向こう側に引き出します。

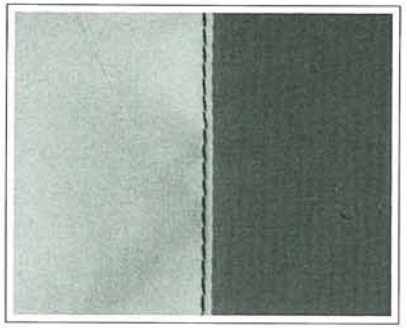
④布地について引き出された上糸と下糸をそろえて約15センチ引き出し、図のように糸を切ります。



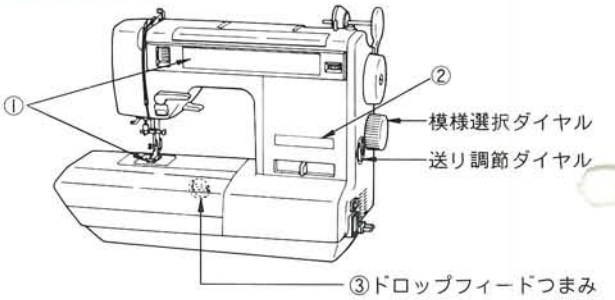
⑤布地裏面に上糸を引き出し、上糸と下糸を結びます。

⑥結び目のきわより糸を切ります。

はし縫いはピンタックをきれいにそろえて縫うときや、衿、カフスの布端すぐきわにステッチをかける場合に使います。
(ピンタックの縫い方は56ページにあります。)

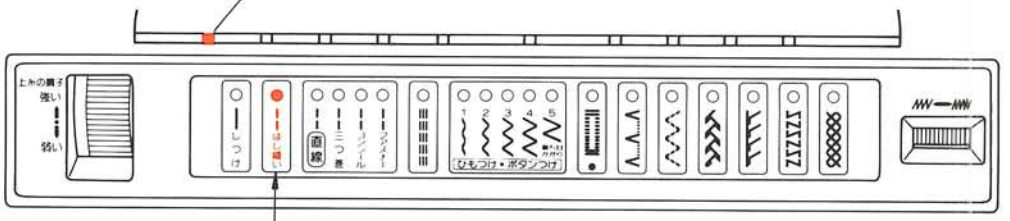


●セットのし方



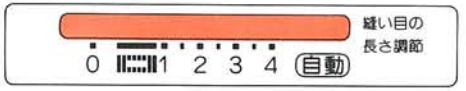
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた ジグザグ押え 1 を使います。



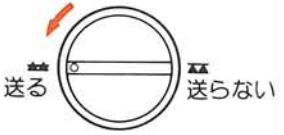
模様選択ダイヤルを回し、はし縫いに合わせます。

②送りの調節

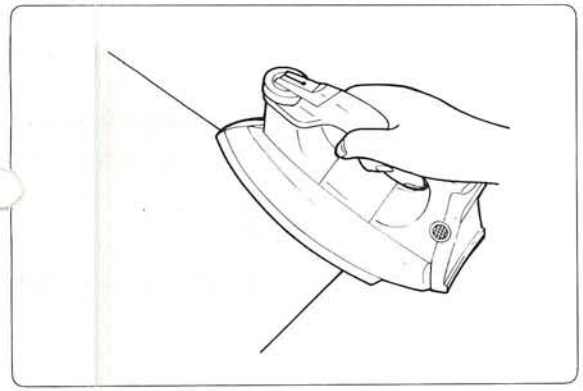


送り調節ダイヤルを回し、0～4または自動の目盛を選びます。

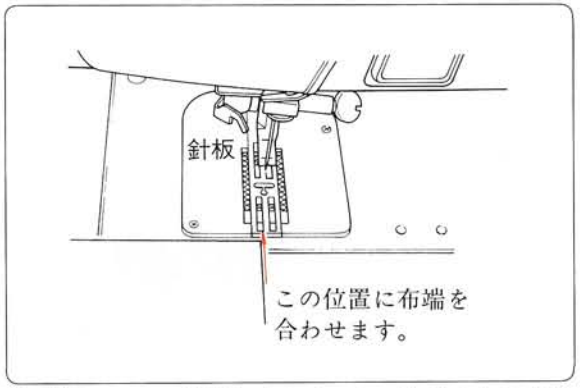
③ドロップフィード



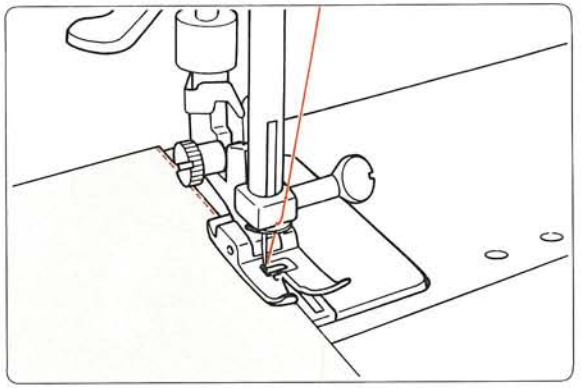
●縫い方



①布端をアイロンで整えます。

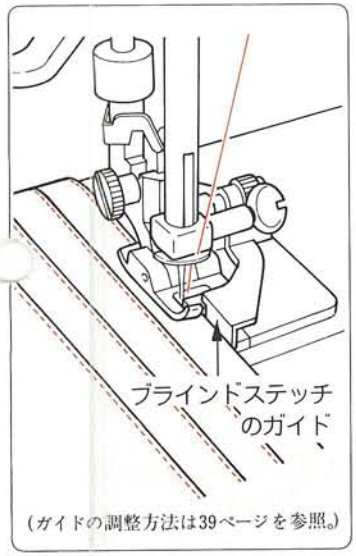


②針板のみぞに布端を合わせ、その位置から布端がはずれないように注意しながら縫います。



③曲線の部分のはし縫いは、押えの針落ちの穴から縫い代をたしかめながらゆっくり縫います。

●応用例



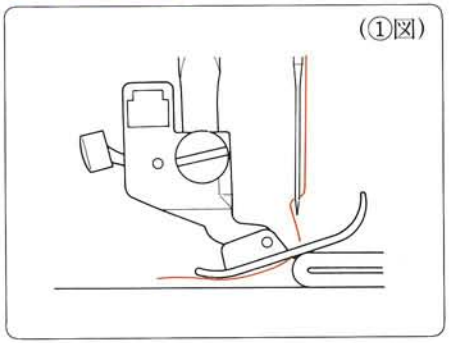
(ガイドの調整方法は39ページを参照。)

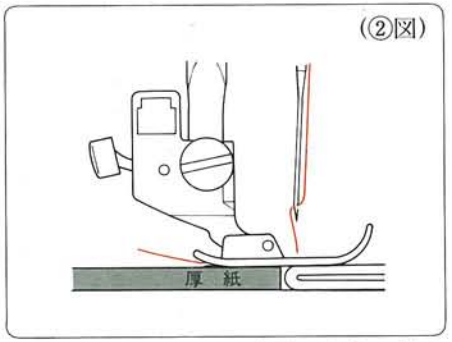
直線の部分のはし縫いや、ダブルステッチは ブラインドステッチ押え9 を使いますと大変便利です。

①ブラインドステッチのガイドを布端にピッタリあてて縫いますと、ステッチ幅がそろいます。またダブルステッチの場合は、必要な幅だけブラインドステッチのガイドを移動してかけます。

②ピンタックも折り山をブラインドステッチのガイドにピッタリあてて縫いますと、美しいピンタックができます。

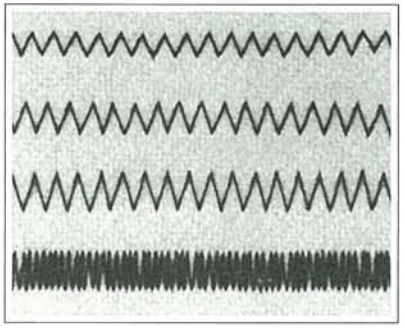
●厚地の場合



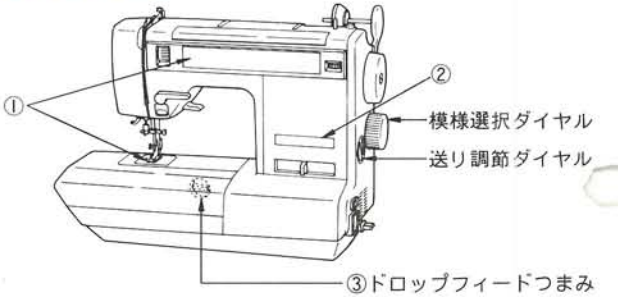


縫い代が重なった厚い部分の布端より、はし縫いをするときは、上図のように押えが傾いて布地がスムースに送られず、縫えません(①図)。このような場合は布端と同じ厚さの布地、または厚紙を押えの下に折り込んで縫いますとスムースに縫うことができます。

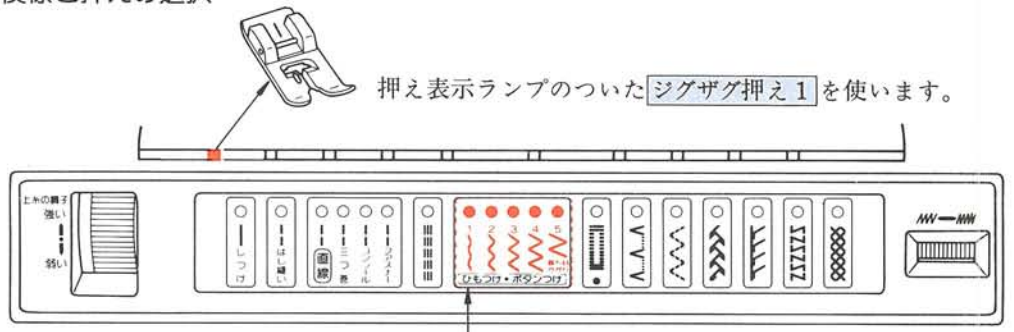
※薄地の場合…縫い始めの上・下の糸を向こうに引っ張りながらゆっくりと縫います。



●セットのし方

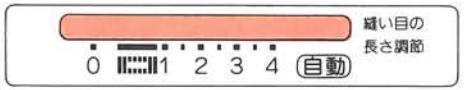


①模様と押えの選択



模様選択ダイヤルを回し、ジグザグに合わせます。

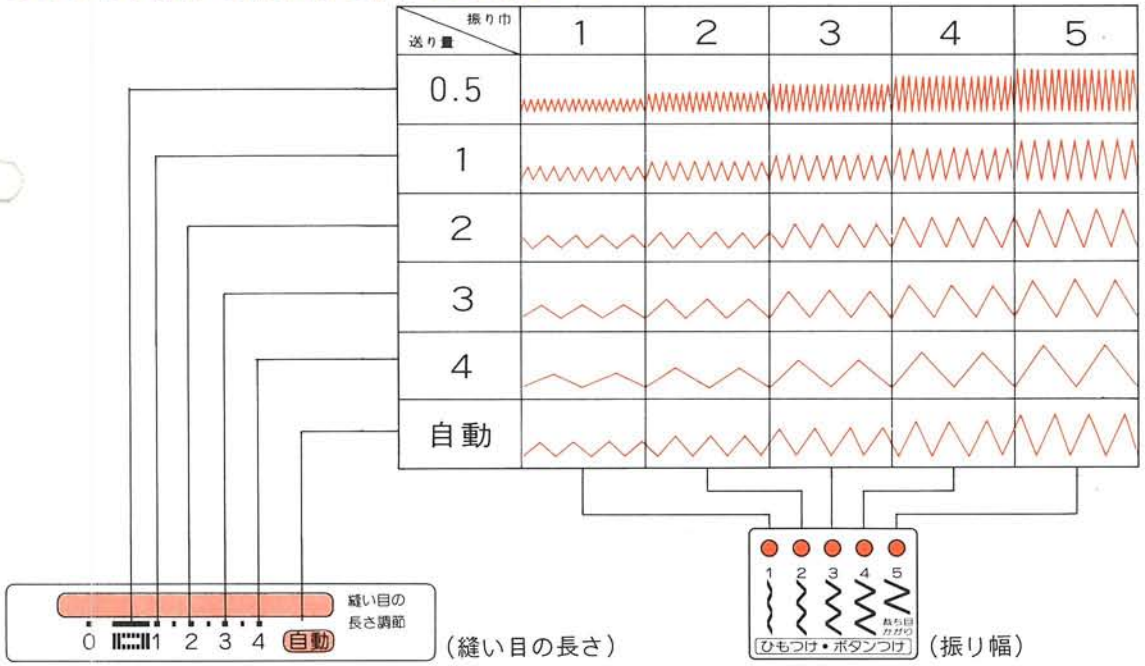
②送りの調節



送り調節ダイヤルを回し、0～4または自動の目盛を選びます。

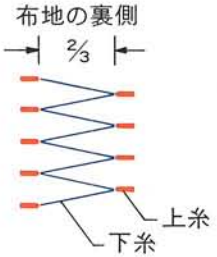
③ドロップフィード

●ジグザグ縫いの振り幅と縫い目の長さ

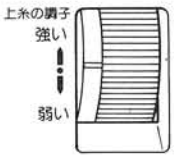


●ジグザグ縫いの糸調子

ジグザグの縫い調子は、布地の裏側から見た場合、下糸がそのジグザグ幅の約⅔程度しめるように調子を整えます。

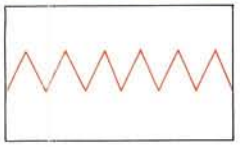


ジグザグ縫い

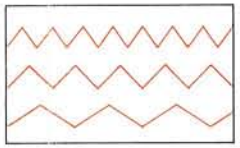


ジグザグ縫いのときは上糸の調子を直線縫いのときより弱くします。

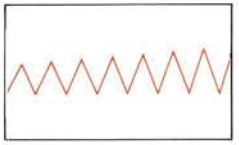
●ジグザグ縫いのいろいろ



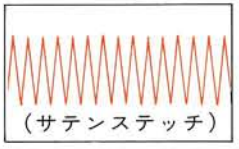
ジグザグ縫いは針を左右に振りながら縫います。縫い目の長さを 自動 にセットしておけば、それぞれの振り幅の理想的な縫い目がえられます。



振り幅1～5のジグザグ縫いのいずれかを選び、縫い目の長さを0.5～4の目盛に合わせると、振り幅は一定で縫い目の長さが変化します。



縫い目の長さを固定し、振り幅を変えると図のようなジグザグ縫いになります。
縫い始め、縫い終り、縫い方向の変え方は20ページの直線縫いを参照。

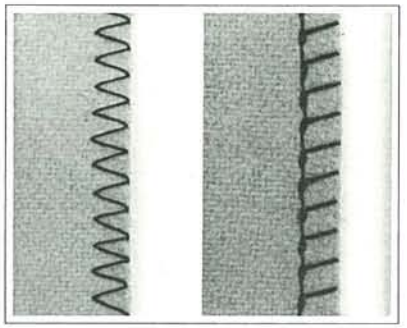


(サテンステッチ)

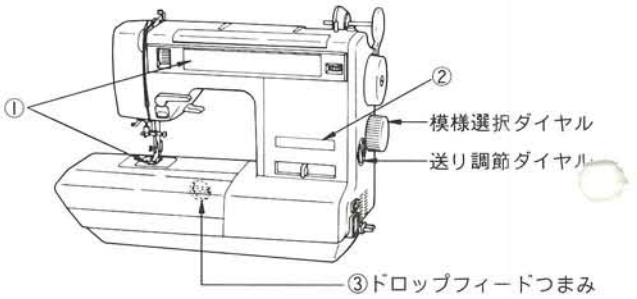
縫い目の長さを小さくすると縫い目が密になり、下の布地が見えなくなります。これをサテンステッチといいます。(縫い目の長さは布地によって調節します。)

裁ち目かがり（縁かがり）

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために利用します。

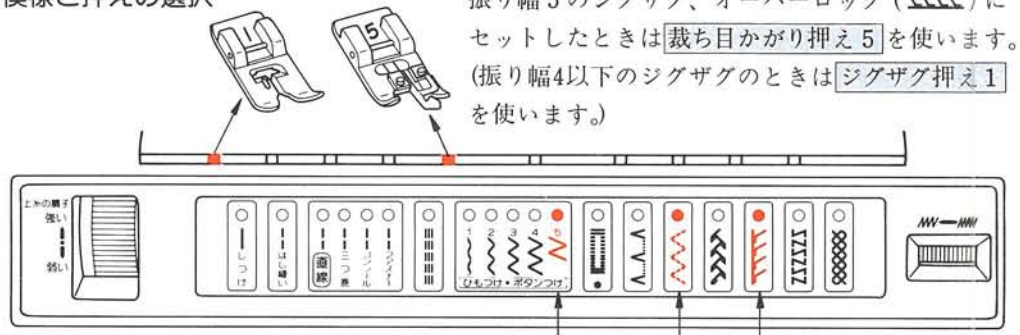


●セットのし方



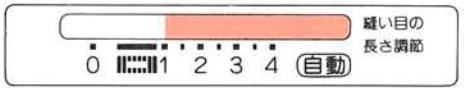
①模様と押えの選択

振り幅５のジグザグ、オーバーロック（）にセットしたときは裁ち目かがり押え５を使います。（振り幅4以下のジグザグのときはジグザグ押え１を使います。）



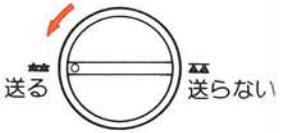
模様選択ダイヤルを回し、振り幅５のジグザグ、三点ジグザグ、オーバーロックのいずれかに合わせます。

②送りの調節



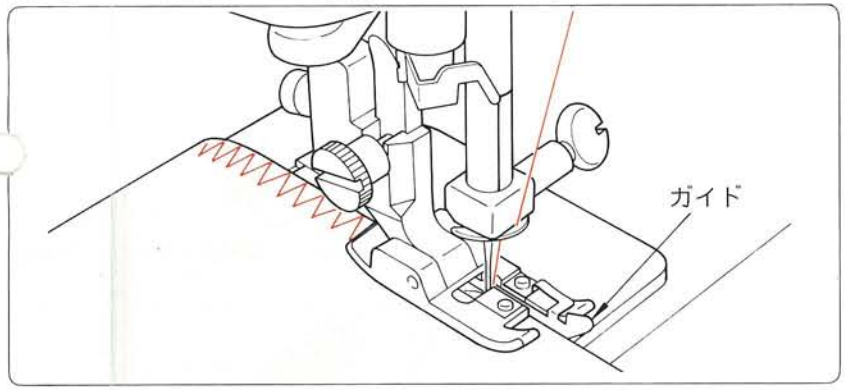
送り調節ダイヤルを回し、１～４または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード



●ジグザグ縫い裁ち目かがり

裁ち目のほつれ止めとして広範囲に利用できます。

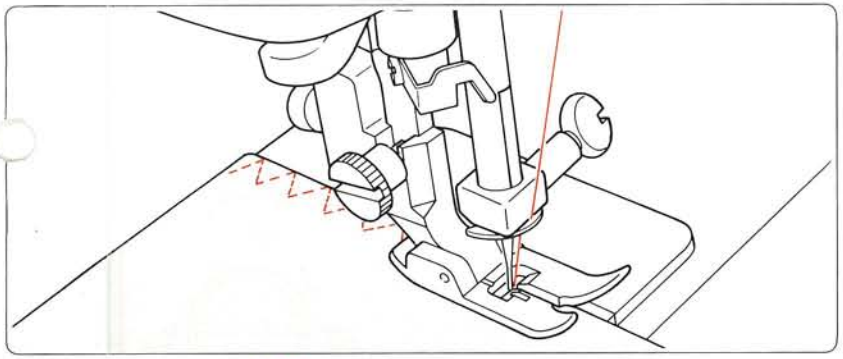


振り幅5のジグザグにセットしたとき、押えは裁ち目かがり押えを使います。布端を裁ち目かがり押えのガイドにあて、針が裁ち目をかがろうとする布地の端すれすれにくるように布地をセットします。

(糸調子は25ページのジグザグ縫いを参照)

●三点ジグザグ縫い裁ち目かがり

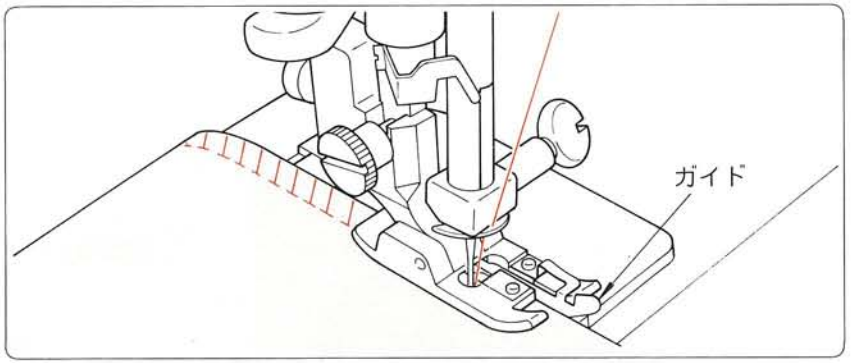
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め等に利用します。



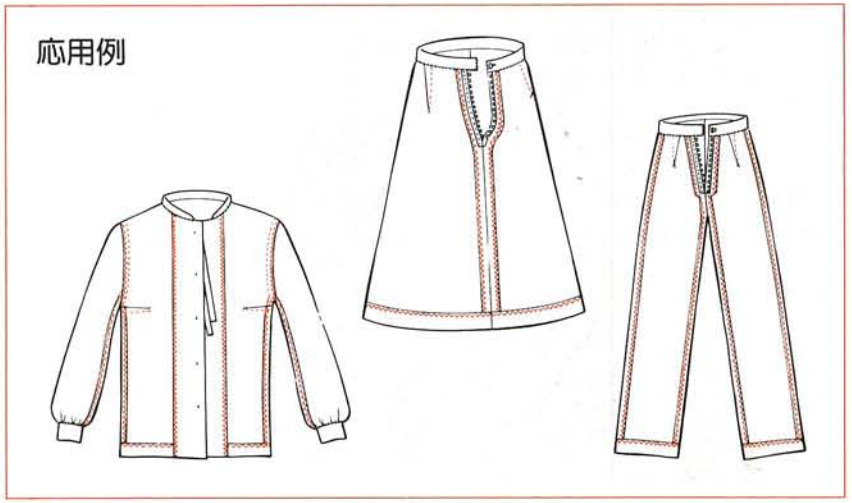
模様を三点ジグザグ(∧∧∧)にセットし、ジグザグ押えを使います。
布端より織り糸の1～2本内側に針が落ちるように縫います。

●オーバーロック( )の裁ち目かがり

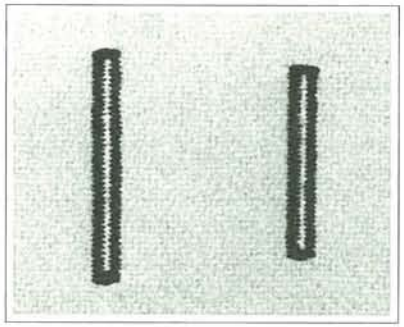
かがり縫いと地縫いが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布で縫い代をわらなくてよいものの縫い合わせに適します。
また、伸縮性のある布や厚手の布地の裁ち目のほつれ止めとして利用します。



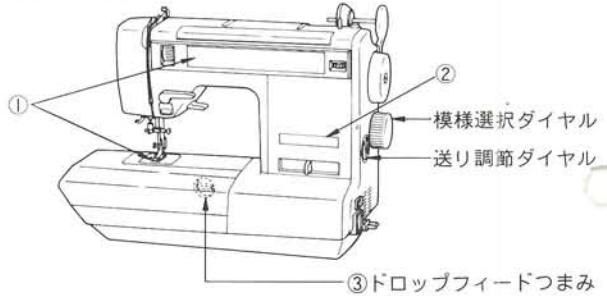
模様はオーバーロック( )が適します。このとき押えは裁ち目かがり押えを使います。ジグザグ縫い裁ち目かがりと同じように縫います。



手縫いするとたいへん手間のかかるボタン穴かがりが自動的にできます。

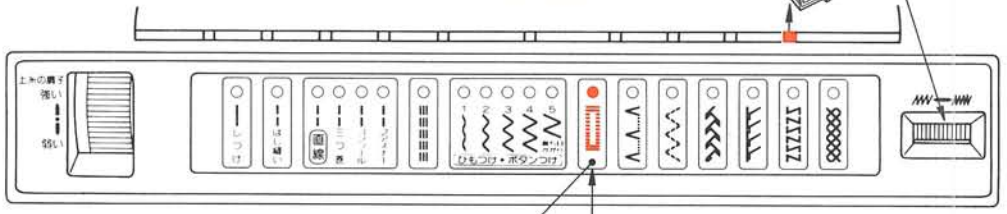


●セットのし方

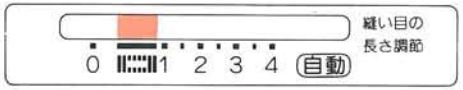


①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた ボタン穴かがり押え11 を使います。



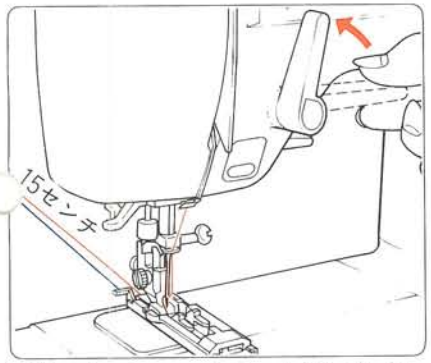
②送りの調節



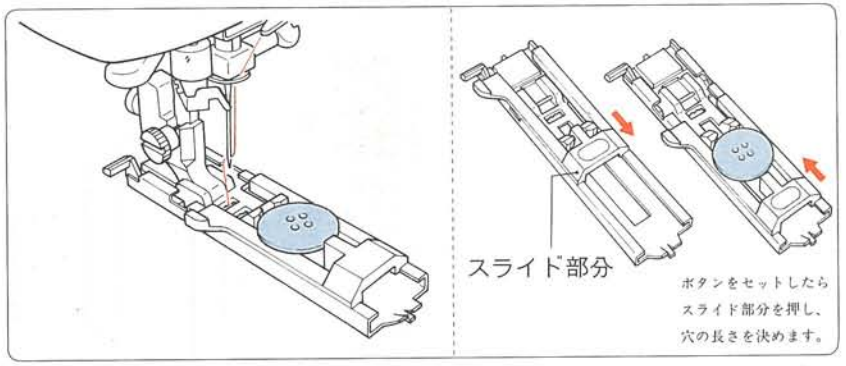
送り調節ダイヤルを回し、 に合わせます。

③ドロップフィード

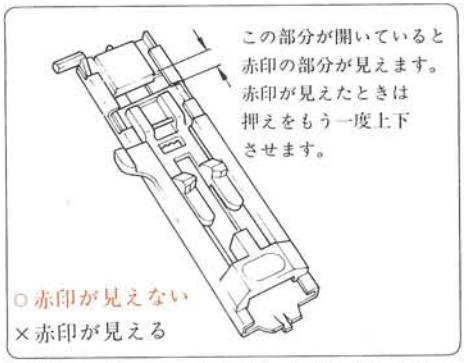
(1)ボタン穴かがり　縫いの速度は低速から中くらいの速さで縫うと美しく縫いあがります。



①押え上げレバーを上にあげて上糸と下糸を後ろ側に15センチくらい引き出しておきます。

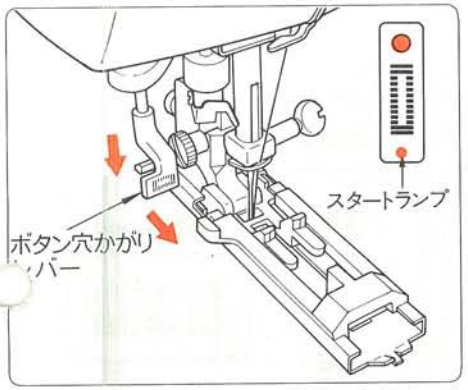


②押え上げレバーをおろしてボタン穴かがり押えにボタンをセットします。かがり穴の長さは押えにボタンをセットするだけで自動的に決まります。長さが決まったらセットしたボタンをはずします。(押えにのらない大きいボタンのかがり穴の長さはボタンの長径＋ボタンの厚みです。)

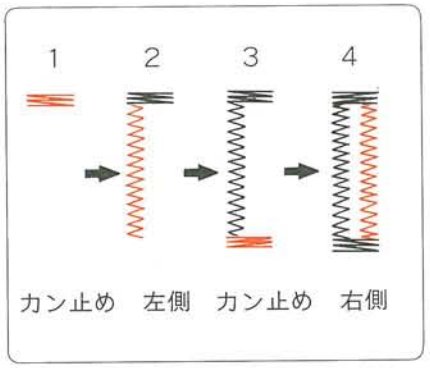


③押え上げレバーをおろしながら穴かがりのカン止めの位置と針おちの位置を合わせます。

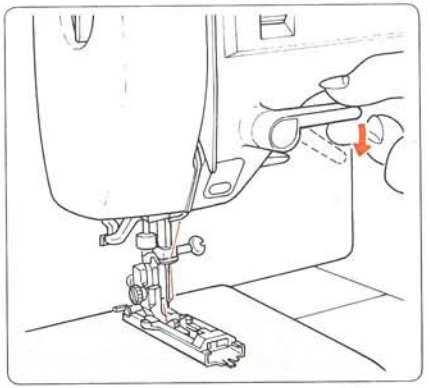
※このとき押えの赤印の部分が見えていないことをたしかめます。



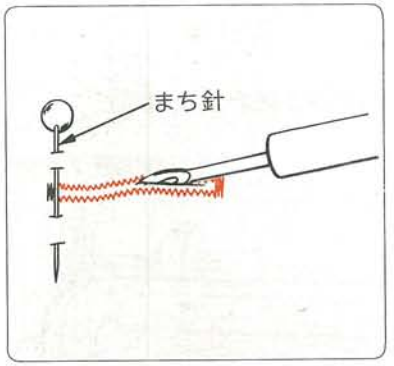
④ボタン穴かがりレバーを下におろし、手前に引いてステッチパネルにスタートランプ(赤)がつくのをたしかめます。



⑤ミシンをスタートさせると自動的に動いて図のような順序で縫えます。ボタン穴かがりが縫い終わると自動的に針があがった位置で止まります。



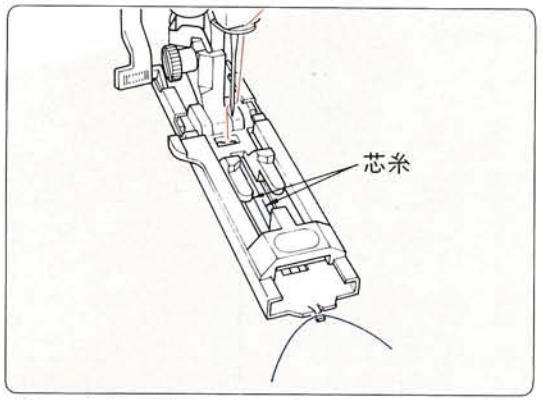
⑥縫い終ったら糸切りレバーを使って糸を切ります。



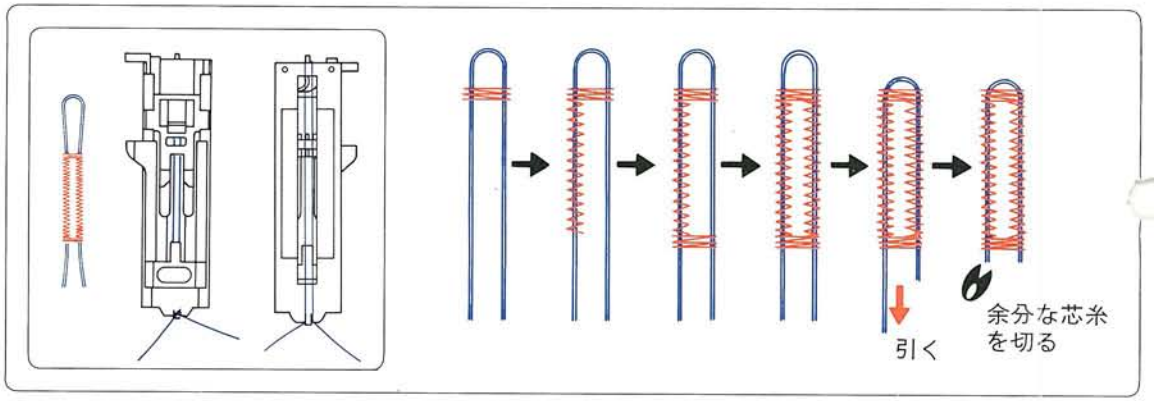
⑦リッパー(糸ほどき)で縫い糸を切らないように中央の布地を切り開きます。穴かがりの端にまち針をさしておくと切り開きすぎることがありません。

※ジャージー・トリコット等の伸縮性の素材に穴かがりをする場合は、布地の下に紙を敷くと美しい穴かがりができます。
※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸が切れたりした場合はミシンを止めて、糸を針からぬいて最初のカン止めの位置まで空縫いをして、最初の位置にもどして改めて縫います。

(2)芯入りボタン穴かがり

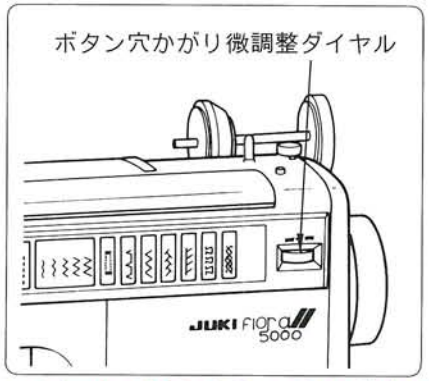


芯糸を入れて縫うとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。
芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。

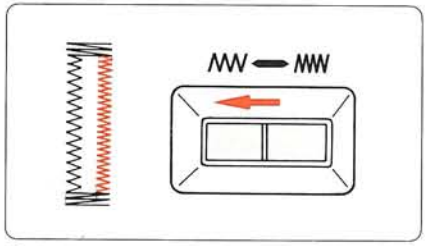


芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

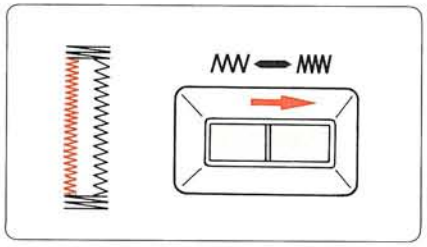
(3)ボタン穴かがり微調整



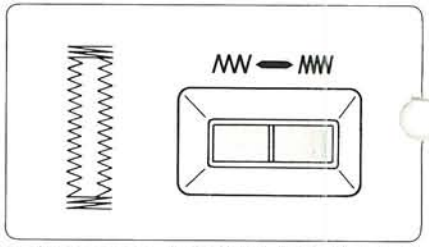
布地の種類によっては左側のかがりと右側のかがりに差が出る場合があります。そういうときはボタン穴かがり微調整ダイヤルを操作し、右のかがりを合わせます。左のかがりはステッチパネルで合わせたかがりです。



①右側のかがりが左側のかがりに対して密の場合は左へ回します。(矢印方向)



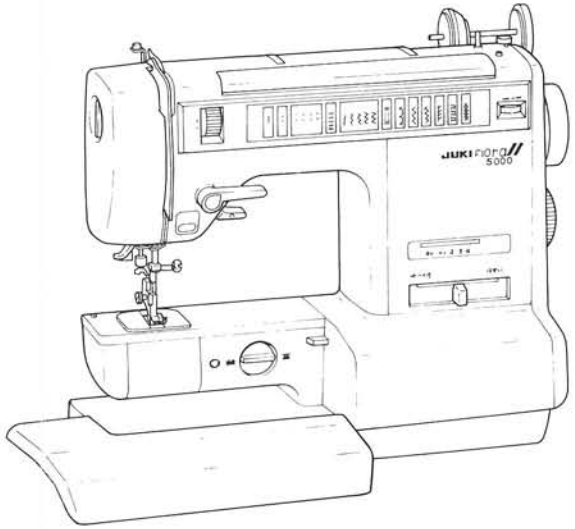
②右側のかがりが左側のかがりに対して粗い場合は右へ回します。(矢印方向)



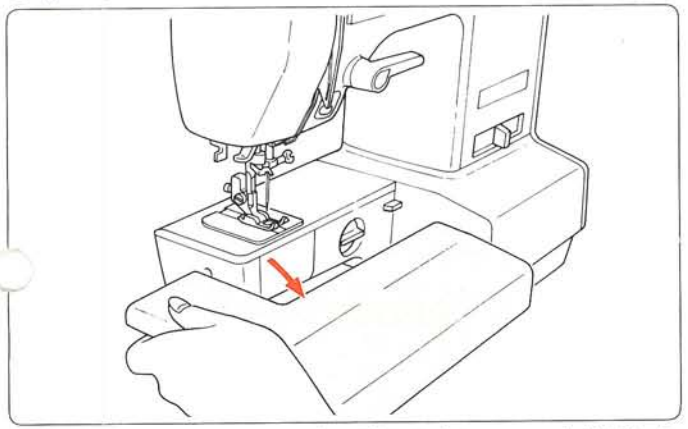
③普通の布地を縫う場合は指標をまん中の位置にもどしておきます。

※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸が切れたりした場合はミシンを止めて、糸を針からぬいて最初のカン止めの位置まで空縫いをして、最初の位置にもどして改めて縫います。
※縫い代が重なっている部分は、透明ボタン穴かがり押えを使います。(64ページ参照)

筒縫いは、カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンの裾、その他筒型になった部分を縫うのに大変便利です。



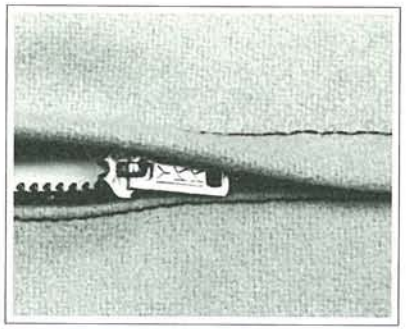
●平ベッドからフリーアームへ



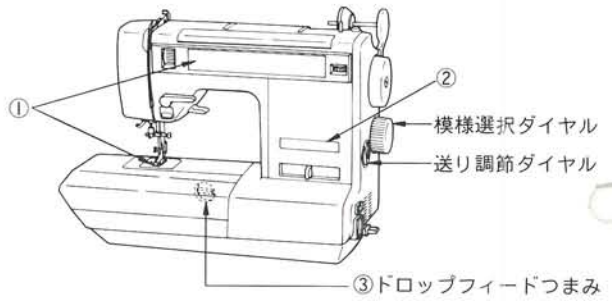
ベッドの左側面に手をかけ左へ引きますと、ベッドは下にさがります。

（セットのし方は7ページに詳しくかいてあります。）

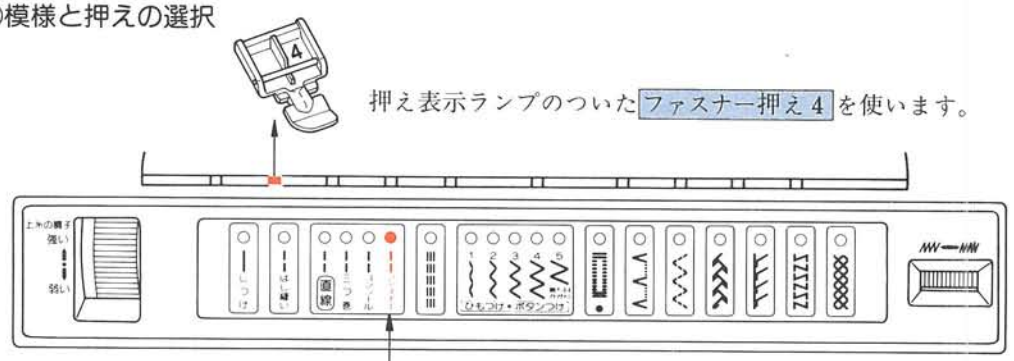
スカート、ブラウス、ワンピース等の明きの始末に使います。婦人用、女児用は前明き、後明き共に右身頃が上になります。脇明きは前身頃が上です。



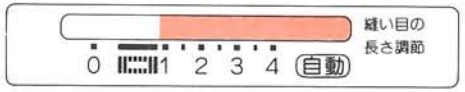
●セットのし方



①模様と押えの選択



②送りの調節

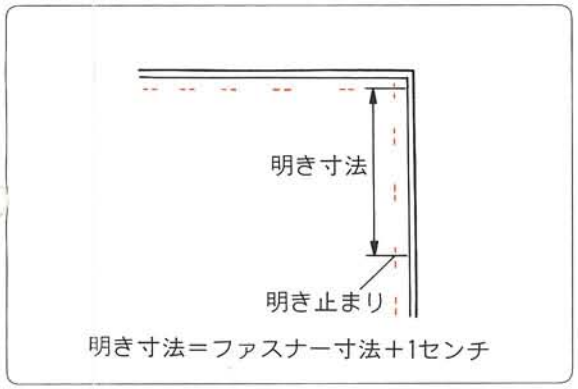


送り調節ダイヤルを回し、1～4または自動の目盛を選びます。

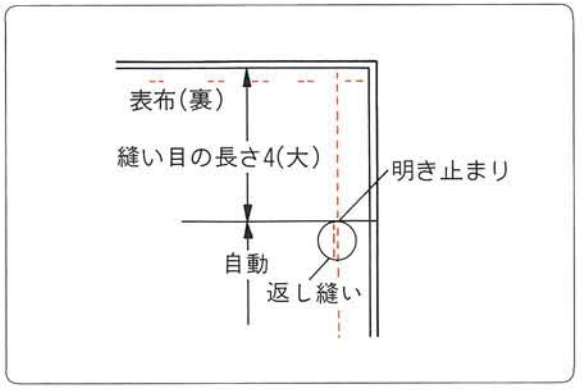
③ドロップフィード

●縫い方

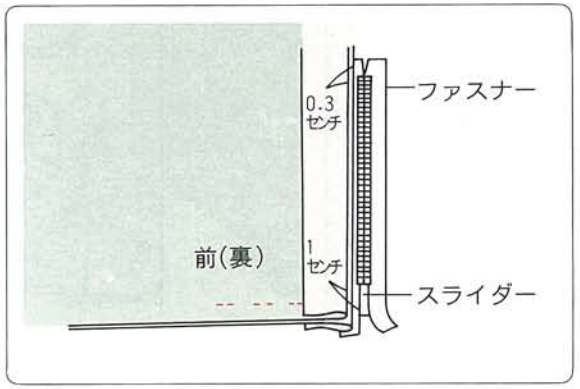
(1)脇明きファスナーつけ――ファスナーつけは左右共に明き止まりよりスライダーの方向にミシンをかけます。



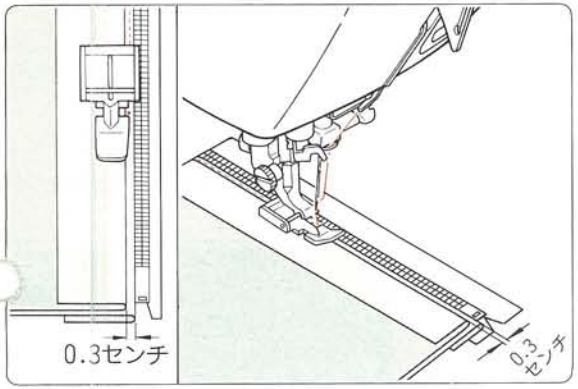
①ファスナー明きの寸法をたしかめます。



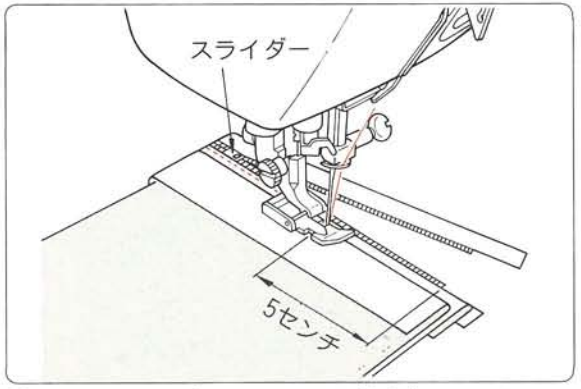
②布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで大きな縫い目で縫い、明き止まりで縫い目の長さを自動に変えて返し縫いをし、所定の位置まで縫います。



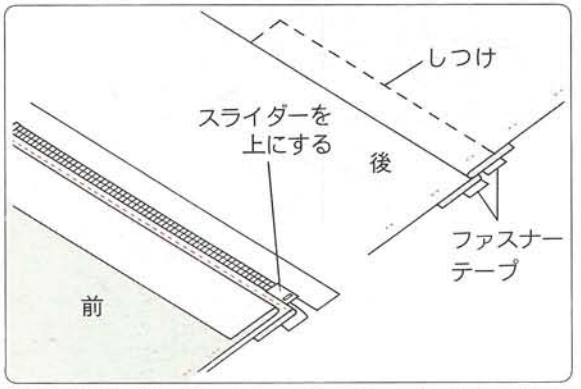
③縫い代をきっちりわり、後ろの縫い代を0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわに当てます。



④ファスナー押えの右側にセットし押えの端をムシのきわに当て後ろ脇にファスナーの片方をつけます。

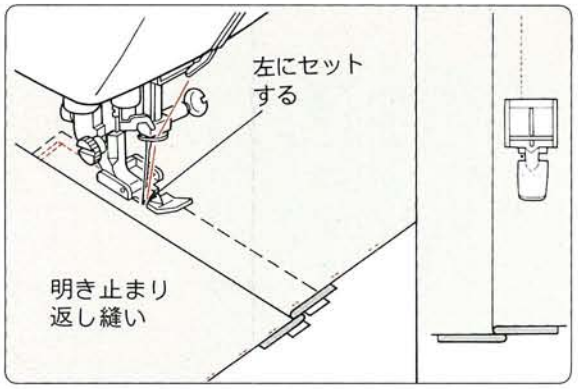


⑤ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、押えをあげて、ファスナーのスライダーを図のようにさげ、押えをおろして端まで縫い止めます。

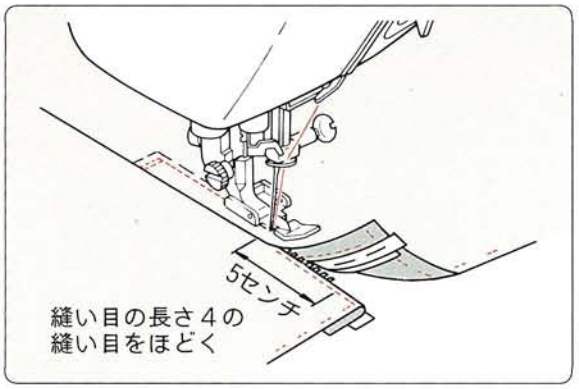


⑥後ろ脇が縫い終ったら、スライダーを上に引きあげて、さらに上に倒し、前布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布とファスナーテープをしつけで止めます。

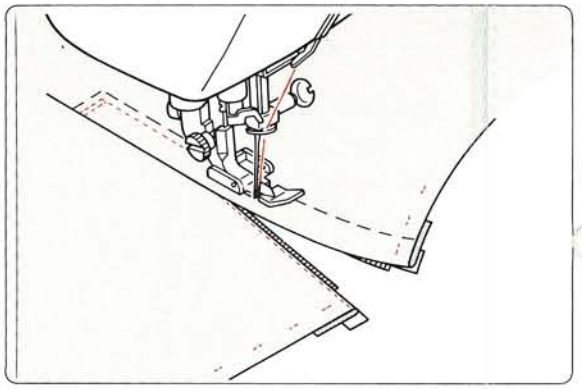
※次のページにつづきます。



⑦前脇につけるときは明き止まりを返し縫いして、押えの端をスライダーのきわに当て、0.7～1センチのミシンをかけます。

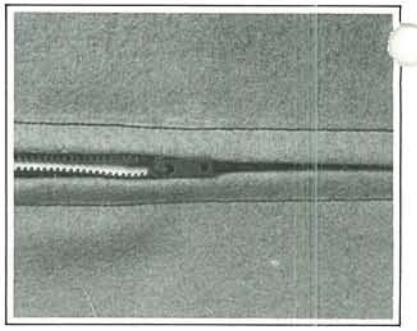


⑧ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、押えをあげて②で縫った大きな縫い目の部分のみほどきます。

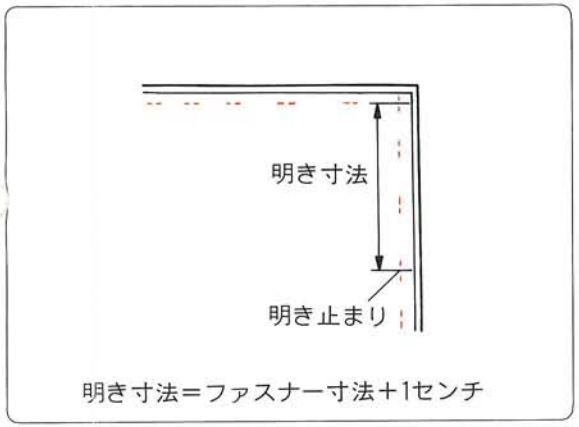


⑨スライダーを押えより下までおし開き、押えをさげて、端まで縫い止めます。

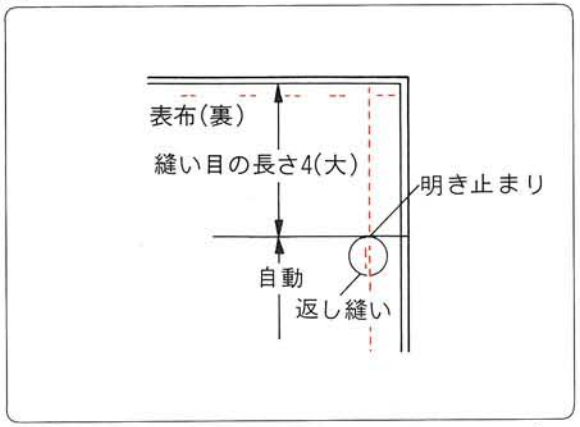
つき合わせファスナーつけ(35ページ)
の縫い見本



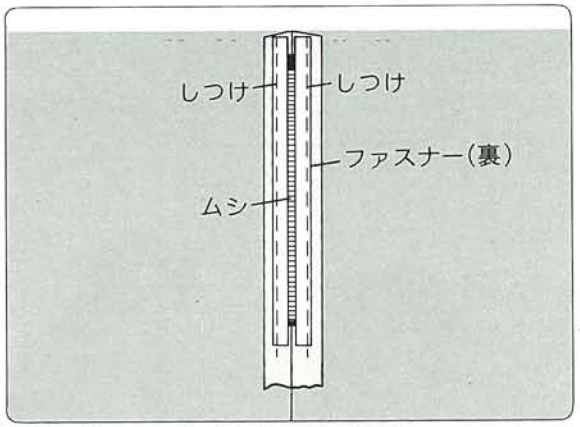
(2)つき合わせファスナーつけ(前明きファスナーつけ)



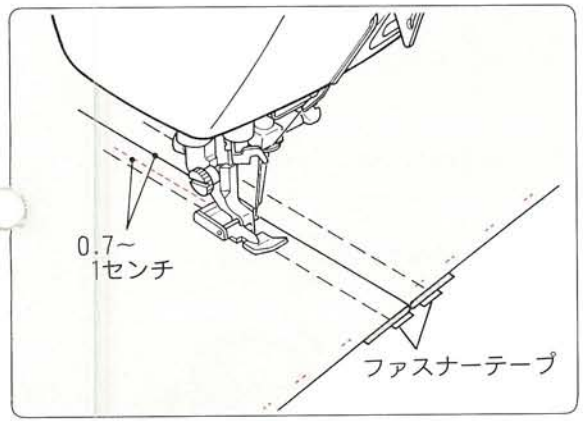
①ファスナー明きの寸法をたしかめます。



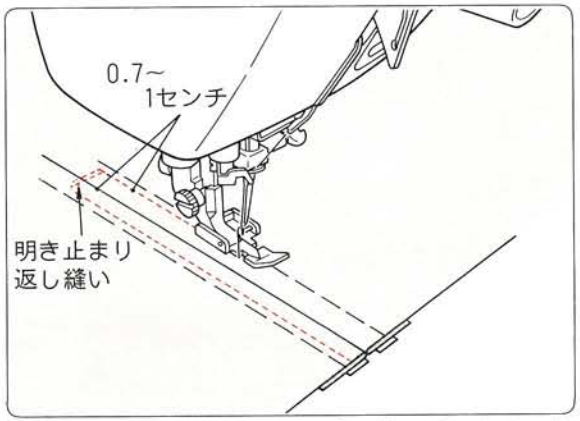
②布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで大きな縫い目で縫い、明き止まりで縫い目の長さを自動に変えて返し縫いをし、所定の位置まで縫います。



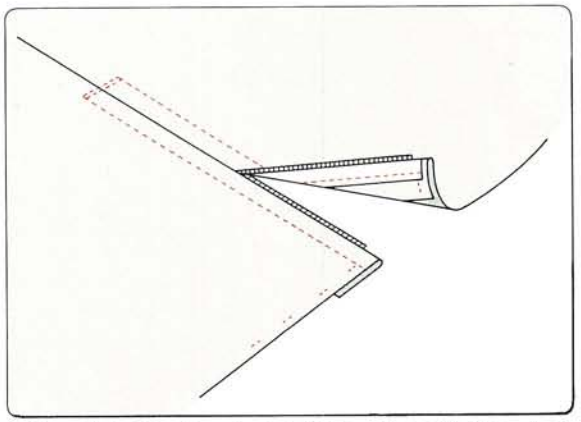
③縫い代をきっちりわり、縫い目線とファスナーのムシの中心を突き合わせ、表までしつけで止めつけます。ファスナーのスライダーは上に倒します。



④縫い目から0.7～1センチはなして、明き止まりより上に向ってミシンをかけます。



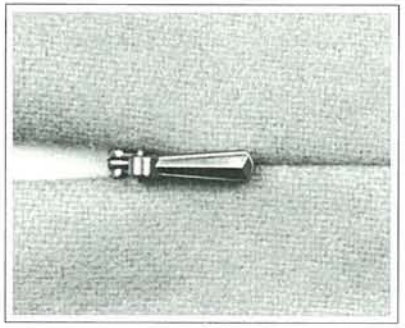
⑤明き止まりを返し縫いで丈夫に縫い止めもう一方も0.7～1センチはなしてミシンをかけます。



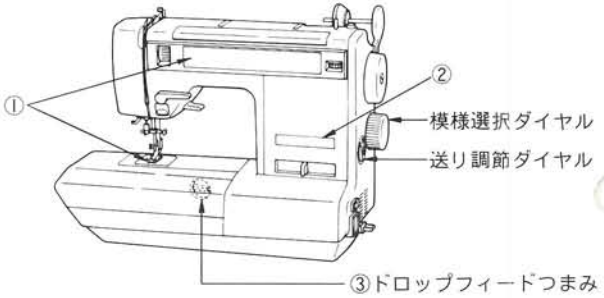
⑥しつけと②で縫った大きな縫い目のみほどきます。

コンシールファスナーつけ

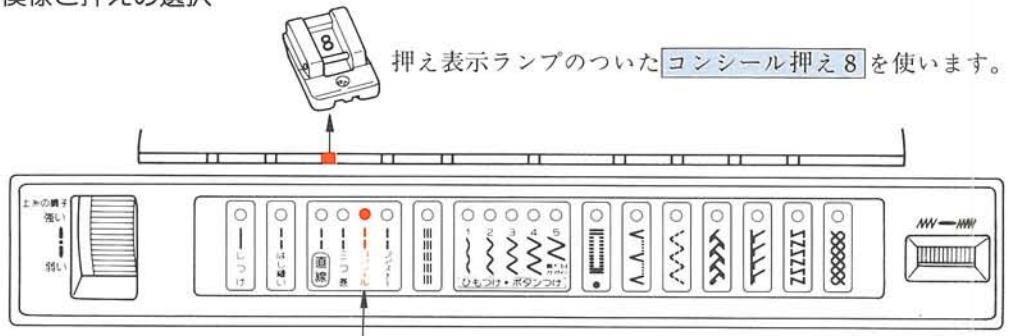
コンシールファスナーは、ファスナーの縫い目が布地の表に現われず、つき合わせの状態で明きの始末が出きますので、ドレッシーな縫製ができます。
ムシは金具のものと、樹脂性のものと2種類あります。



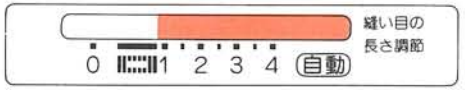
●セットのし方



①模様と押えの選択



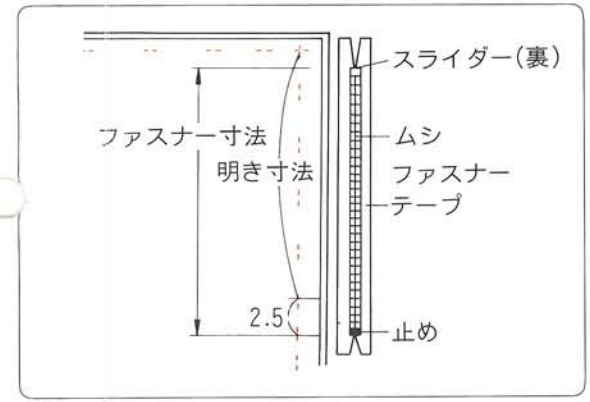
②送りの調節



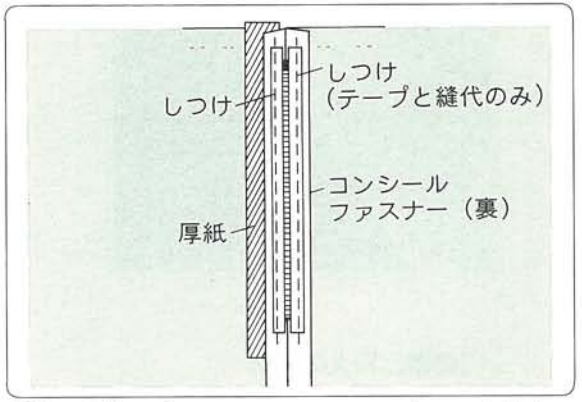
送り調節ダイヤルを回し、1～4または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード

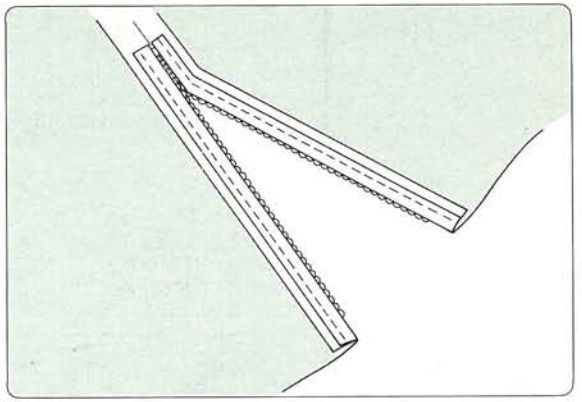
●縫い方——コンシールファスナーはファスナー寸法より2.5センチ明き寸法が短く(縫い残しができる)なりますので、図を見て正しく明き寸法をきめます。



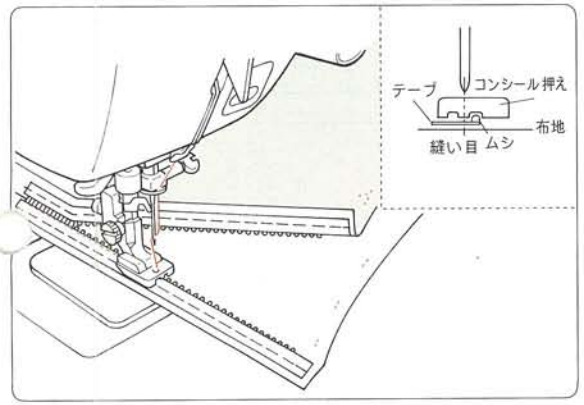
①布端から明き止まりまで大きな縫い目で縫い、明き止まりで送りを自動に変えて返し縫いをし、所定の位置まで縫います。
②縫い代をきっちりわります。



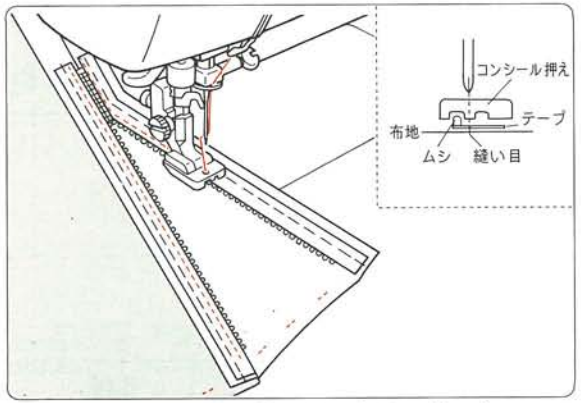
③縫い目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて縫い代と表布の間に厚紙を入れ、縫い代とファスナーテープを両側ともしつけでしっかり縫い止めます。しつけが終ったら厚紙をとります。



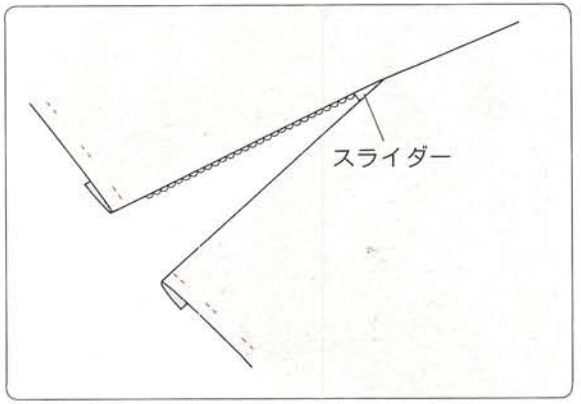
④明き止まりまで①で縫った大きい縫い目の部分のみほどきます。



⑤一方の縫い代をファスナーのムシを押えのみぞにきっちり合わせ、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにミシンをかけます。



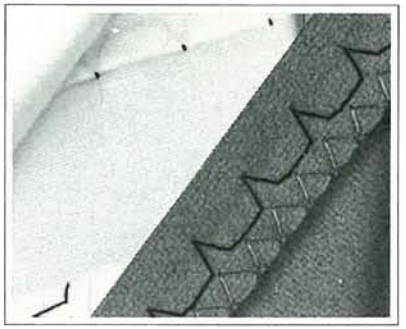
⑥もう一方の縫い代も⑤と同じ方法で縫い合わせます。



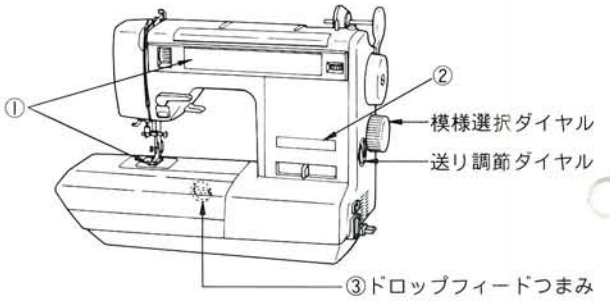
⑦スライダーを中より出し、上に引きあげます。

ブラインドステッチ(まつり縫い)

ズボンやスカート、ブラウス、シャツなど袖口や裾をまつるときに使います。

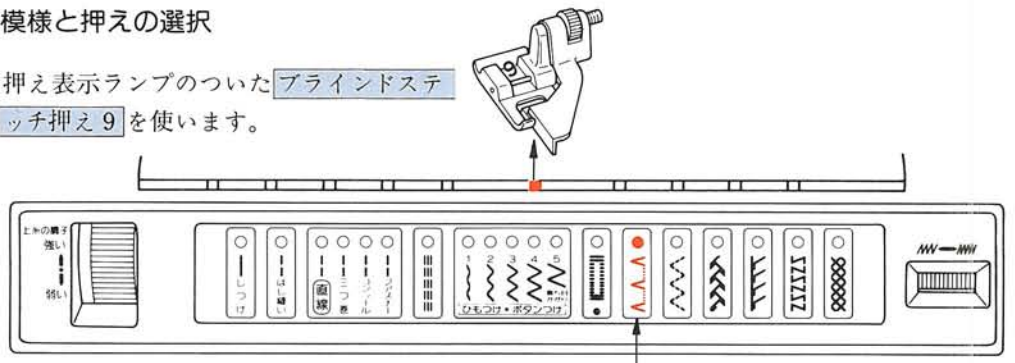


●セットのし方



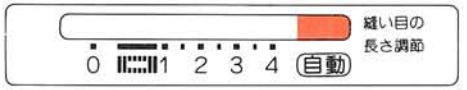
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついたブラインドステッチ押え9を使います。



模様選択ダイヤルを回し、ブラインドステッチに合わせます。

②送りの調節

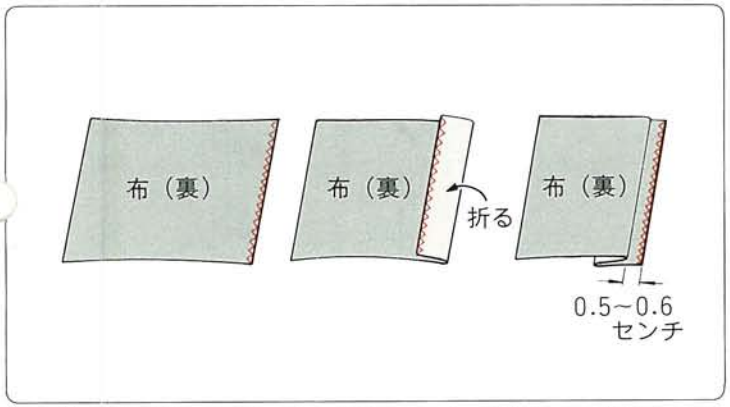


送り調節ダイヤルを回し、自動に合わせます。

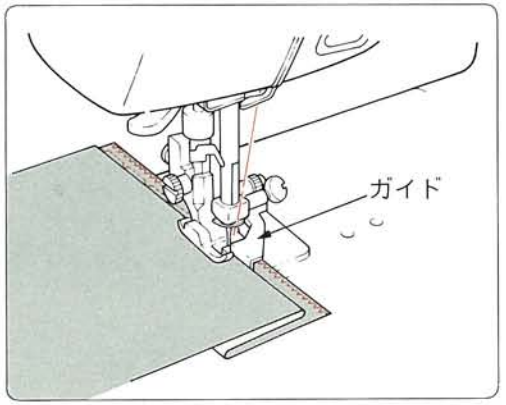
③ドロップフィード

●布地の折り方と縫い方

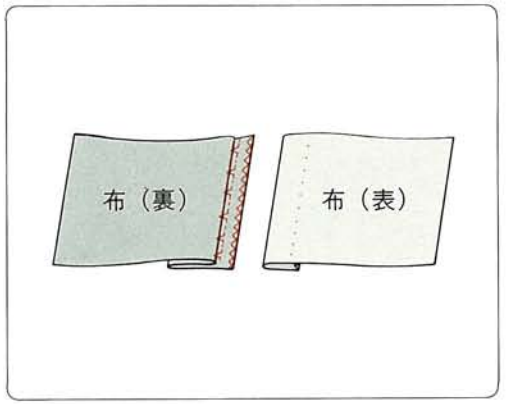
(1)普通地・厚地の場合



①布端を裁ち目かがりして、布地を２つに折りもう一度折ります。

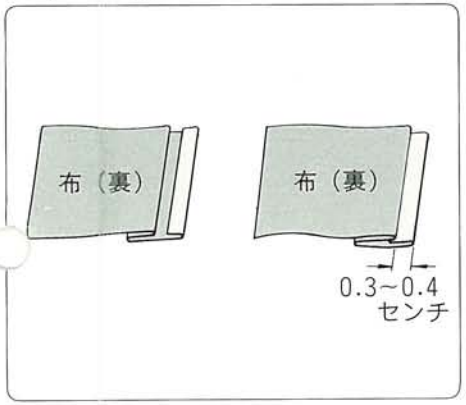


②ブラインドステッチのガイドを折り山にピッタリ当てて縫います。

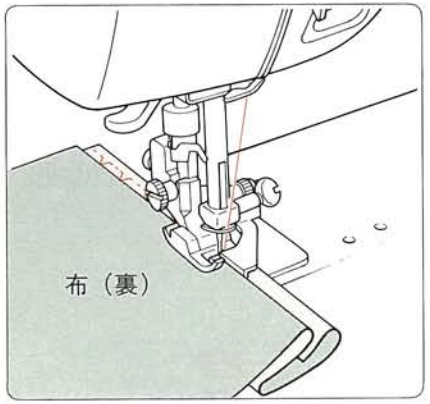


③縫い終り。

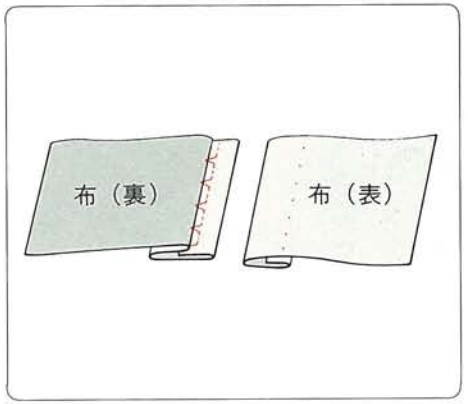
(2)薄地の場合



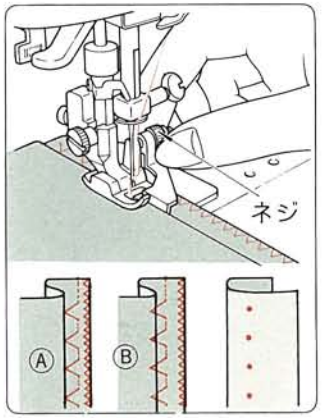
①上図の様に布地を折ります。



②ブラインドステッチのガイドを折り山にピッタリ当てて縫います。



③縫い終り。

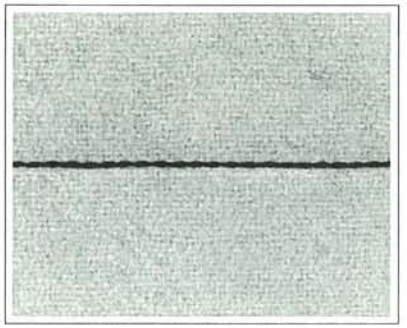


針が折り山にかかっていないときⒶはネジを手前に回すと深くなります。針が折り山にかかりすぎるときⒷはネジを反対に回すと浅くなります。

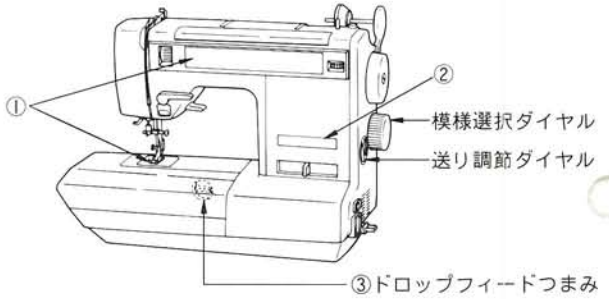
※使用糸は布地の色と同色が最適です。左側におとす針が必要以上にかかりすぎると表に出る縫い目が大きくなり、きれいに仕上りません。

伸縮強化縫い(ストレッチステッチ)

ジャージー、トリコット、ニット等の伸縮性のある布地に適します。力がかかってほつれやすい部分にこの縫いを使うと一回縫うだけでしっかりと丈夫に仕立てることができます。

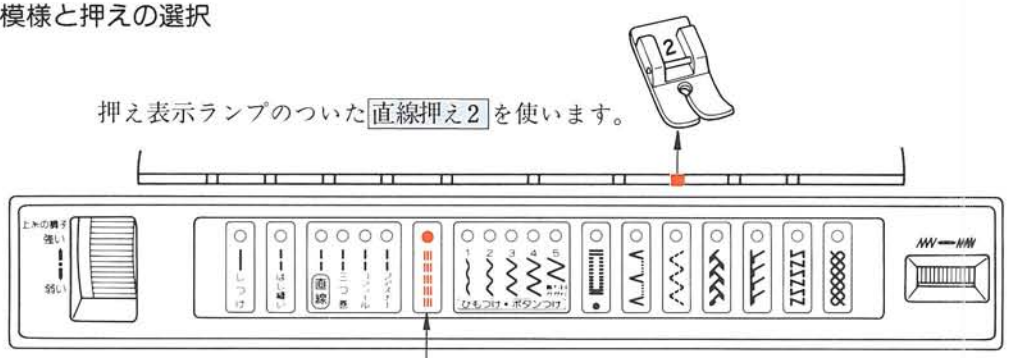


●セットのし方



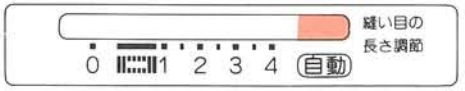
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた直線押え2を使います。



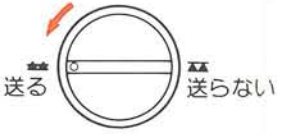
模様選択ダイヤルを回し、ストレッチステッチに合わせます。

②送りの調節



送り調節ダイヤルを回し、自動に合わせます。

③ドロップフィード



●直線縫いの途中で部分的に強化縫いをする場合

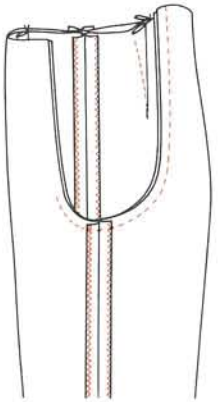
模様選択ダイヤルをストレッチステッチに合わせて縫うことができます。

応用例

○よく使用するポケット

○袋布の周囲

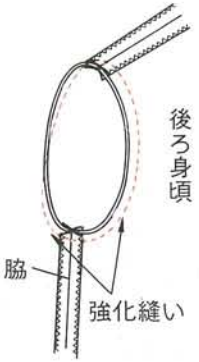
○パンツ類の股ぐり
二度縫いするときに便利です。



○ベルト通し
力のかかるところに使います。

○袋もののとって

○袖つけ
後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。

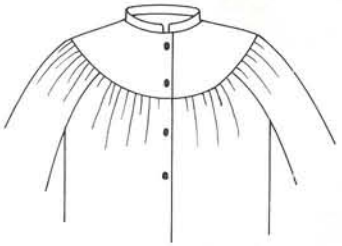


縫い合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入ったものを縫う場合、たとえばウエストはぎ、ヨークつけ、カフスつけなどに使用すると縫い目がしっかりとできあがります。

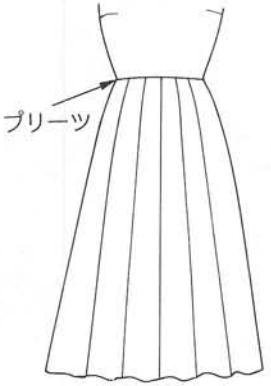
○ウエストはぎ

○カフスつけ

○ヨークつけ

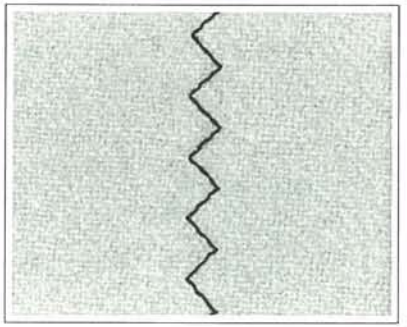


○ウエストはぎ

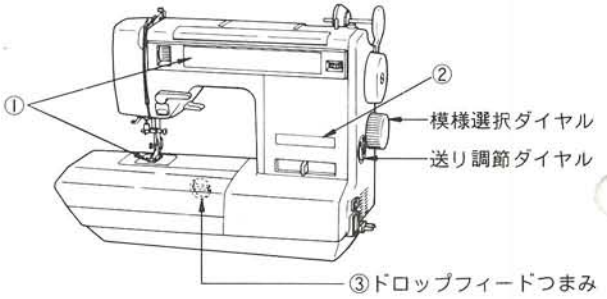


三点ジグザグ縫い(エラスチックステッチ)

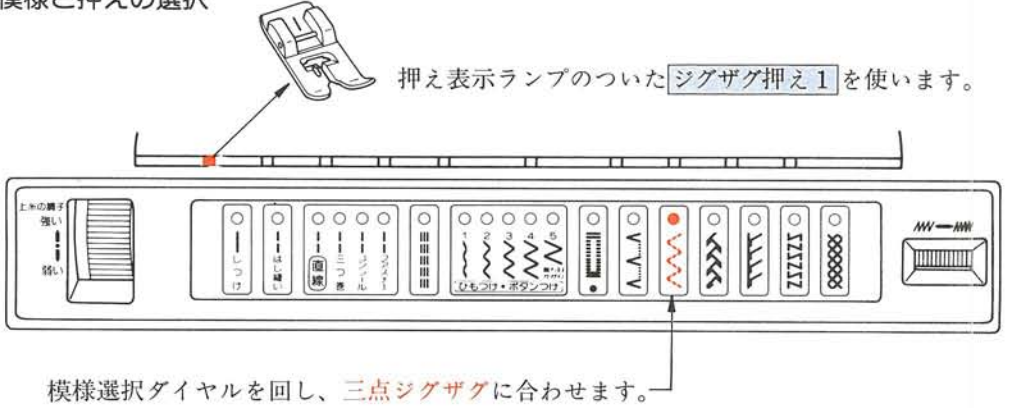
ゴムテープを布地に縫いつける場合や、吊りテープインサイドベルトを縫い止める場合など、三点ジグザグ縫いで縫いつけますと、きれいに丈夫に縫い止められます。



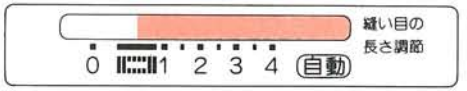
●セットのし方



①模様と押えの選択



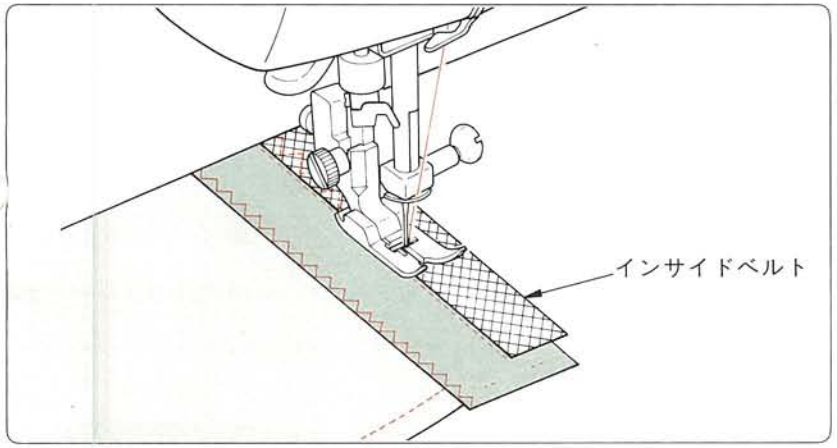
②送りの調節



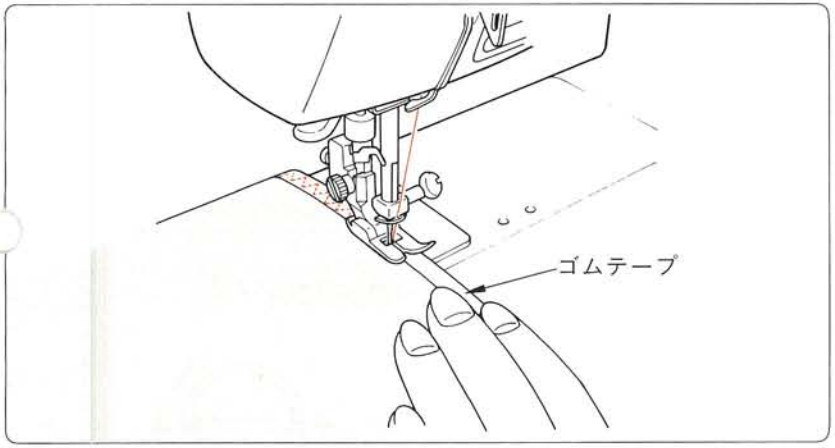
送り調節ダイヤルを回し、0.5〜4 または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード

●三点ジグザグのインサイドベルトつけ



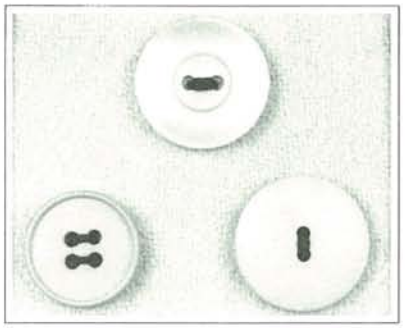
●三点ジグザグのゴムひもつけ



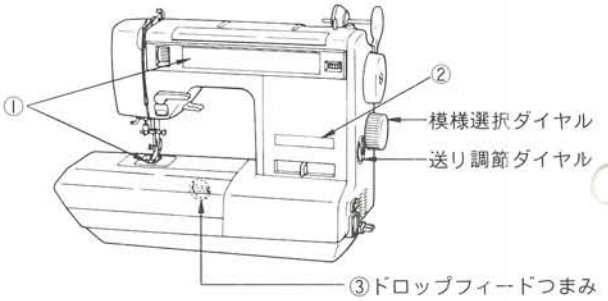
※ゴムテープを縫いつける場合は、押え調節つまみを「弱い」にし、上糸の調子は弱くします。ゴムテープは前後をのばしながら縫います。

応用例

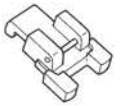
婦人服、子供服、シャツ、ブラウスなどのボタンをつけるのに用います。糸端をきちんと結んでおけば丈夫にでき、大変便利です。



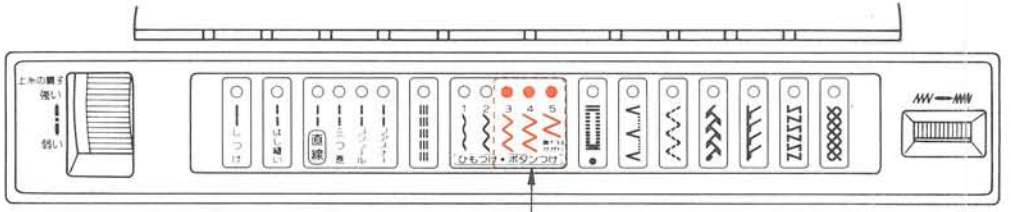
●セットのし方



①模様と押えの選択



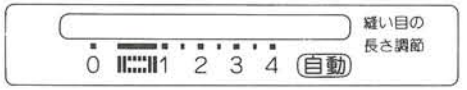
押えは付属品袋の中に入っている ボタンつけ押え を使います。



ボタン穴の間隔を計り、模様選択ダイヤルを振り幅3・4・5のいずれかのジグザグに合わせます。

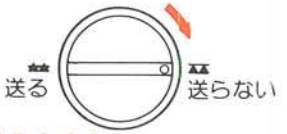
※自動糸切りは使用しません。

②送りの調節



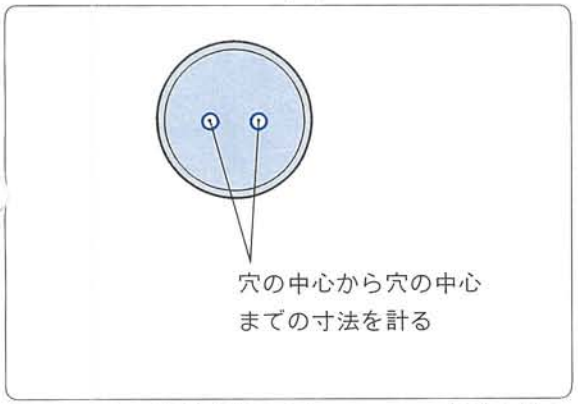
※布は送らないため、指標はどこにあってもかまいません。

③ドロップフィード

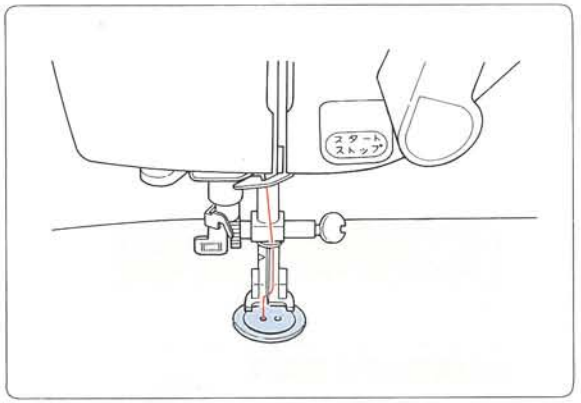


※布は送りません。

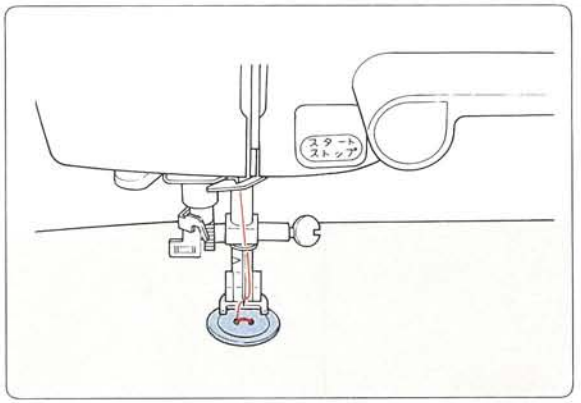
●ボタンつけの方法(1)



①ボタン穴の間隔を計ります。ミシンの振り幅は3・4・5とありますからボタン穴の間隔に合わせて模様選択ダイヤルを回します。

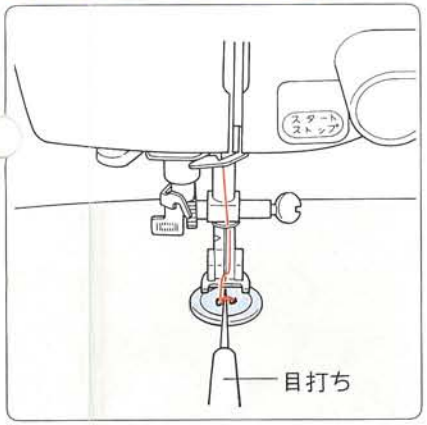


②ボタンつけ押えをつけ、ドロップフィードつまみを「送らない」(▲▲)に合わせ、ボタンを押えの下に入れます。
※ボタンをセットしたらはずみ車を回して針の落ちる位置をたしかめます。

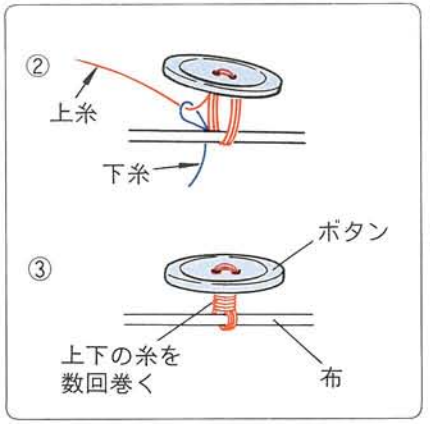


③押えをさげて、低速で7～8針縫います。縫い終ったら押えをあげて上糸・下糸共に10センチ程つけて切り、上糸を布地の裏側に引き出して結びます。

●ボタンつけの方法(2)



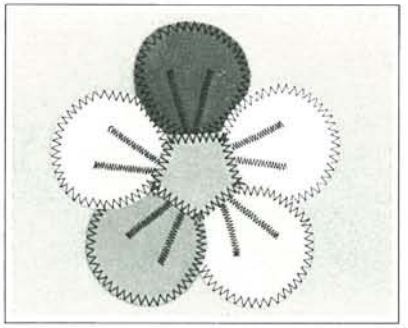
①ボタンつけの足を必要とする場合は、ボタン穴の中間に目打ちの先などをのせて、糸を浮かせて縫います。



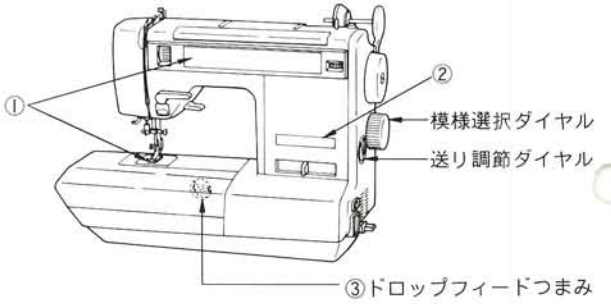
②7～8針縫ったら糸を20センチ程つけて切り上糸をボタンと布地の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布地の間に引き出します。

③引き出した上下糸を手縫い針に通し、浮かせたボタンの足の部分に5～6回巻きつけてから縫いのきわの布をすくい、結び切ります。

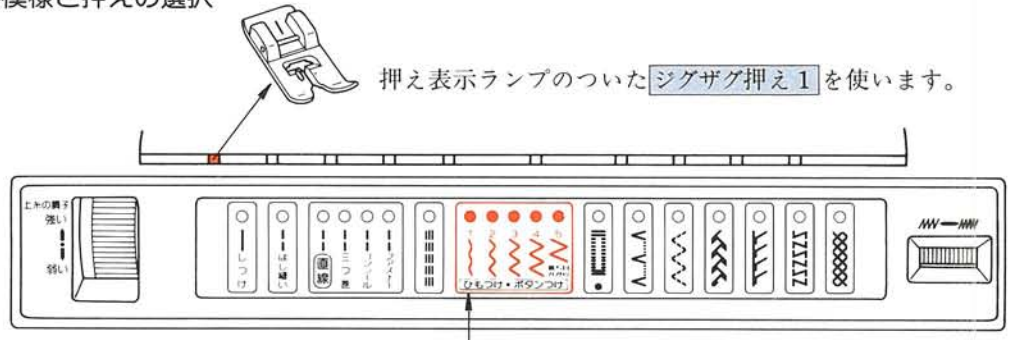
市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単に縫いつけられます。子供服、スカート、エプロン、テーブルクロス、クッション等、室内装飾にも活用できます。



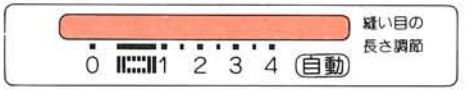
●セットのし方



①模様と押えの選択

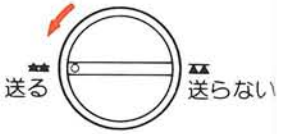


②送りの調節

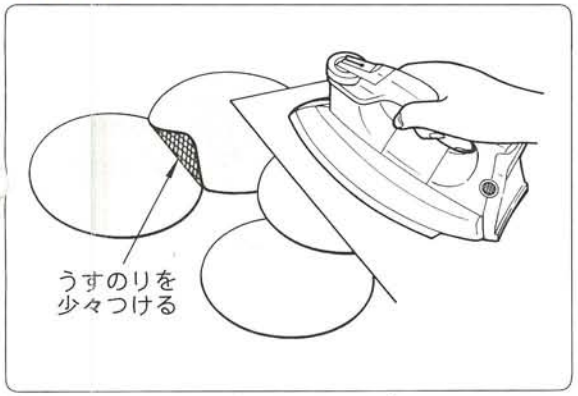


送り調節ダイヤルを回し、0～4または自動の目盛を選びます。

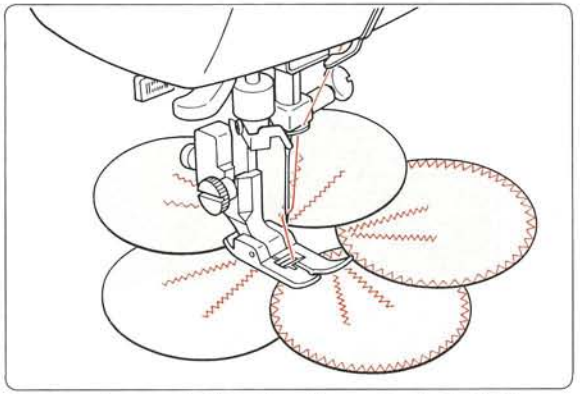
③ドロップフィード



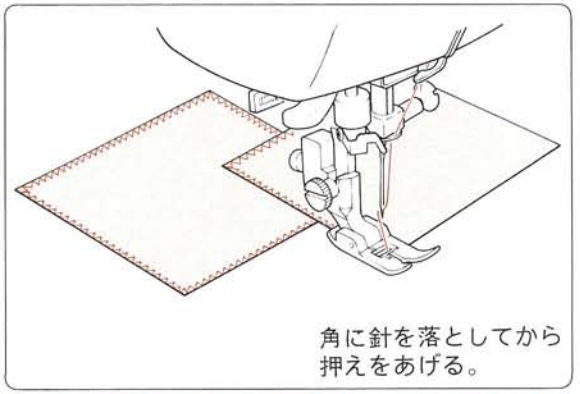
●縫い方



①アップリケ布を所定の位置に正確にのりづけや、しつけで止め、当て布を当てて、かるくアイロンで押えます。

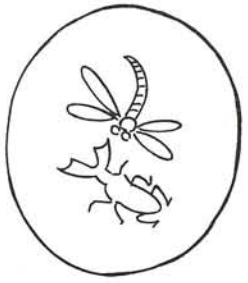


②アップリケの布端を裁ち目かがりと同じ要領で、ジグザグ縫いで縫いつけます。縫い始めと終りは直線縫いで送りを0にして2～3針止め縫いをします。振り幅2か3のジグザグ縫いに合わせて、アップリケ縫いをします。

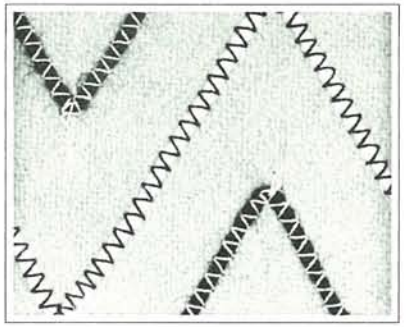


※急角度のところや、布地の方向を変えて縫う場合は、はずみ車を回して針をアップリケの布端に落とし込んでから方向を変えるようにします。

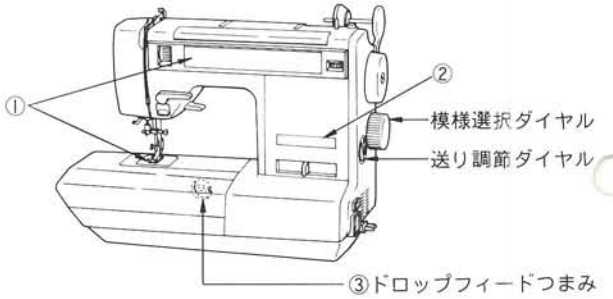
応用例



毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、図案にそってジグザグ縫いで止めつけるものです。子供服エプロン、インテリア小物などに応用します。

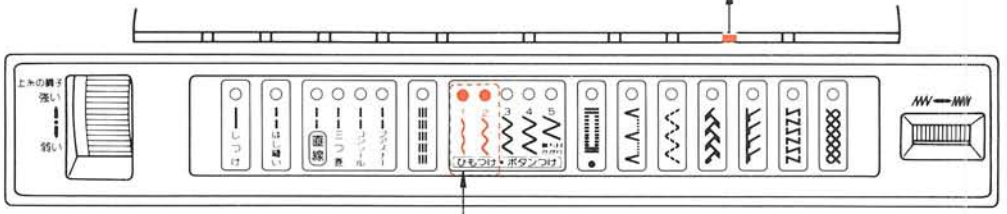


●セットのし方



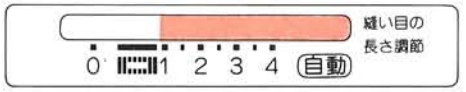
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた ひもつけ押え 3 を使います。



模様選択ダイヤルを回し、振り幅1・2いずれかのジグザグに合わせます。

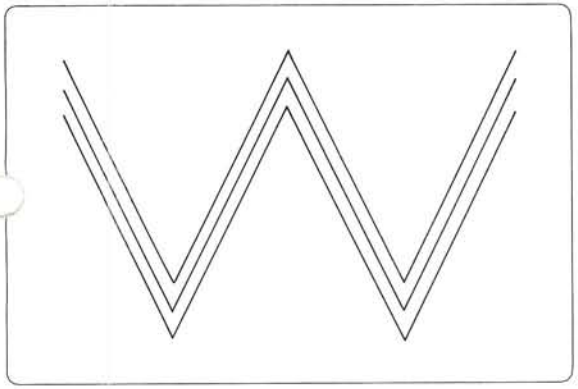
②送りの調節



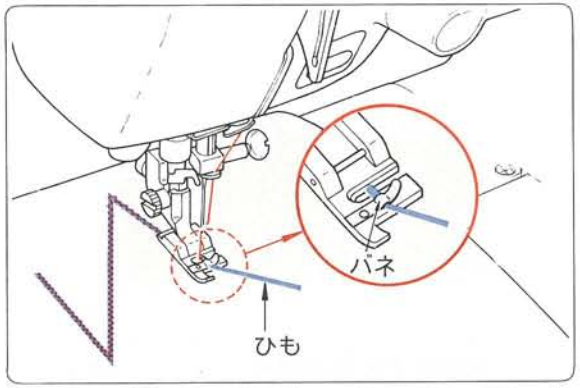
送り調節ダイヤルを回し、1～4または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード

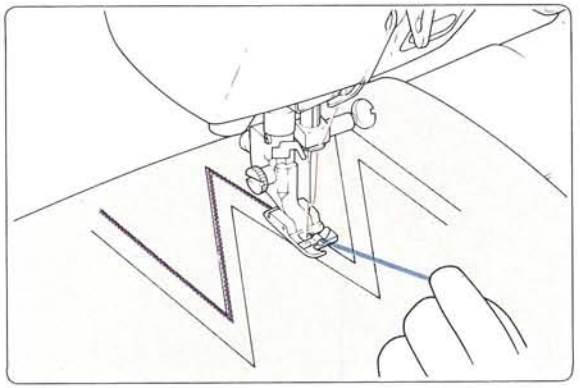
●縫い方



①図案をかきます。

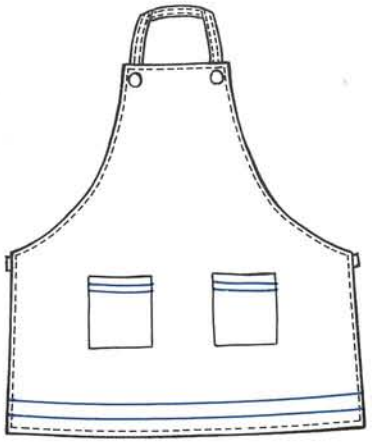


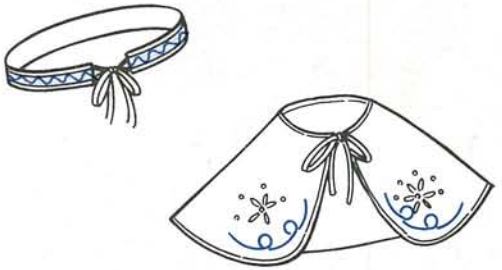
②ひもつけ押えのバネの下にひもを通し、ひもの先端はひもつけ押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。



③図案にそって縫います。縫い始めと縫い終りの上糸は布地の裏に引き出して結び切ります。

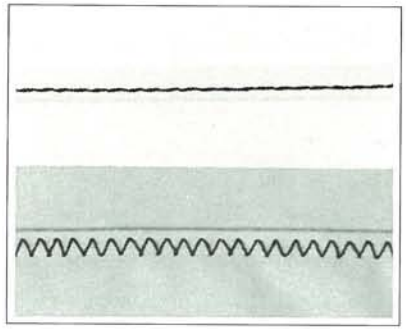
応用例



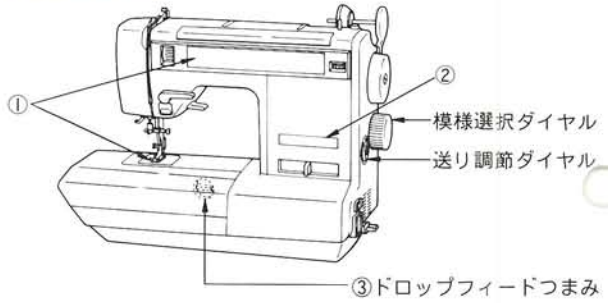


三つ巻き縫い

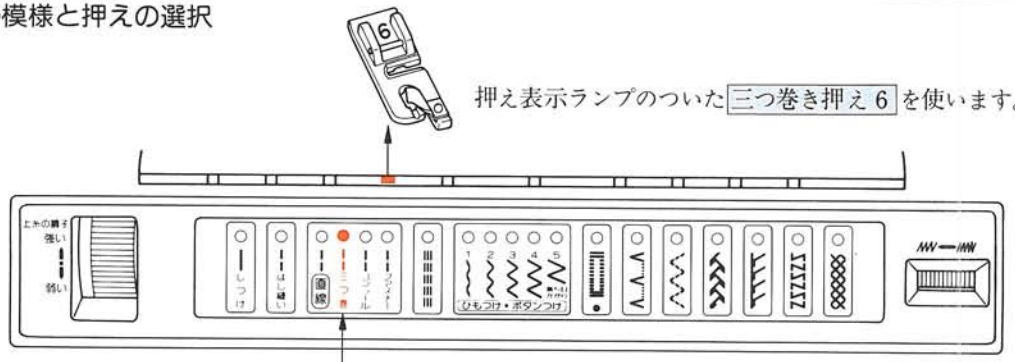
布端を三つ折りにしながら縫います。三つ折の幅には制約がありますが、きれいに始末できます。
シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。



●セットのし方



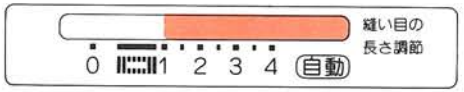
①模様と押えの選択



押え表示ランプのついた三つ巻き押え6を使います。

模様選択ダイヤルを回し、三つ巻に合わせます。

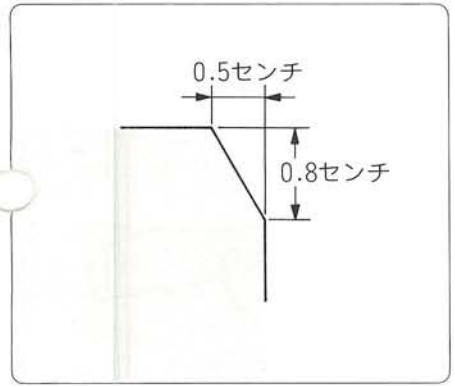
②送りの調節



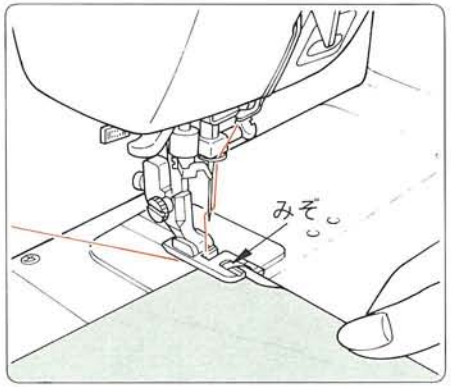
送り調節ダイヤルを回し、1～4または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード

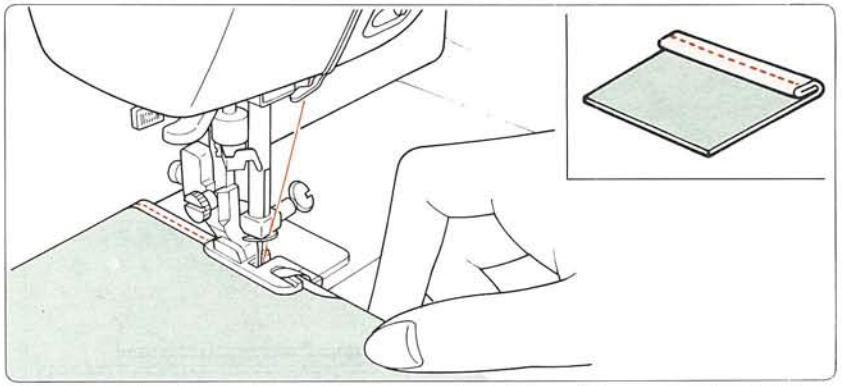
●縫い方



①布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。

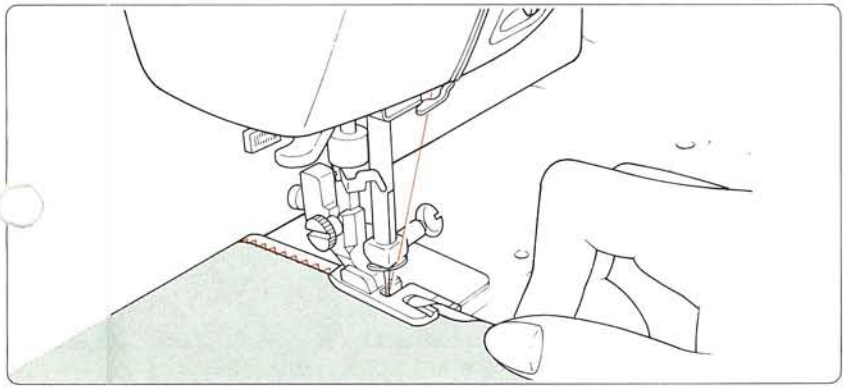


②上下の糸を10センチ程引き出しておきます。
③三つ巻き押えのうず状のみぞの中に布地を針のとどくところまで入れてから、押えをおろします。



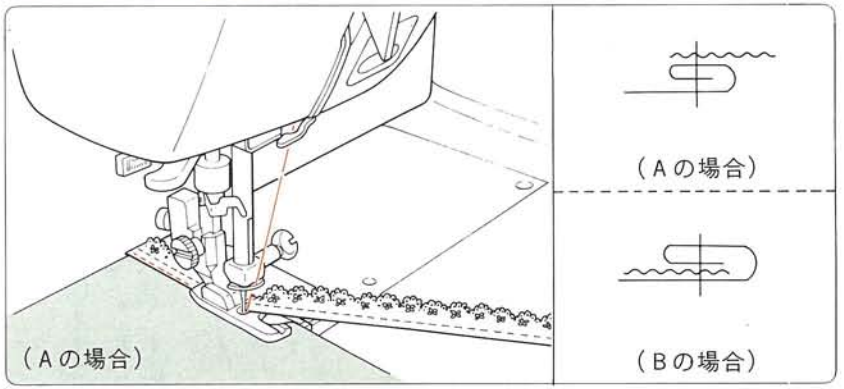
④上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3～4回程度回し、正しく巻きましたら右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにして縫います。

●ジグザグ縫いの場合



※ジグザグ縫いで三つ巻き縫いをするときは、模様選択ダイヤルを振り幅2のジグザグ縫いに合わせ、直線と同じ方法で縫います。
ハンカチ、スカーフ等の縫い代をかがるのに最適です。

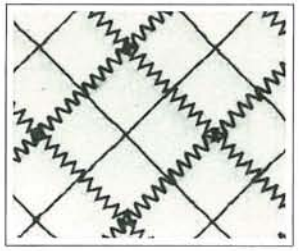
●レースつけの場合



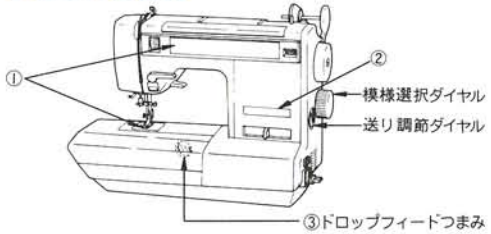
(A図)布地を三つ巻きにしながら、レースを布地の上から縫いつけていく方法
(B図)レースを三つ巻きと布地との間におき、布地を三つ巻きにしながら、布地とレースを縫いつける方法

キルティング

2枚の布地を合わせて縦、横、斜めと平行に縫い目を入れる縫い方で、直線縫いでも模様縫いでもできます。2枚の布地の間に綿などを入れると防寒や装飾に役立ちます。



●セットのし方

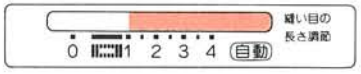


①模様と押えの選択

押えは ジグザグ押え1 または 直線押え2 を使います。
※押えホルダーに棒定規をとりつけます。

模様選択ダイヤルで、好みのステッチに合わせます。

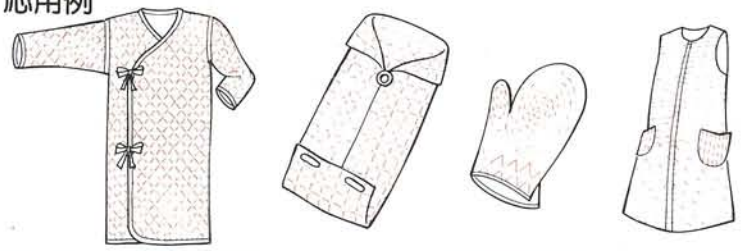
②送りの調節



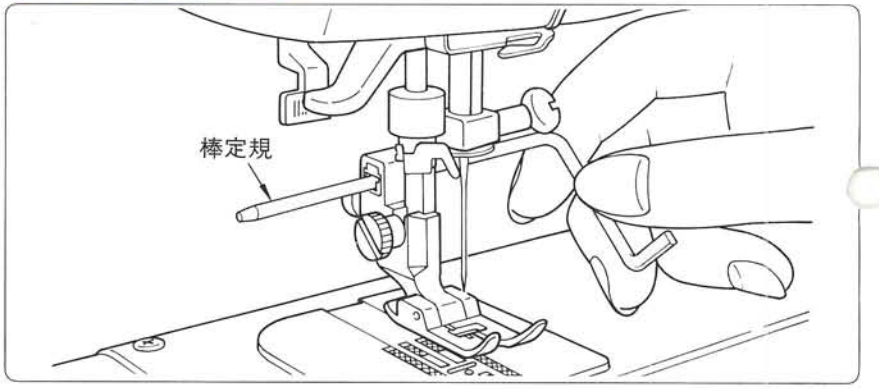
送り調節ダイヤルを回し、1～4または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード

応用例

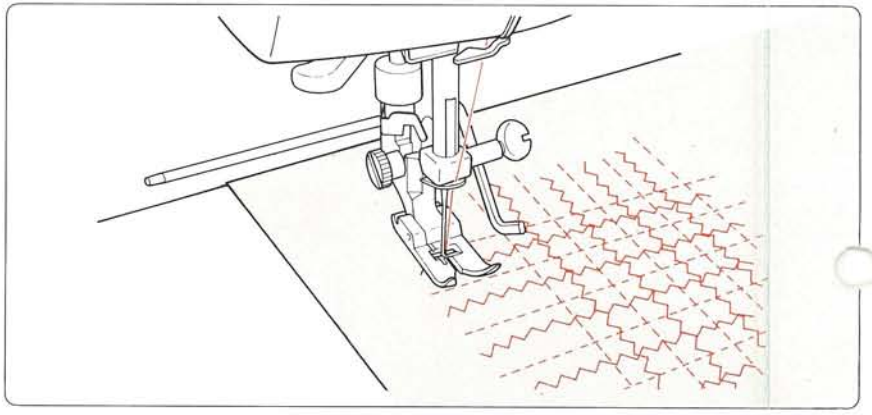


●棒定規のとりつけ方



押えホルダーに棒定規を止めるみぞがありますから、そこに棒定規を差し込みます。

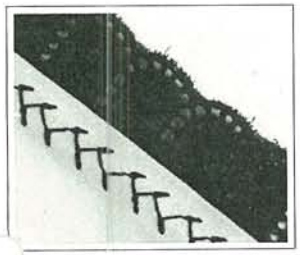
●縫い方



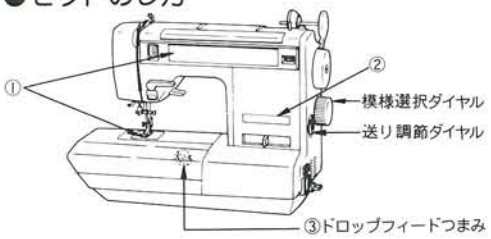
棒定規は自由に左右の調節ができますから、好みの間隔に調節します。
（縫い目の間隔を広くしたいときは棒定規を右方向にし、狭くしたいときは左方向に寄せます。）
前に縫った縫い目を棒定規の先でたどりながら縫います。

レースつけ

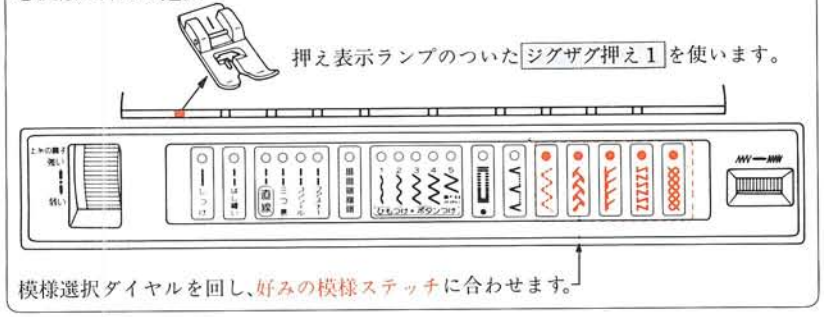
ブラウスの袖口、衿、ワンピースの裾、フリルの端やエプロン、枕カバーなどにレースをつけるとき、自動模様縫いでつけると美しく丈夫にレースつけができます。



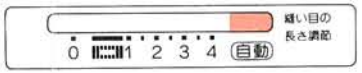
●セットのし方



①模様と押えの選択



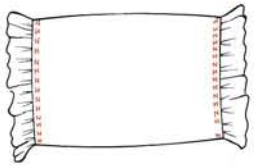
②送りの調節



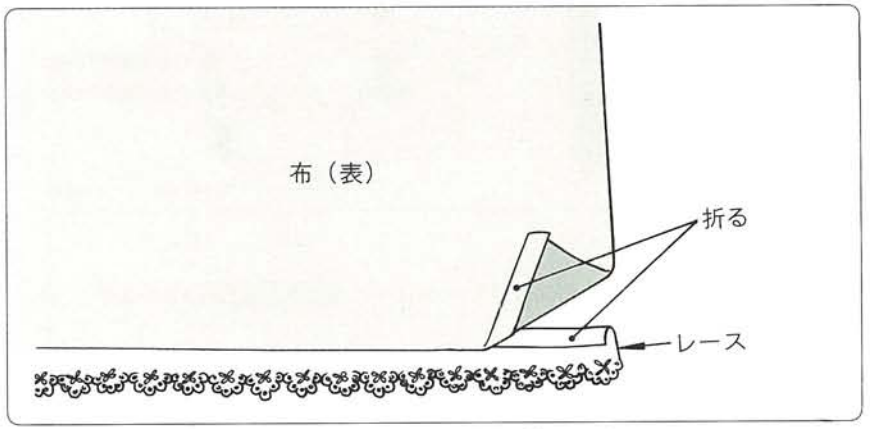
送り調節ダイヤルを回し、自動に合わせます。

③ドロップフィード

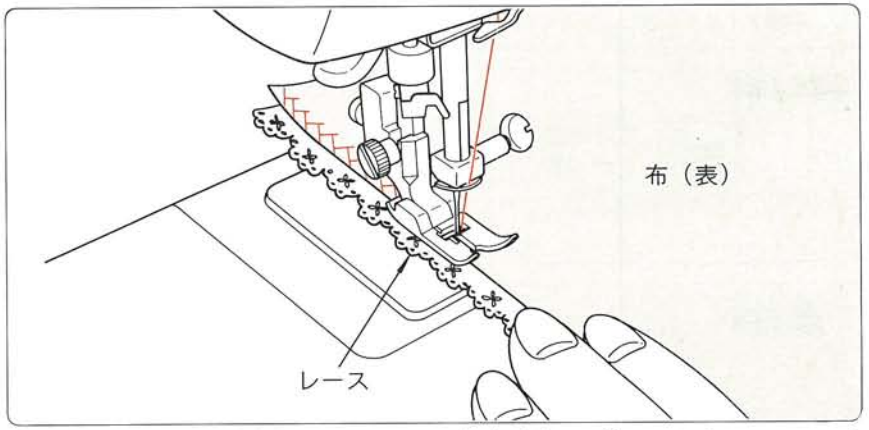
応用例



●縫い方



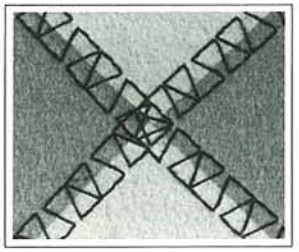
①布端とレースの端をアイロンできっちり折り曲げます。



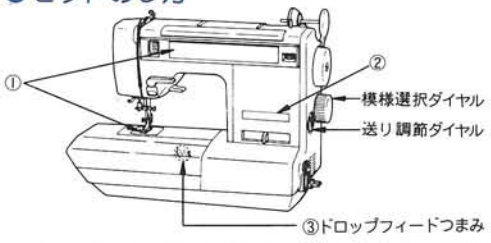
②模様縫いで布地の右側より、レースと布端の折りを押えるように、ミシンをかけます。

パッチワーク

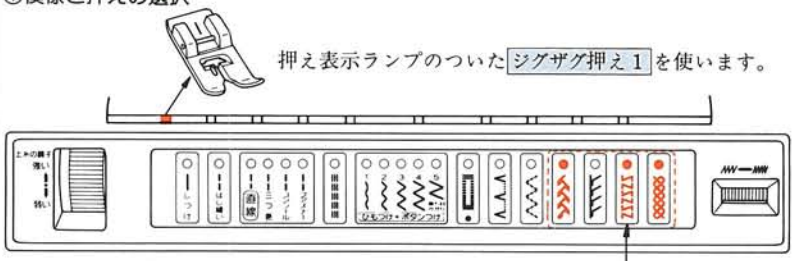
いろいろな布をはぎ合わせるのに自動模様を使うと美しく、縫い代がしっかり押えられます。
残り布などを活用し、小物類や室内装飾に応用します。



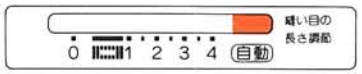
●セットのし方



①模様と押えの選択



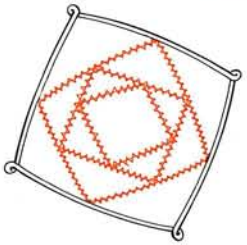
②送りの調節



送り調節ダイヤルを回し、自動に合わせます。

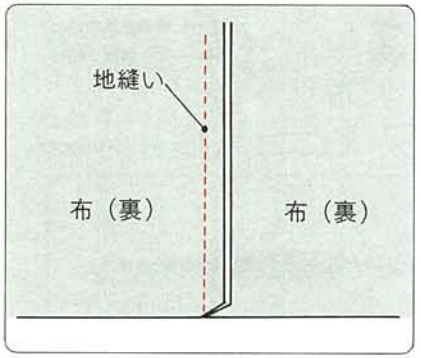
③ドロップフィード

応用例

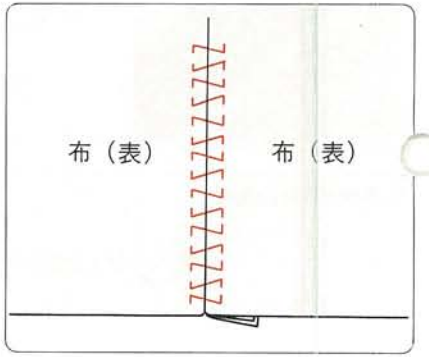


●縫い方

(1)重ねはぎ

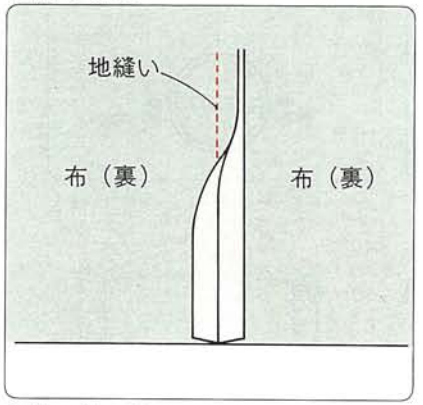


①縫い代を1センチとり、2枚の布地を中表に合わせ、地縫いをしてから縫い代を片返しにします。

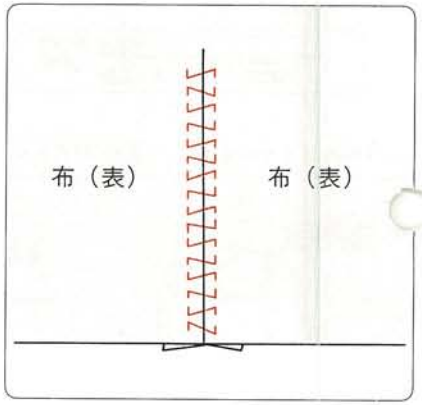


②はぎ目を押えの中央に合わせて、両方の布地に模様がまたがるようにして縫います。

(2)わりはぎ

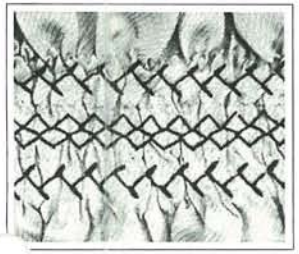


①縫い代を約1センチとり、2枚の布地を中表に合わせ、地縫いをしてから、縫い代をきれいにわります。

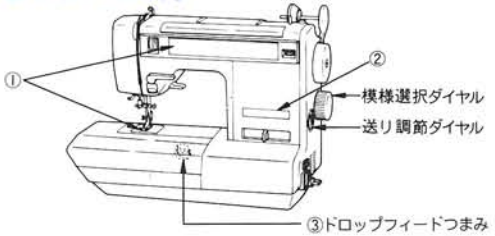


②突き合わせになっている表布から、両方の布地に模様がまたがるようにして縫います。

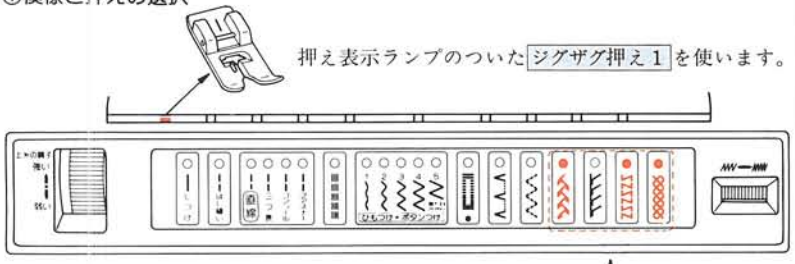
ギャザーを寄せた布地の上に配色のよい色で模様縫いをします。子供服やブラウス、手芸品などに応用します。



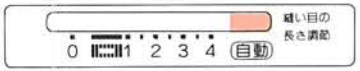
●セットのし方



①模様と押えの選択



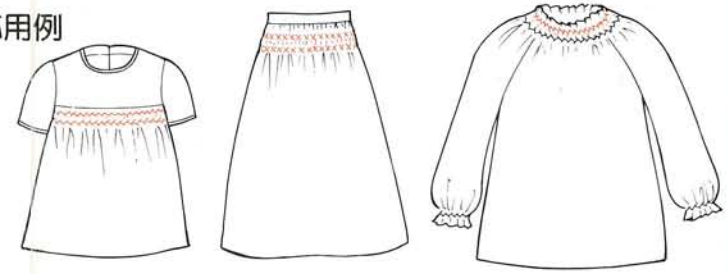
②送りの調節



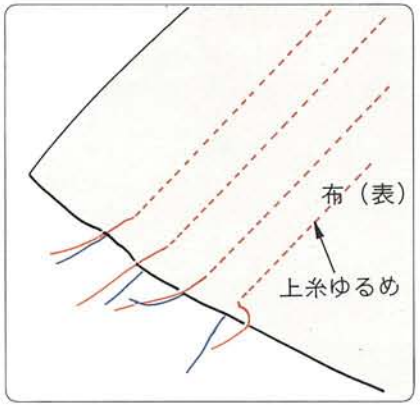
送り調節ダイヤルを回し、自動に合わせます。

③ドロップフィード

応用例

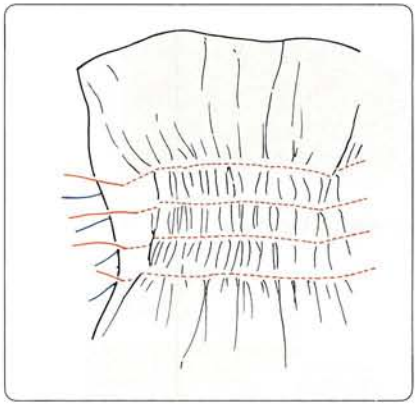


●縫い方

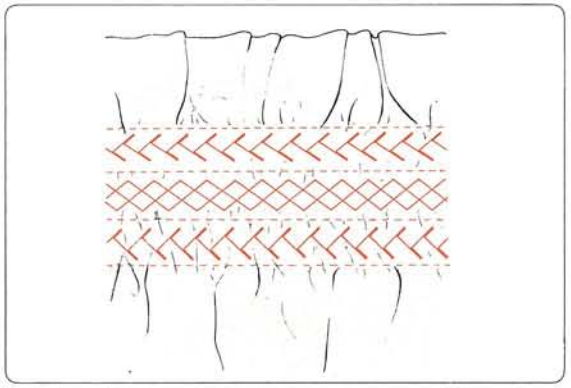


①上糸の調子を弱くして、約1センチの間隔に数本、縫い目の長さ4にして直線縫いをします。

※2本目からは棒定規を使いますと等間隔にきれいに縫えます。(52ページ参照)



②下糸だけを一方から引っぱってギャザーを平均によせ、アイロンで軽く、ギャザーを押えます。

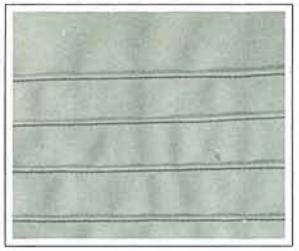


③好みの模様ステッチを選び、ジグザグ押えに替えて直線縫いの間を縫います。

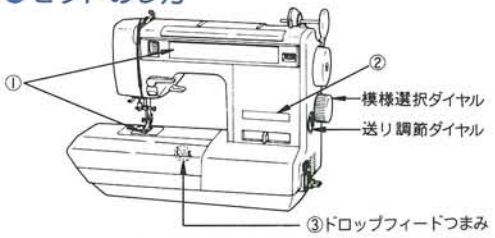
④ギャザーを寄せた直線縫いの糸を抜きとります。

ピンタック

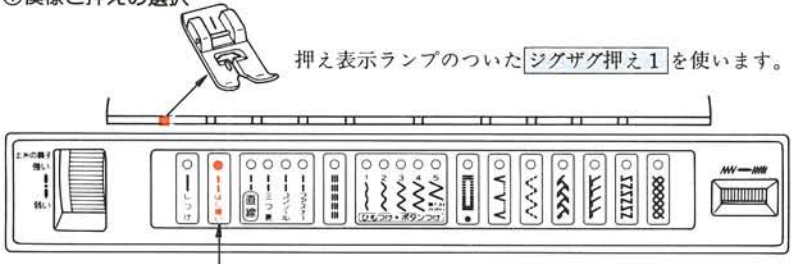
布地を一定のごく細い間隔をおいてつまみ、その折り山の0.1〜0.2センチのところを縫う装飾的な方法です。



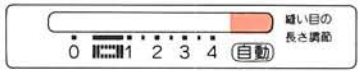
●セットのし方



①模様と押えの選択



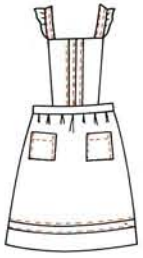
②送りの調節



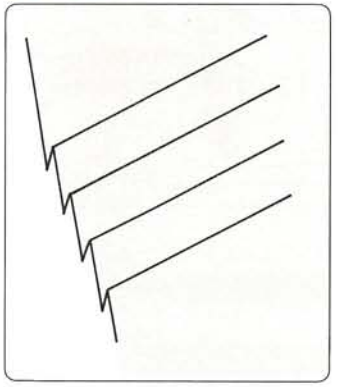
送り調節ダイヤルを回し、自動 に合わせます。

③ドロップフィード

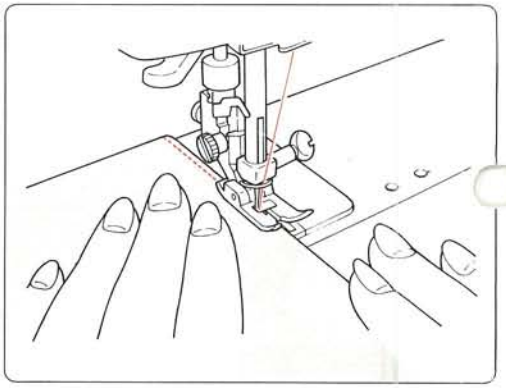
応用例



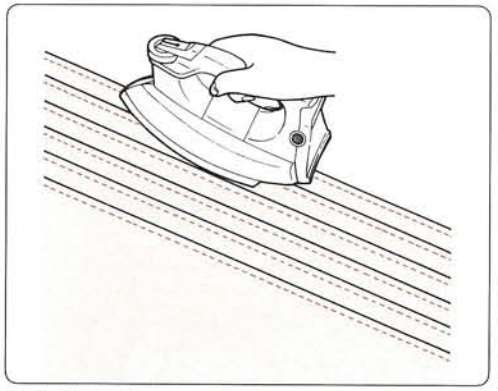
●縫い方



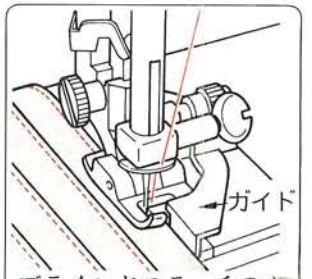
①ピンタックの折り山をアイロンできっちり折り整えます。



②糸案内みぞに折り山を合わせて、折り山を伸ばさないように縫います。



③全部縫い終ったら片返しにして、アイロンをかけ整えます。

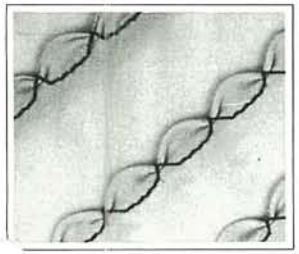


ブラインドステッチのガイドを利用すると、まっすぐきれいに縫えます。

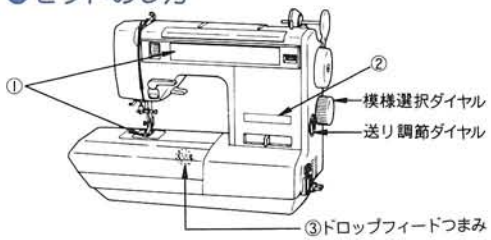
※ピンタックを全部縫い終りましたらもう一度型紙を当て、しるしを正確につけ直します。

シェルタック

ブラインドステッチを使って貝がら状のひだをとったもので、子供服、ブラウスなどの一部にあしらうと変わりピンタック風でとてもしゃれています。薄い布地に最適です。



●セットのし方

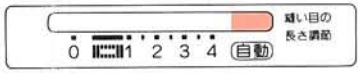


①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた ブラインドステッチ押え9 を使います。

模様選択ダイヤルを回し、ブラインドステッチに合わせます。

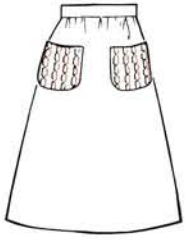
②送りの調節



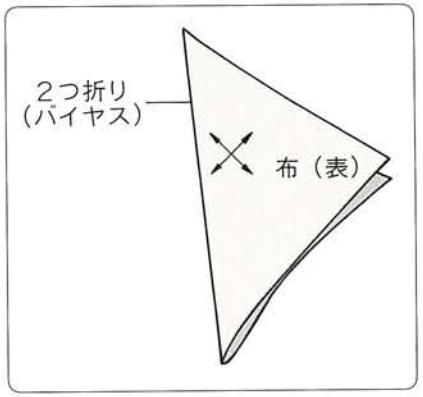
送り調節ダイヤルを回し、自動 に合わせます。

③ドロップフィード

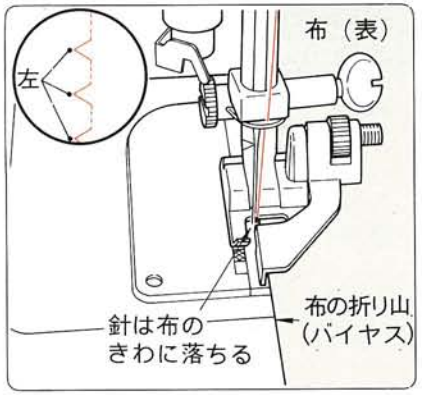
応用例



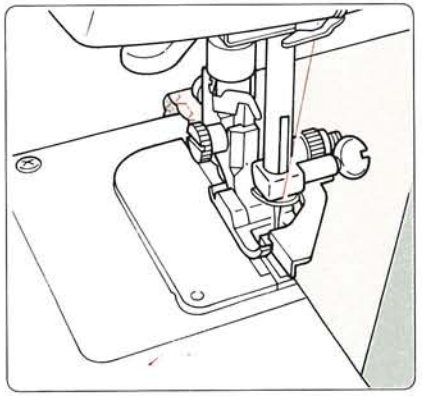
●縫い方



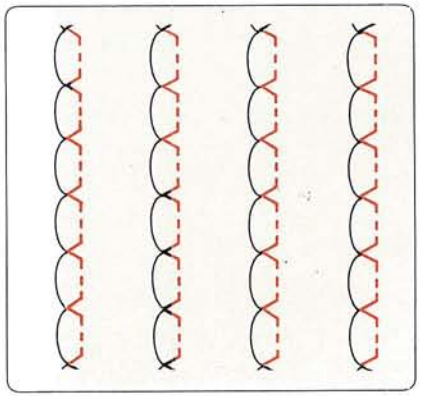
①布地はバイヤスに折ります。シェルタックを縫うときは布地を押えの左側に置かないで、右側に持ってくる点が他の縫い方の大きい違いです。



②針を左に振っておき布地の折り山を針に合わせてセットします。



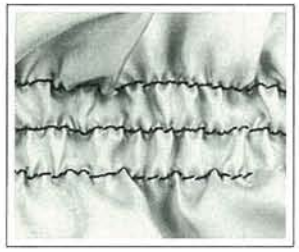
③糸調子は少し強めにします。
弱いと布地の山が絞られません。



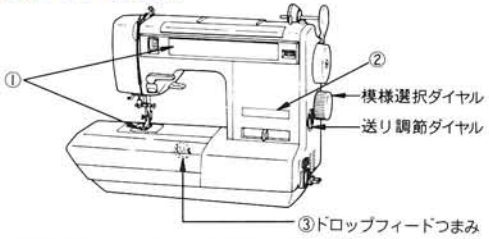
④布地の折り山を開いて、ひだをアイロンで片返しにします。

シャーリング

下糸にゴムミシン糸を使ってギャザーを寄せる方法です。スモックブラウス、ワンピースなどの一部に応用します。

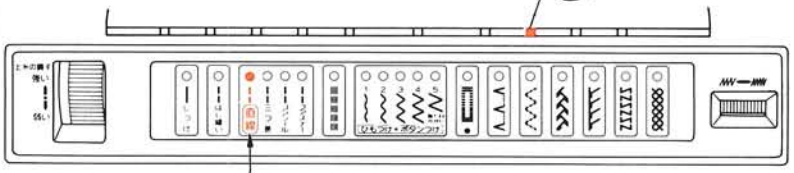


●セットのし方



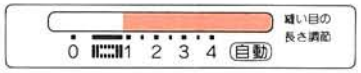
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた直線押え2を使います。



模様選択ダイヤルを回し、直線に合わせます。

②送りの調節

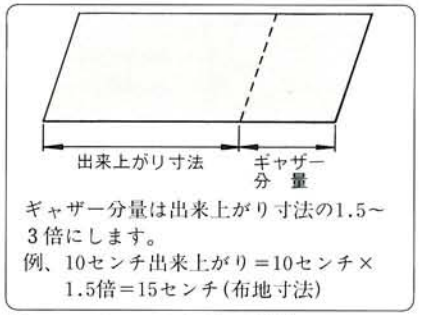


送り調節ダイヤルを回し、1～4または自動の目盛を選びます。

③ドロップフィード

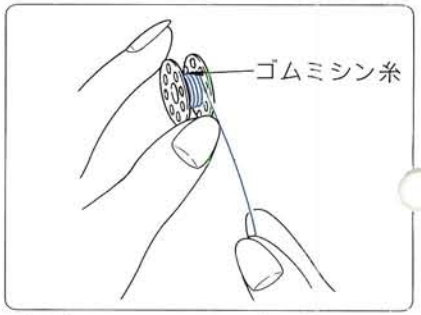
●送りが大きいと縫い目の荒い大きなギャザーになり，送りが小さいと縫い目のこまかい小さなギャザーになります。

●縫い方

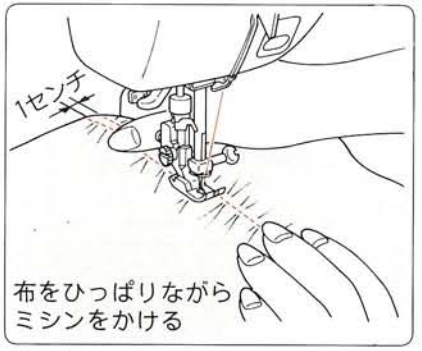


ギャザー分量は出来上がり寸法の1.5～3倍にします。
例、10センチ出来上がり＝10センチ×1.5倍＝15センチ(布地寸法)

①シャーリングは布地の材質によりその分量を決めますが、おおよその目安は薄手の木綿、ジャージー、ウールは1.5倍。薄手のジョーゼット、ローンは2～2.5倍です。

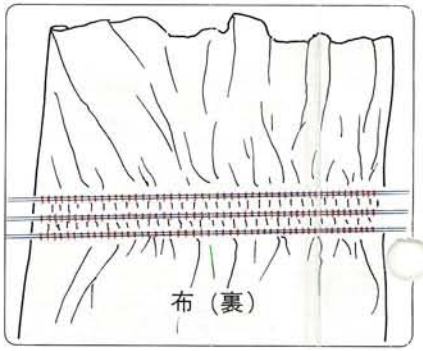


②下糸にはゴムミシン糸を使います。ボビンには平らに手で巻くかミシンの下糸巻きで巻きとります。
下糸がゆるいとゴムミシン糸が出すぎて、うまくギャザーが寄りません。糸調子はよく試縫いして決めます。



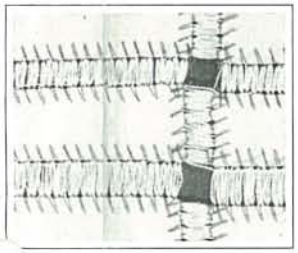
布をひっぱりながらミシンをかける

③1本目は普通に縫えますが、2本目からは布地を引っぱりながら縫います。間隔があまり狭いと縫いにくいので最低1センチはあけます。

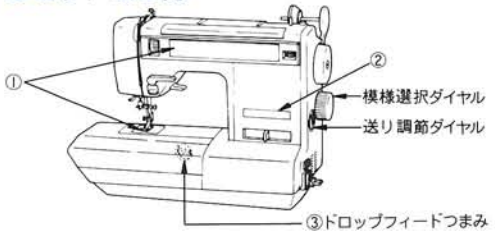


④縫い始めと縫い終りは7～8センチ糸をつけておき、それぞれ上糸を裏側に引き出して、ゴムミシン糸(下糸)と一緒に結びます。

平織りの布地のたて糸やよこ糸を好みの幅に抜きとり、残った織り糸で、すかし模様を作る手芸です。ブラウス、テーブルクロス、枕カバー、エプロンなどに応用すると優雅な作品になります。

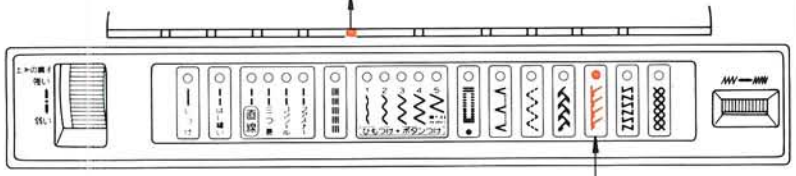


●セットのし方



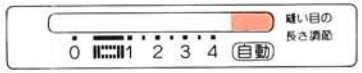
①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた 裁ち目かがり 押え5 を使います。



模様選択ダイヤルを回し、裁ち目かがりに合わせます。

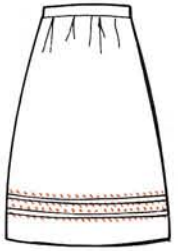
②送りの調節



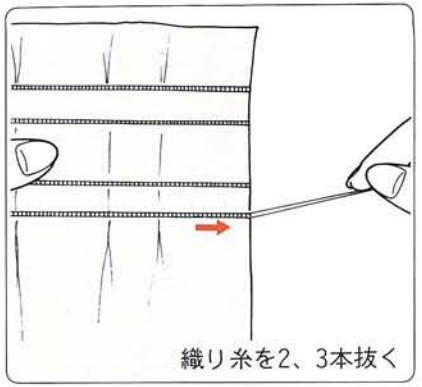
送り調節ダイヤルを回し、自動 に合わせます。

③ドロップフィード

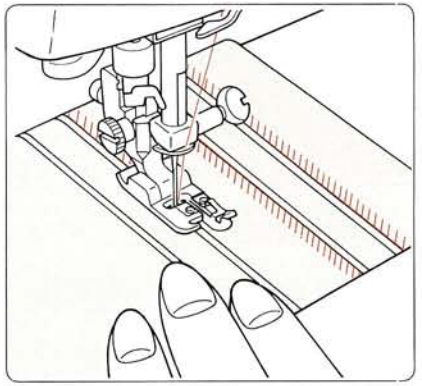
応用例



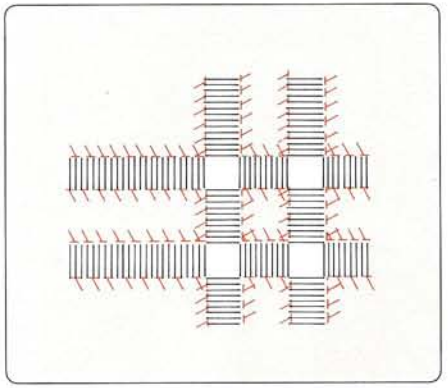
●縫い方



①ドロンワークする部分の両端の織り糸を2、3本抜きとります。



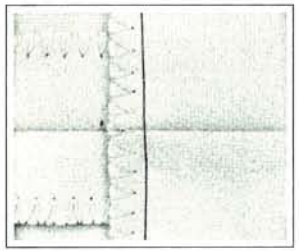
②織り糸を抜きとったきわに直線縫いになる位置を正確に合わせて縫います。
③もう一方も同じ方法で縫います。



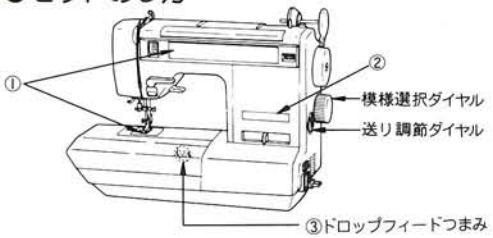
④ドロンワークする部分の織り糸を全部抜きとります。

しつけ縫い

ミシンによるしつけ縫いは、布地に対して針が垂直に落ちるため、重ね合わせて縫うときに布地がずれることなくしつけができます。

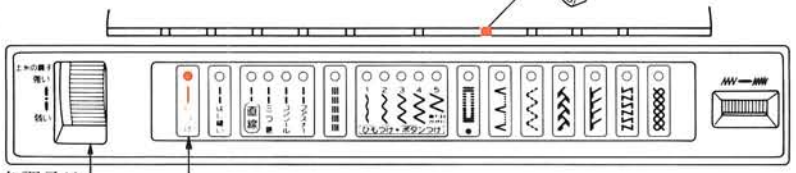


●セットのし方

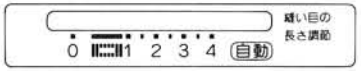


①模様と押えの選択

押え表示ランプのついた しつけ押え7 を使います。



②送りの調節



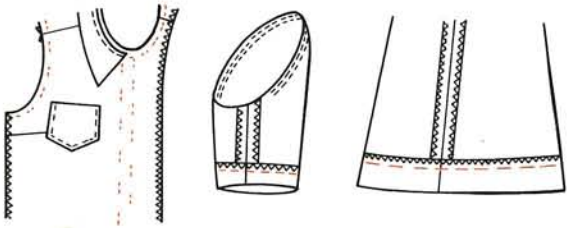
※布は送らないため、指標はどこにあってもかまいません。

③ドロップフィード

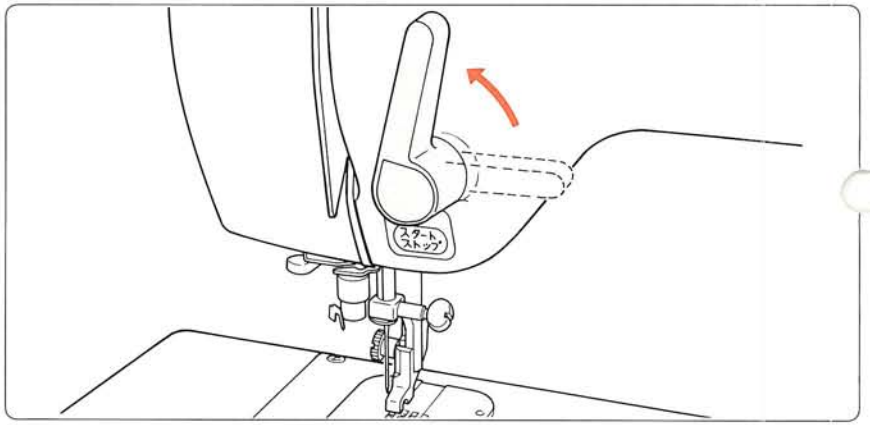
※布は送りません。

※押え調節つまみはふつうに合わせます。

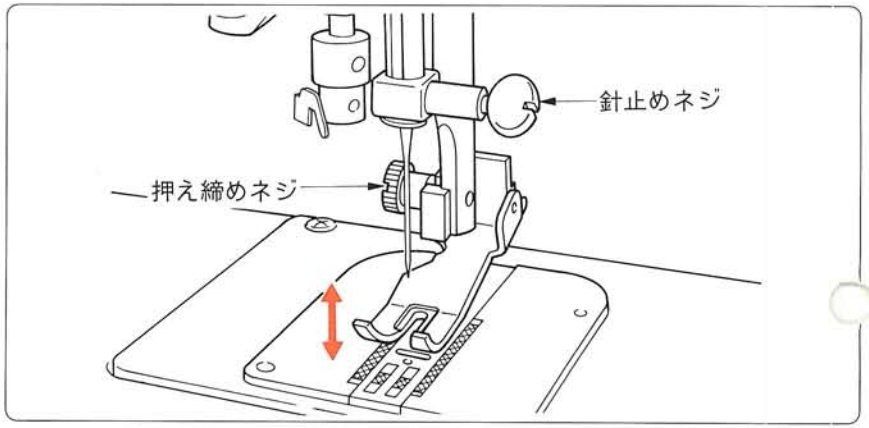
応用例



●しつけ押えのとりつけ方



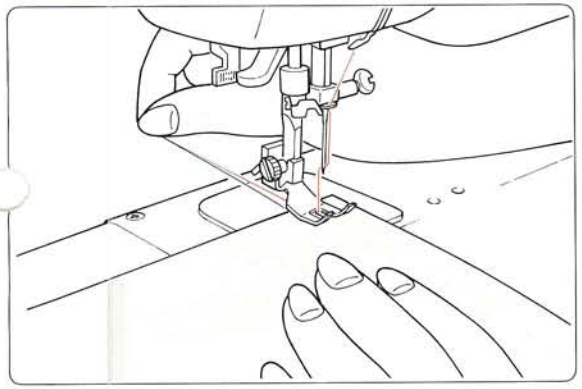
①押え上げレバーで押えをあげます。



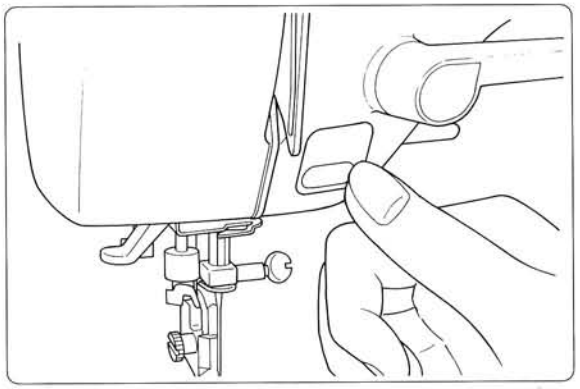
②押え締めネジをゆるめて押えをはずし、しつけ押えを図のように押え棒にとりつけ、押え締めネジでしっかりしめつけます。

●縫い方

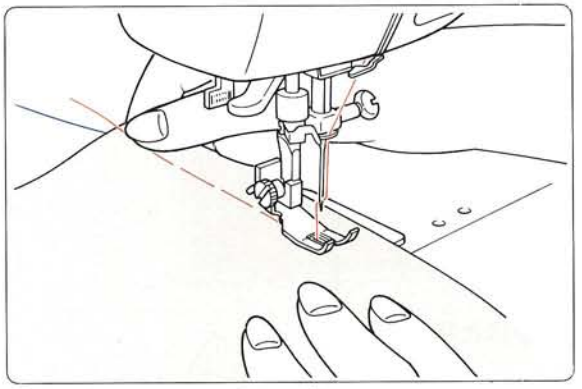
(1)しつけ……縫う間隔は1.5～3センチが適当です。縫い始めと終りには1～2針、小針にするとしっかり縫い止められます。



①布地の縫い始めの部分をしつけ押えの下におき、押え上げレバーをさげて押えをおろします。上下の糸を向こう側にひきそろえて、糸を手で持って縫い始めます。

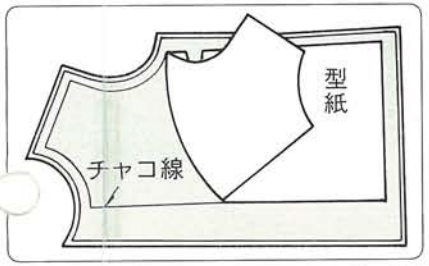


②スタート・ストップボタンを一度押し、一針縫います。

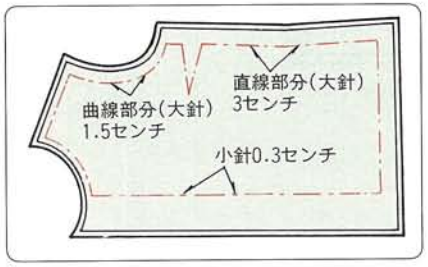


③針が止まってから布地を送ります。
上下の糸を布地の表裏から手で押えて必要な縫い目の長さだけ布地を向こう側に手で送ります。さらに、②と③の動作をくり返します。

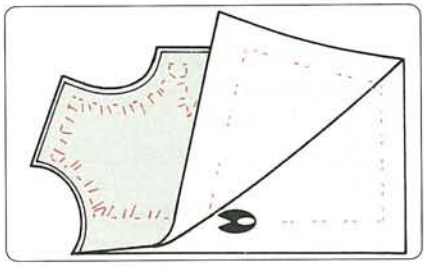
(2)切りじつけ



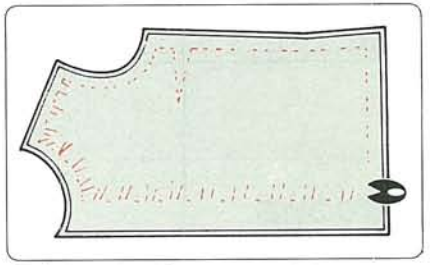
①布地を裁断し、チャコでしるしをつけます。



②布地を両手で前後に張って1針小針にし、1針長くして縫います。角のところはたるませます。(ボタンの位置、ポケットつけ位置などは型紙の上から縫います。)

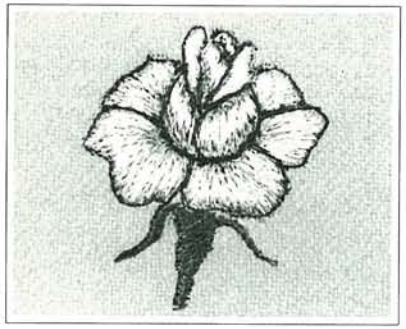


③大針にした長い糸の部分を表裏ともにハサミで切り、2枚の布地を引きはなし、間をハサミをねかせて切ります。

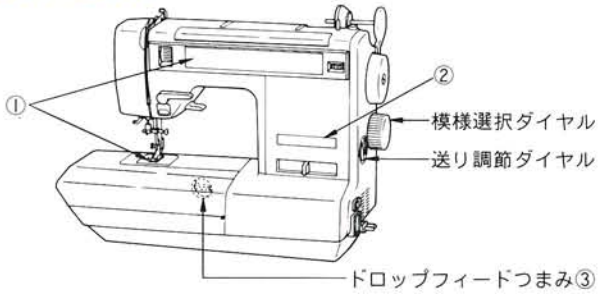


④表裏の長い糸はハサミをねかせて0.3～0.5センチ程度残し、短く切ってアイロンで押えて仕上げます。

※切りじつけは毛織物、レース、絹織物などヘラやルレットの使用できない布地に用い、糸は50番カタン糸のシルケット加工された糸が適します。
※布地は中表にして裁断します。ミシンの針目が残ると困るものはさけます。

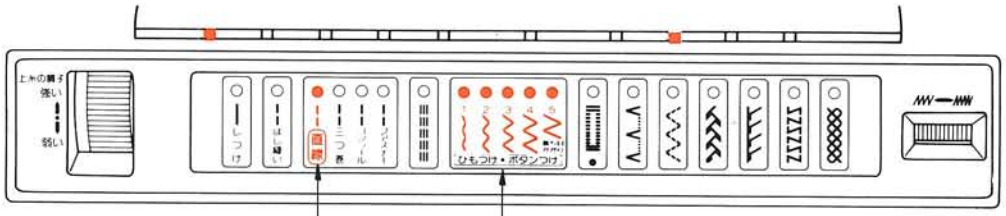


●セットのし方



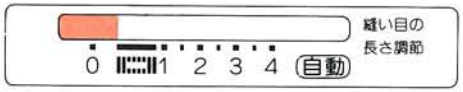
①模様と押えの選択

押えは付属品袋の中に入っている ししゅう押え を使います。



模様選択ダイヤルを回し、直線またはジグザグに合わせます。
※市販のししゅう枠を使います。

②送りの調節



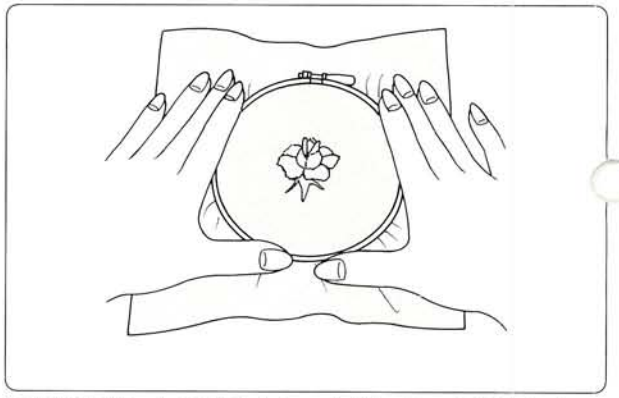
布は送らないため、指標はどこにあってもかまいません。

※押え調節つまみを弱に合わせます。

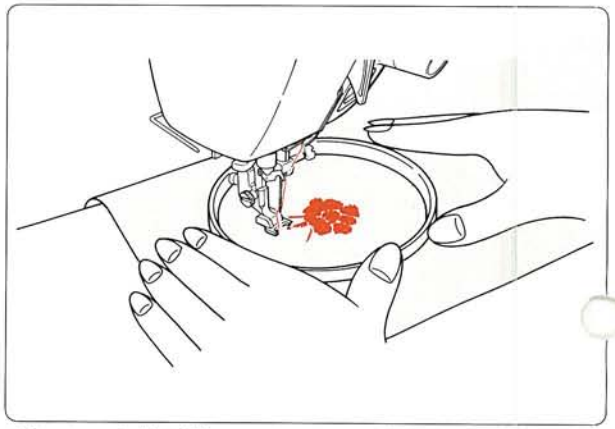
③ドロップフィード

※布は送りません

●縫い方

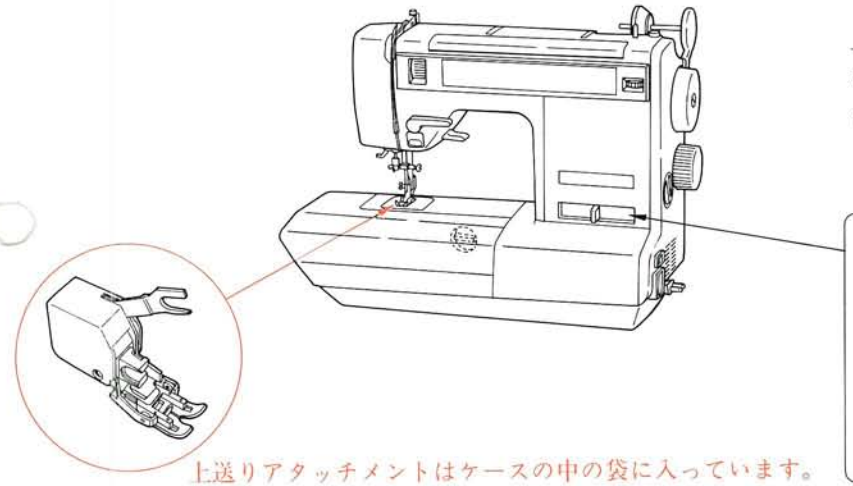


①図案を描いた布地をししゅう枠にピンと張ります。



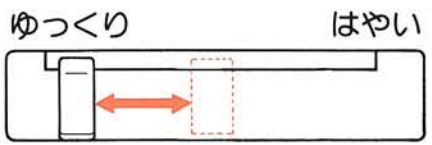
②ししゅう枠を押えの下に入れ、縫い始めの位置に針を当てます。

③下糸を布地の上に引き出してから、両手でししゅう枠を押えながら図案にそって枠を動かします。このときししゅう枠を浮かせないようにします。



上送りにはニット、ジャージーなど伸縮性のある布地から、サテン、ビニールのようなすべすべしているもの、皮のような素材まで、一般にミシンで送りにくいといわれているものに使います。滑らかな送りで布ズレを防止し、きれいな縫い上がりになります。

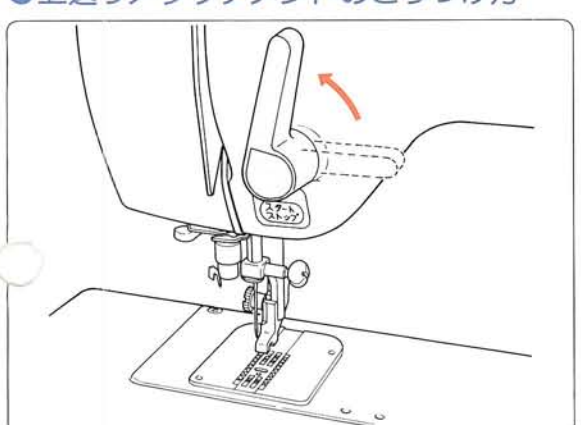
縫い速度



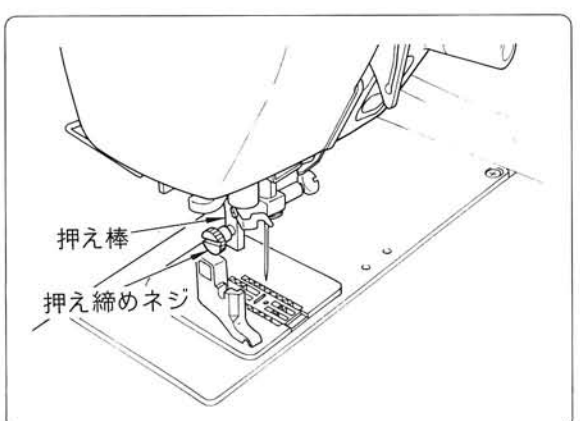
縫い速度調節レバー

縫いスピードは中速以下で縫います。

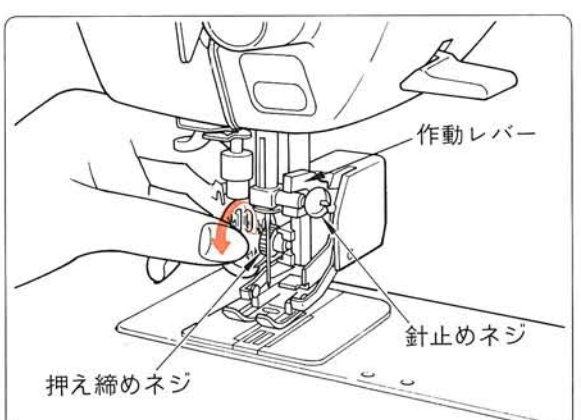
●上送りアタッチメントのとりつけ方



①押え棒をあげます。



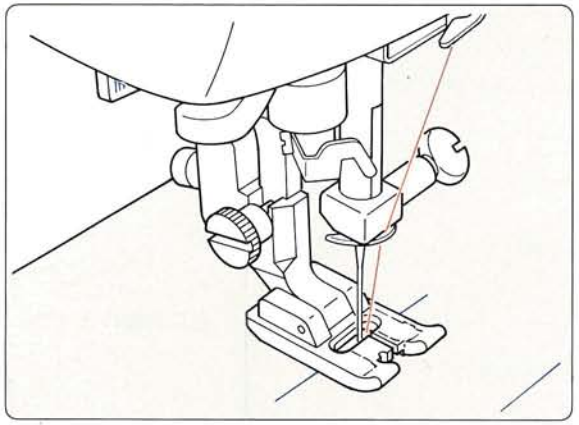
②押え締めネジをはずして押え全体を取りはずします。



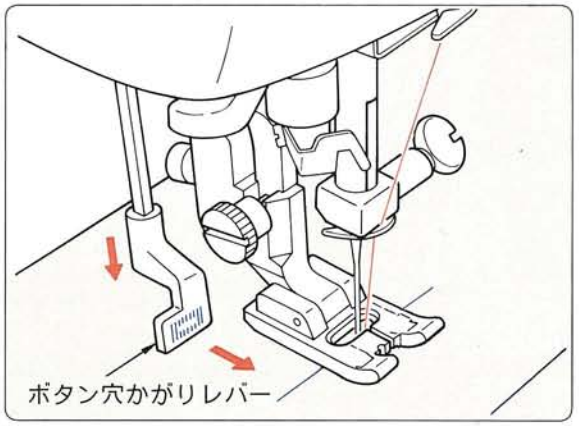
③作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめ込み、押え締めネジをコインでしっかりしめます。

縫い代の重なっている部分の ボタン穴かがり

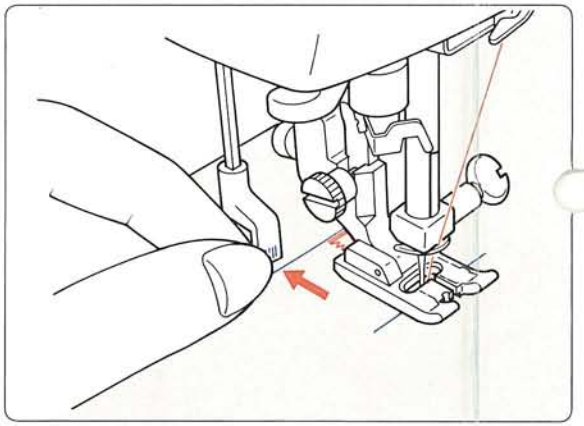
●縫い方——押えは付属品袋の中に入っている透明ボタン穴かがり押えを使い、模様選択ダイヤルを回し、ボタン穴かがりに合わせます。



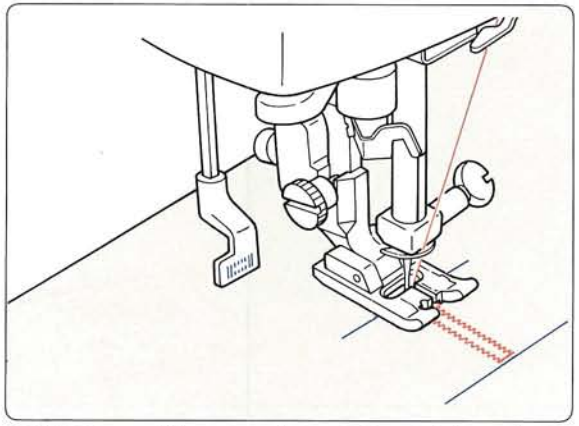
①布にボタン穴かがりの目印をつけます。目印の縫い始めの部分に針を落とし、押えをさげます。



②ボタン穴かがりレバーを下におろし、手前に引いてステッチパネルにスタートランプ(赤)がつくのをたしかめて縫い始めます。



③目印の終わりに針がきたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に押します。



④右側縫いが最初のカン止めに重なったとき、スタートストップボタンを押してミシンを止めます。

●ご注意

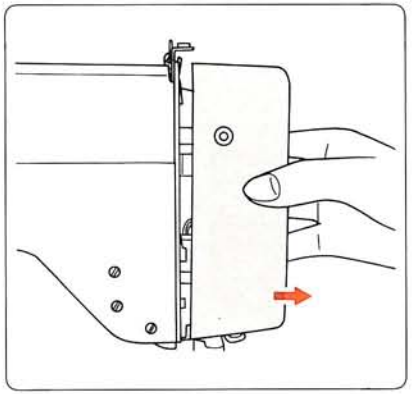
※②～③の間に布の重ね部などでボタン穴かがりレバーが押し返されますと、その場所でカン止めしてしまい、必要な長さになりませんので、布などがレバーに触れないように注意します。

※③～④の間にボタン穴かがりレバーが少しでも手前に押されますと、自動的にミシンが止まります。もし、布や手がレバーに触れ、ミシンが止まってしまったときはもう一度スタート・ストップボタンを押せば、縫い続けることができます。

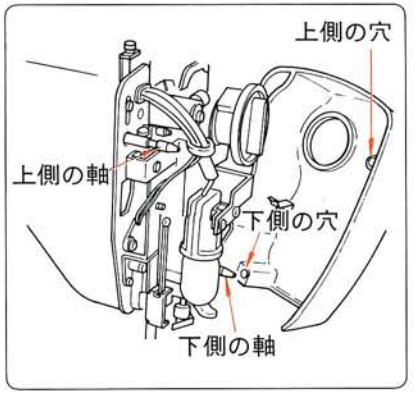
※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸が切れたりした場合はミシンを止めて、糸を針からぬいて最初のカン止めの位置まで空縫いをして、最初の位置にもどして改めて縫います。

●面部カバーの開け方と閉め方 ――下糸巻調整、ランプ交換、万一上糸のからんだときなどは面部カバーを開けます。

①面部カバーの後ろにある止めネジをコインを使って約2回ゆるめます。

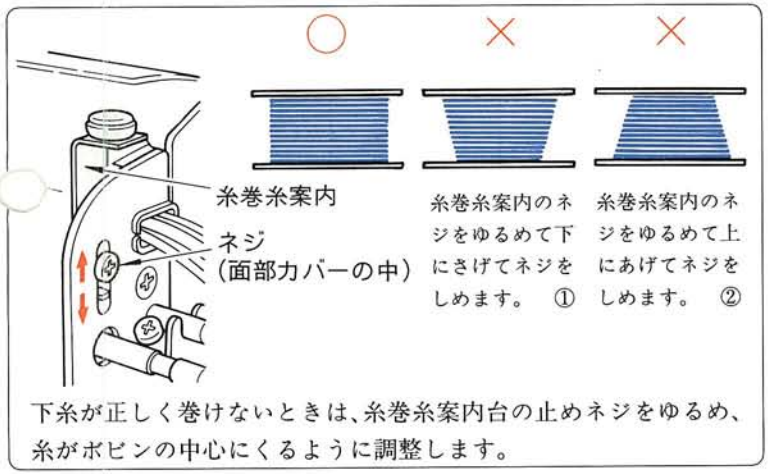


②止めネジをゆるめ終ったら、面部カバーを横にまっすぐ抜きます。



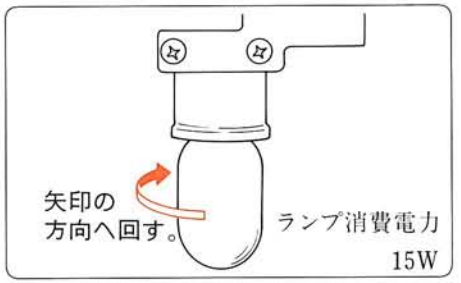
③閉めるときは面部カバーの2つの穴と、本体にある2つの軸を合わせて閉めます。そのとき下側の穴と軸を先に合わせて閉めますと簡単に閉まります。最後に止めネジをしめます。

●下糸巻き調整



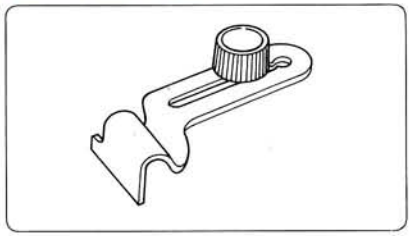
下糸が正しく巻けないときは、糸巻糸案内台の止めネジをゆるめ、糸がボビンの中心にくるように調整します。

●ランプの交換のし方

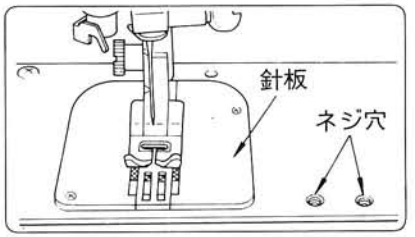


ランプが切れたときは、弊社サービスセンター、または支店でお買い求めいただき、交換します。
※交換するときは電源を切ります。

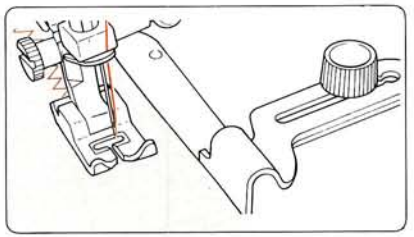
●定規の使い方



①布地の右端を一定の間隔にあけて縫う場合に使います。直線縫いだけでなくジグザグ縫いにも利用できます。

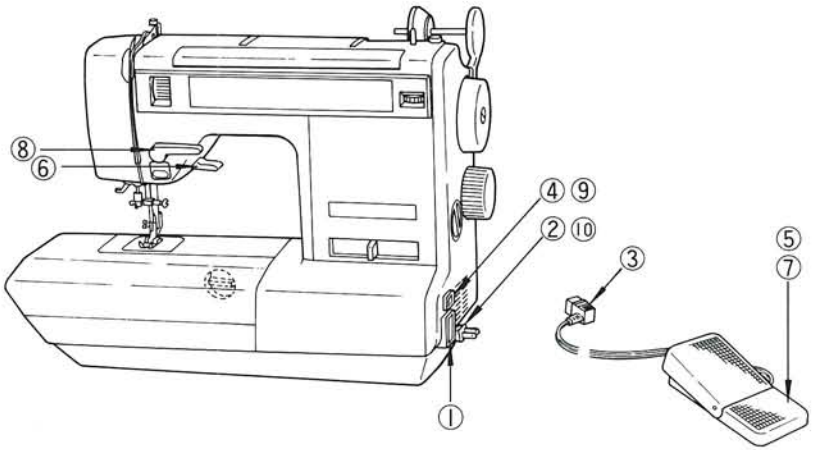


②針板の右側のベッド面に2つのネジ穴がありますので、ここに希望する間隔をあけて定規をネジで止めます。

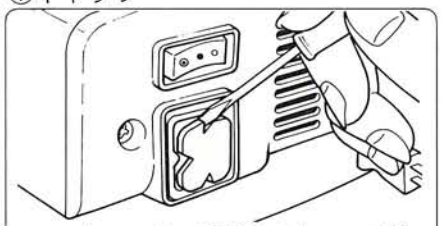


③布地の端に定規が当るようにして縫います。

コントローラーを使ったときのミシンの動かし方

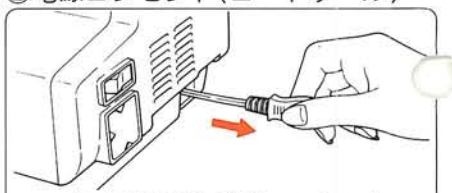


①キャップ



コントローラー受け口のキャップをドライバー(小)ではずします。

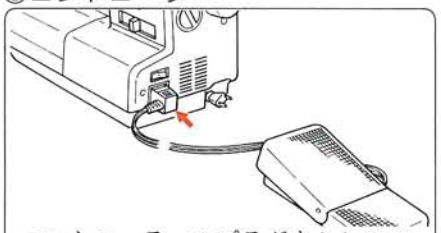
②電源コンセント(コードリール)



コードを引き出し電源コンセントへ差し込みます。

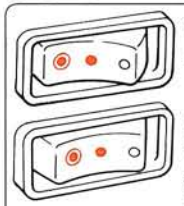
黄の帯まで引き出し、赤の帯以上は引き出しません。

③コントローラー



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。

④電源ランプスイッチ

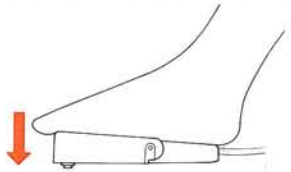


電源ランプスイッチ◉を押すとランプがつきミシンも使用できます。

3段階スイッチですのでスイッチを中間の位置にすると、ランプのみが消えます。

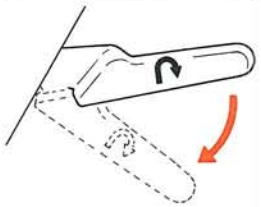
※コントローラーを使うときは、スタート・ストップボタンと縫い速度調節レバーは使えません。

⑤スタート



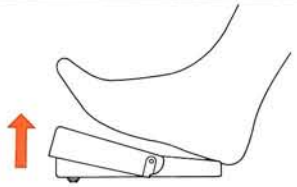
コントローラーを踏みますと、踏み込み量により、「ゆっくり」から「はやい」まで無段階に調節できます。

⑥返し縫い



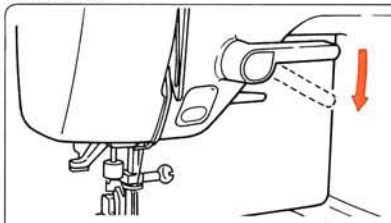
返し縫いレバーをさげます。レバーから手をはなすと普通縫いになります。

⑦ストップ



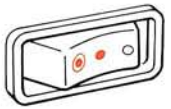
コントローラーを離しますと、針は布に入ったままで止まります。

⑧糸切り



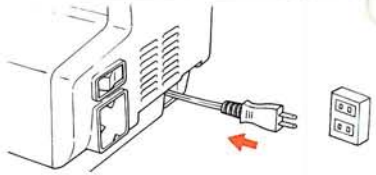
糸切りレバーをさげると、上糸と下糸が切れて針は上で止まります。

⑨縫い終了



電源スイッチの○を押し電源を切ります。

⑩収納



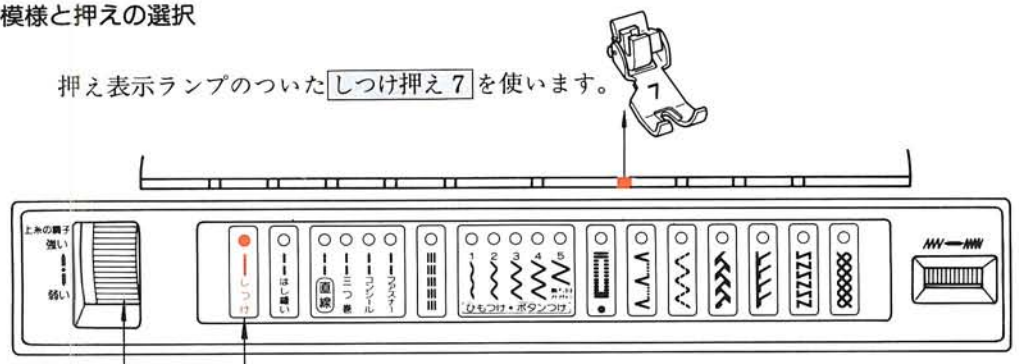
コードリールを少しひっぱり手をはなしますと、自動的にコードが巻かれます。コントローラーは付属品入れに入れておきます。

※ミシンを使用していないときは電源を切っておきます。
※針が押えにあたりモーターの音だけして、ミシンが動かないときは電源を切ります。

●セットのし方 (しつけ押えのとりつけ方は60ページに詳しくかいてあります。)

①模様と押えの選択

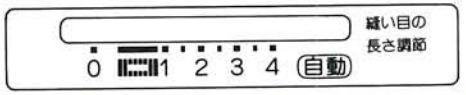
押え表示ランプのついた しつけ押え 7 を使います。



※糸調子は0〜2にします。

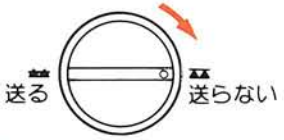
模様選択ダイヤルを回し、しつけに合わせます。

②送りの調節



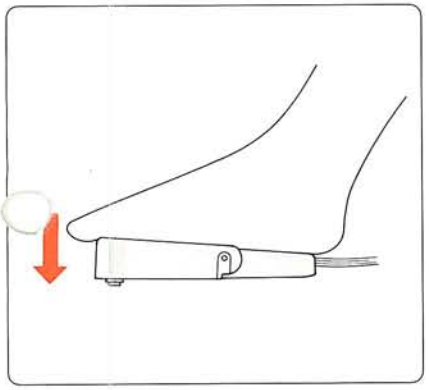
※布は送らないため指標はどこにあってもかまいません。

③ドロップフィード

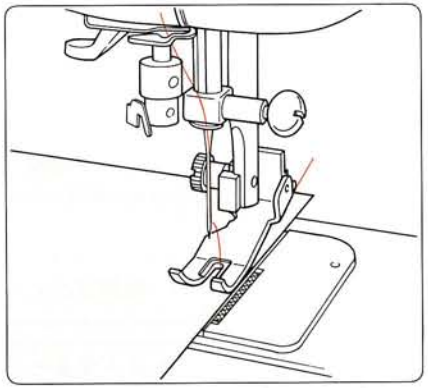


※布は送りません。

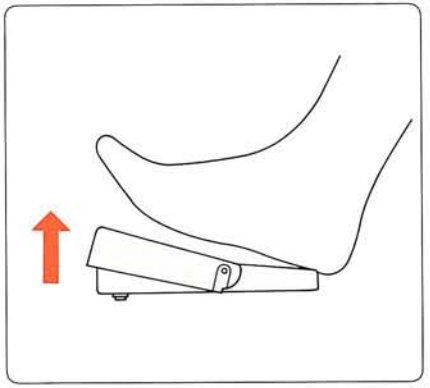
●コントローラー使用時のしつけ縫い…①から④の動作をくり返します。



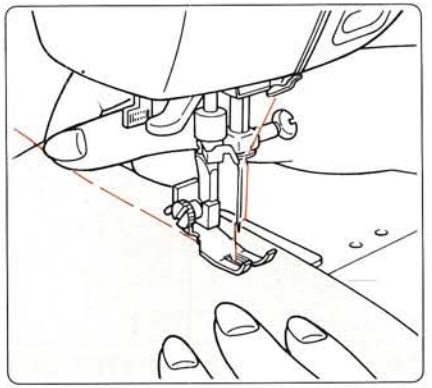
①コントローラーを下まで踏みこみます。



②針は一針縫って上で止まります。



③コントローラーから足をはなします。

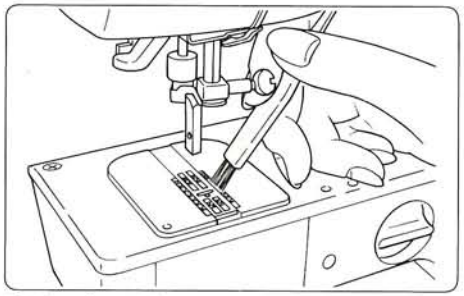


④針が止ったら布を手で送ります。

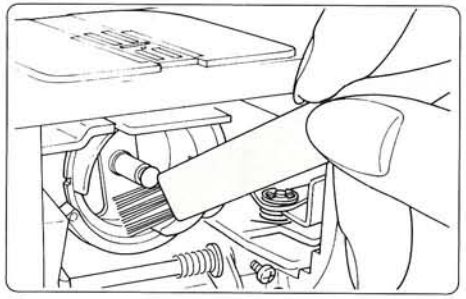
※コントローラー使用時は、スタート・ストップボタンは作動しません。
※縫い方は60ページと同じですが、スタート・ストップボタンを使うところをコントローラーでやります。

※お手入れをする時は必ず電源を切ります。

●掃除のし方



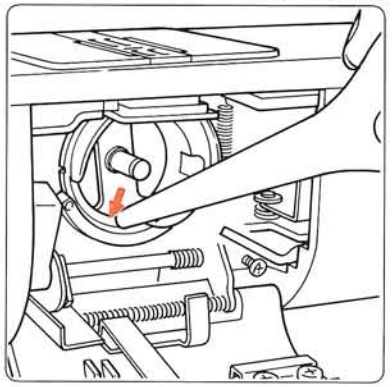
①送り歯と針板の間に糸くずやほこりがたまりますといろいろな故障の原因になる場合がありますので常にきれいにしておきます。針や押えをはずしてドロップフィードつまみを(▲▲)に回し、通常は付属品の掃除用ブラシを使います。糸くずやほこりがたくさんたまってしまったときは掃除機で吸いこむようにするときれいになります。



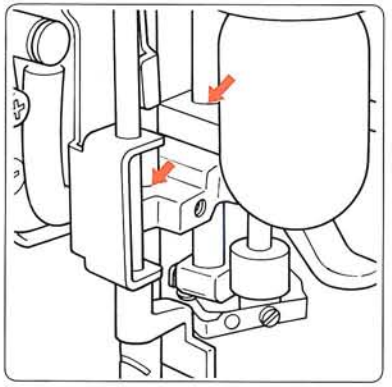
②かまカバーを開けます。かま周辺に糸くずやほこりがたまりますといろいろな故障の原因になりますので掃除用ブラシやピンセットなどで常にきれいにしておきます。

●注油のし方

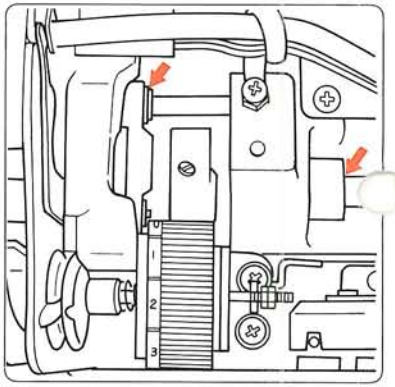
このミシンは特殊軸受けを採用していますので、普通にご使用の場合は注油の必要はありませんが、特に長時間ご使用の場合と長い期間使わなかった場合は、下図の箇所に注油します。



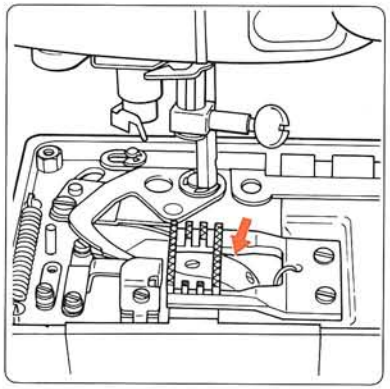
①かまカバーを開け、ボビンケースをはずしてかまに注油します。



②面部カバーを開けて、矢印のところへ注油します。

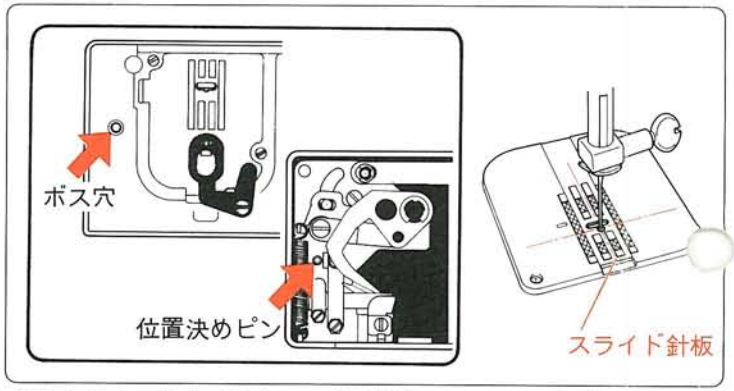


③アームカバーをはずして注油します。アームカバーは上に持ちあげて左にずらしながらあけます。



④針板台をはずします。針板台は模様選択ダイヤルをまわして直線縫いにしてから、2本のネジをゆるめてはずします。

●針板台のセット方法



針板台をセットするときは、模様選択ダイヤルを直線に合わせてから、メス取付台の位置決めピンに針板台のボス穴をはめ込むようにします。(ダイヤルをジグザグに合わせてみてスライド針板が作動することをたしかめます。作動しないときはセットしなおします。)

下記のような故障が生じた場合は、もう一度使用説明書でたしかめます。 ●掃除、点検するときは必ず電源を切ります。

故　障	原　因	修理の方法	ページ
上糸が切れる場合	①糸のかけ方がまちがっているとき。	糸をかける順序を調べてかけ直します。	10～11
	②糸にこぶや結び目があるとき。	糸をとりかえます。	
	③上糸の調子が強すぎるとき。	布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べて強すぎないように糸調子を合わせます。	15
	④針がまがっているか、針先がつぶれているとき。	針をとりかえます。	16
	⑤針の穴にキズがあったり、針の取りつけ方をまちがえたとき。	針を正しくとりつけます。	16
	⑥針と糸の太さがあっていないとき。	布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べます。	15
	⑦ボビンケースがかまにしっかり差し込まれていないとき。	ボビンケースをかまに確実に差し込みます。	9
下糸が切れる場合	①ボビンケースの糸の通し方がまちがっているとき。	ボビンをボビンケースに入れる方法を調べます。	9
	②ボビンが不良でボビンケースの中でよく回らないとき。	下糸の巻き方を調べます。	8
	③下糸を巻きすぎ、ボビンからはみだしているとき。	下糸の巻き方を調べます。	8
	④ボビンケースがかまにしっかり差し込まれていないとき。	ボビンケースをかまに確実に差し込みます。	9
針が折れる場合	①細い針で厚物を縫ったり、細い針に太い糸を使用したとき。	布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べます。	15
	②針のとりつけ方がまちがっているときや、まがった針を使用したとき。	針についてを調べます。	16
	③針止めネジのしめ方が弱いとき。	針止めネジをドライバーでしめます。	16
縫い目がとぶ場合	①針がまがっていたり、針先がつぶれているとき。	針の検査をします。まがっているときは針をかえます。	16
	②針棒に針を正しくとりつけていないとき。	針のとりつけ方を調べます。	16
	③針が糸にくらべて太すぎるとき。	布地、ミシン糸、ミシン針の関係をよく調べます。	15

（次のページにつづきます。）

故　　障	原　　因	修　理　の　方　法	ページ
縫い目にしわができる場合	①上糸と下糸の調子が強すぎるとき。 ②薄物に対して縫い目が大きいとき。 ③ボビンに下糸が平均に巻かれていないとき。 ④針先がいたんでいるとき。	布地、ミシン糸、ミシン針の関係を調べます。 縫い目を小さくします。 下糸の巻き方を調べます。 針をとりかえます。	15 8 16
縫い目に輪ができる場合	①上糸と下糸の調子が弱すぎるとき。	下糸は下糸巻き調整を調べます。 上糸は布地、ミシン糸、ミシン針の関係を調べます。	65 15
布を送らない場合	①送り歯が出ていない。 ②縫い目の長さが0になっているとき。 ③押え圧力が弱いとき。	ドロップフィードつまみを「送る」に合わせます。 送り調節ダイヤルを動かして調節します。 押え調節つまみをふつうか強にします。	3 15 15
回転が重い、または音が高い場合	①送り歯にゴミがたまっているとき。 ②長時間使用して油がなくなったとき。 ③ミシン油でない油を使用したとき。 ④かまに糸クズがたまっているとき。	ミシンの手入れを調べます。 ミシンの手入れを調べます。 ジューキミシン油を使います。 ミシンの手入れを調べます。	68 68 68
スタート・ストップボタンを押しても針が動かない場合	①糸巻き軸が右側に倒されているとき。	糸巻き軸を左いっぱいまでもどします。	8
上糸がからんで面部から糸が引きだせない場合	①糸切れにより天びんやその他の部品に糸がからんでいるとき。	面部カバーを開け、からみついた糸をとりのぞきます。	65

修理サービスのご案内

●この家庭用ミシンのご購入者には、お買い上げ店(保証責任者)から1年間の無料修理保証書が発行されています。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
●修理サービスは無料修理期間内、および期間経過後も原則として、お買い上げ店、またはお近くの弊社支店、サービスセンターが承りますので、ご相談ください。
●修理サービスについて、ご不審の点がある場合は、同梱のジューキサービス網をご覧の上、弊社支店、サービスセンター、または本社お客様相談室へお申し越しください。

修理用部品の保有期間

●交換修理に必要な動力伝達機能部品、および縫製機能部品は、通常、お買い上げの日から8年間を基準にして弊社において保有しております。
●修理部品は必要に応じて、販売店等に供給できるよう体制を整えております。

無料修理期間経過後の修理サービス

●使用説明書に基いてご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過していても、修理用部品の保有期間中は有料でサービスいたします。ただし、次に該当する場合は有料でも修理できない場合がありますので、お買い上げ店、または弊社支店、サービスセンターにご相談ください。
①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
②浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
④お買い上げ店、および弊社支店、サービスセーター以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は、修理によっても元通りに修理できないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店、あるいは弊社が別に定める技術料の合計額になります。

※お買い上げ店、または弊社支店、サービスセンターが行った保証、サービスについて、ご不審があった場合は次へお尋ねください。

東京重機工業株式会社 家庭製品販売部お客様相談室
東京都新宿区歌舞伎町1丁目23番3号　電話 03-205-1180

MeMo

本　　社　〒182 東京都調布市国領町８丁目２番地―１
電話（480）1111(大代表)
家庭製品販売部　〒160 東京都新宿区歌舞伎町１丁目23番３号
電話（205）１１８０～６

JF Printed in Japan (T)